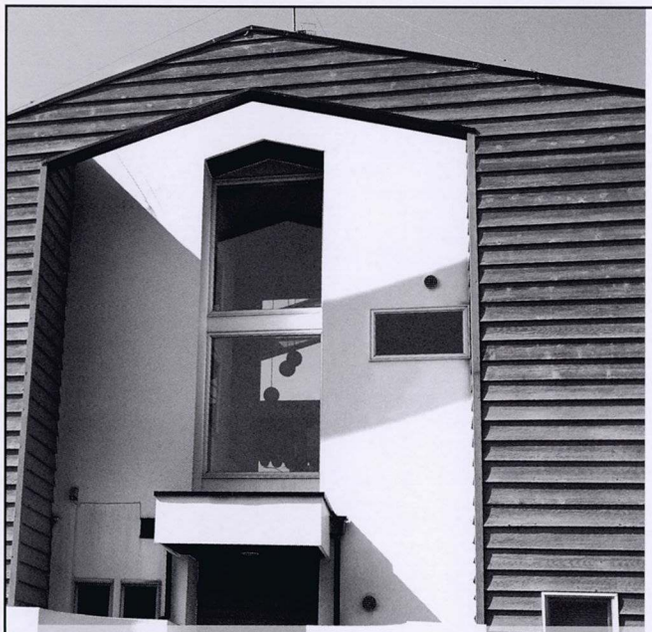
2009 1



Architecture and Society
建築と社会

特集/私の空間作法―会員作品―
京阪電車 中之島線―新線が拓く中之島新時代―

日本建築協会



WILL WALL

家が「木」となり、やがて街が「森」になる。
いずれ誰もが振り返る「ビンテージハウス」のために、
そして未来に残す「街並み」のために。
各種取り揃えた天然木のサイディング、パネリング。

「環境」と「安全」の両立を天然木で実現した商品ラインナップです。



WILL ROOF

柿葺（こけらぶき）、檜皮葺（きわだぶき）－日本にも
「木の屋根」はありました。
エイジングの美しさを屋根で表す、
建築の外観にまたひとつ新しい可能性が誕生です。

防火性能を持つ「ウイルウォール」と、未処理材の「ナチュレウォール」。目的・用途によって使い分けが可能です。

天然木に防火機能を加えた認定商品「ウイルウォール」。

それに対して薬剤処理をしていない米杉サイディングが「ナチュレウォール」です。

どちらも厳選された天然木をベースとしています。

防火規制延焼ラインの有無によっての使い分けが可能です。

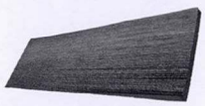
■商品特製事項
ウイルウォール／防火・耐火処理済み商品
ナチュレウォール／未防火処理商品（防火認定を取得していません。）

■ウイルウォールでの各認定事項
ハイパー防火構造認定、ハイパー準防火構造認定、防火構造認定、準防火構造認定、
準耐火構造60分認定、準耐火構造45分認定、不燃材料認定、準不燃材料認定

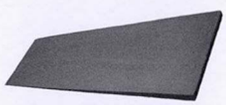
※各商品によって認定事項が異なります。

防火地域・準防火地域でも使用可能な「木の屋根材」－それがウイルルーフです。

ウイルルーフは100%天然木の屋根材です。「飛び火」試験に合格し、
国土交通省認定を取得しました。
（建築基準法63条・施行令第136条-2-2の規定に適合）
これにより防火地域・準防火地域においても「木の屋根材」を使うことが可能です。
またエクステリア用に広く使われているウエスタンレッドシダーを基材としているため、
優れた防腐性能・耐久性能も発揮されます。
「見せる、天然木の屋根」－自然素材住宅・環境住宅にまたひとつ、
新しい可能性が誕生です。



Handsplit
ハンドスプリット
手斧で割いた自然の風合いが特徴。



Tapersawn
テーパーソーン
スクエアに整形されたシャープな味わい。

ウイル製品だからできる、4つの約束。

- 万一の火災でも 燃え広がらない、燃え移さない。
- 100%天然木使用。本物の空間が実現できる。
- 長期メンテナンスが、長寿命住宅を可能にする。
- 木製パネルそのものが、防火性能を持つ。

資料請求・製品のお問い合わせは

CHANNEL ORIGINAL
チャネルオリジナル株式会社
〒231-0015　神奈川県横浜市中区尾上町4-54　IMAXビル9F　Tel.045-662-0088　Fax.045-662-6001
www.channel-o.co.jp

2009年を迎えて

社団法人 日本建築協会 会長　中井　進

あけましておめでとうございます。

昨年2008年は後半に大きな景気変動が世界を襲い、建築界においても改定建築士法が発効し、また、大きな再編成・枠組みの変更が始まりつつあるようです。この情況の中、それぞれの立場で新しい地平を目指して模索が続いていますが、今まさに“建築を通じて社会に貢献する”ことの意味が問われ、その重要性がいよいよ増しつつあるのではないでしょうか。

日本建築協会は今年93年目を迎えます。創立・大正6年以来、100年に近づく伝統の中で、建築にかかわるいろいろな人々が“建築を通じて社会に貢献する”ことをめざして活動を続けてきたことは、とても重要で意義のあることだと思います。この歴史を新しい世代にどのように受け継ぎ展開してゆくかが、現在求められています。

本年2009年は、日本建築協会のベースである、建築にかかわるあらゆる立場の個人・団体のいわばサロンであることをいかして、若い会員の活力を集め、歴史と伝統を活用する活動を、引き続き力強くすすめていきたいと考えています。

まず、100周年を射程に入れたいくつかの企画を実行していきます。10年委員会では既に学生対象の“建築の現場”シリーズを実行し、更に大阪の魅力ある場所を再生することをめざした連続企画の準備に入っています。また、25年前に刊行した「関西の建築家50」に続くものとして、建築・環境を切り口に関西を中心とする現代の建築にかかわる群像をクローズアップする企画、関西の近代建築を概観する本格的な資料ともなる企画なども計画進行中です。もちろん、事業委員会、教育委員会、出版委員会、編集委員会、建材委員会でも従来のものを中心にいろいろな事業を計画しています。新しい動きにぜひ若い会員の積極的な参加をお願いしたいと思います。私も30代半ば頃、上記「関西の建築家50」の企画に参加し、かけがえのないものが得られたと思っています。インタビューを通じていろいろな方に会うことができたし、作品を通じて学習もでき、同世代の委員との特別な関係もつくることができました。協会は会員に開かれています。ぜひこの機会を活用して活動に参加して頂きたいと思います。

繰り返しになりますが、本年は、100年をめざし、次の100年につなぐ第一歩の年と位置づけ、建築協会ならではの企画を実行していきます。ぜひとも会員の皆様の活発な議論を賜りたいと考えます。

本年が会員の皆様にとってすばらしい年となりますよう、共に努力していきたいと思います。よりいっそうのご協力を重ねてお願いいたします。

日本建築協会・常設委員会

本年の抱負

編集委員会

100年周へ向けて、社会と建築協会をつなぐ活動の継続

編集委員長
設楽　貞樹

皆さん、新年あけましておめでとうございます。日本建築協会はあと８年で創立100周年を迎えます。編集委員会では2007年の90周年以降、来るべき100周年に向けて“10年委員会”を立ち上げ、当協会の理念である“建築を通して社会に貢献する”ことができる活動を、継続して行うことを検討してきました。
昨年11月にその最初として、教育機関と実務現場をつなぐ役割を当協会が担う目的で第１回「建築の現場」見学会を開催し、多数の学生の参加を得て成功裡に終わりました。今年はもうひとつの企画「大阪ええとこそうせい（創生）プロジェクト」を始動させる年になります。このプロジェクトは、大阪府立大学の橋爪先生を審査委員長にむかえ、大阪のまちの中にある、普段見過ごされそうな、それでいて魅力ある“ええとこ”を再発見することに始まり、そこをもっとよくするアイデア募集等々と活動を次々展開させていくプロジェクトになります。会員の方々だけでなく、一般の方にも応募いただけるような企画として継続させていきますので、ご協力をお願いする次第です。

出版委員会

童心に戻って

出版委員長
上原　正行

本を読むのって、楽しいね
どうしてだろう
いろいろな世界に連れて行ってくれるから。
大昔へ……宇宙へ……（中略）
またいろいろな人とも出会えちゃう。
発明家、詩人、アスリート。……
あたたかい心、あつい心に励まされる。
――これは小学校２年生の文章である。
残念ながら「建築家」はまだまだか？
私は建築科３年生のとき、映画「摩天楼」を見て、建築家を目指して良かったと感激したものだ。
本であれ、映像であれ、強く心打つものは永く憶えられる。
ところが　当世　学生諸子はパソコンを駆使し情報を選び出す。だからレポートを見ていると、同じ解答によく出くわす。味気ない。ところが体験に基づく答えだと、うれしくなる。かつて花形だった工学部の志願者が激減し、「理工系離れ」が加速している。団塊世代の退職と技能の継承は建設業界でも大きな課題。各企業は、先輩後輩の触れ合いを通じノウハウを伝授しているという。
今年も紋切り型でなくユニークなノウハウを探したいと思う。

教育委員会

企画の再検討と深化

教育委員長
山形　政昭

社会の変化のなかで、建築には様々な負の状況が進行している時代、……この逆風に抗して、あらためて「建築」の重要さ、とりわけ文化的な環境創造について問いかけたいものです。
一方、大学では少子化による全入時代に入り、多様なタイプの学生が建築を目指して来ているように感じます。そこでは建築を一から知るという学生も多く、建築の魅力を発見し、建築の広く深い世界を知るという目的意識を培うことがまず求められています。その一方では実務につながる（役立つ）教科の充実という動向もあり、学生ならびに教員の負担も重くなっているようです。
そうした変化のなかで、独自事業として好評を得ているデザインコンクール、実務講習会を継続しながら、内容を再検討し深めてゆきたいと思っております。様々なご意見、ご提案をお寄せください。

事業委員会

世界経済の激変の中で

事業委員長
瀬戸川　葆

建築を取り巻く環境の激変、昨年ほど大きかった年はありませんでした。米国サブプライム・ローンに端を発した金融危機は、経済活動のすべてを縮小させ、景気後退を余儀なくさせています。また一昨年の建築基準法の改正に伴う諸制度の変更。建築物が計画されてから竣工するまでの期間が長くなりました。結果として、日本の国民のために良かったかどうか評価がいまだ定まってはおりません。年金支払い日に警察官がATMの前で警戒しているにもかかわらず、振り込め詐欺が多数発生しています。これを見て、日本人は何と騙されやすい人間が多いのか、考えさせられます。建築に関係する事件として、古くから欠陥住宅の問題、基礎の不同沈下、雨漏りがあります。シックハウス材料やアスベスト材料の使用、構造計算書の偽造、確認済証・検査済証・認定書等の公文書の偽造問題、施工の手抜き……数え出したら切りがありません。建築物の日照、工事騒音、景観等の問題で近隣との争いも増えています。
事業委員会の企画として、新機軸のテーマを発掘できないか検討して参りたいと思っています。昨年と同様に、４件の見学会を企画したいと思っております。

建材委員会

より多くの建材の紹介を！

建材委員長
松原　徹雄

「アメリカのサブプライムローンに端を発した金融危機の影響で、世界的に景気が後退し、日本経済も厳しい局面に入った。輸出の伸び悩みや、原材料高による収益の圧迫、個人消費の低迷等、景気後退色が一段と鮮明になっている。住宅着工戸数も前年に比べると回復したものの、建築費高騰で販売価格が高止まるなかで、不動産を買い控える動きが続いている」と連日報道されています。しばらく厳しい状況が続きそうです。
さて、昨年は、シスターコートより幅広い温度に対応できる断熱塗料「ガイナ（GAINA）」をご紹介しました。本年もできる限り多くの建材を紹介していきたいと考えております。

武庫川女子大学 建築学科・大学院 建築学専攻スタジオ見学会

この見学会は、建築CPD情報提供制度認定プログラムです。
（社）大阪府建築士会（2単位）
（社）日本建築家協会（2単位）

●建築概要

所在地	兵庫県西宮市戸崎町1-13
所有者	学校法人 武庫川学院
設計	日建設計 大阪
施工	株式会社竹中工務店
敷地面積	35,626㎡
建築面積	3,872㎡
延床面積	7,560㎡
構造規模	PCaPC、RC、S造、3F
竣工	2007年（平成19年）4月
建物用途	大学

平成20年3月の「甲子園会館」見学会に引き続き、今回は、同じく武庫川女子大学の建築スタジオを見学します。
建築スタジオは、隣接する甲子園会館と水平の庇やボーダータイルといったエッセンスを共通に持ち、軽快で開放的なものを目指しています。
システマティックなPCによる柱・床版による骨格と、ボーダータイル張のRC耐震要素、これらをアーティキュレーションよくデザインすることで、ロングスパンとシャープなディテールがもたらす緊張感を同時実現でき、構造躯体をそのままあらわしでつくり上げています。
講評室を核に、ガラス張りのスタジオ群や教員室が取り巻き、人・空間・外部の自然やランドスケープまでもがアトリウムという「へそ」を中心につながり、積層する構成となっています。
環境面ではプレクールヒート、自然換気、蓄熱と居住域空調、温度差利用＋ファンによる対流で快適性を実現しました。また、ダクトワークや空調機を見せるガラス張りの機械室など、学生たちが設備の大切さを日常から感じ取れるように仕掛けています。
虚飾のない質実剛健なディテールを徹底。「最高の生きた教材」のために、手塩にかけて美しくデザインし、「ものづくり」の手垢がはっきりと残るような建築となっています。

（川島克也、岡田耕治）

日　時　2009年2月14日（土）
14：00〜16：00
（13：30より受付開始）
講　師　川島克也氏
（㈱日建設計設計部門代表）
岡田耕治氏
（㈱日建設計設計部門設計主管）
集　合　現地／甲子園会館正門
定　員　40名（申込先着順）
参加費　会員1,500円、一般2,500円
学生は各半額
申込方法　FAXまたはEメールで、
①催し名「武庫川女子大学」
②氏名
③会員・一般の種別
④職場名または学校名
⑤参加証送付先
⑥連絡先電話番号
⑦CPDを申請される方は、申請先の団体名を明記の上、下記へお申込み下さい。
申込先　㈳日本建築協会編集事業課
TEL.06-6946-6981
FAX.06-6946-6984
E-mail:jigyoka@aaj.or.jp



大阪「かくれたええとこ」再発見コンクール

あなたが「もっと知ってほしい」「もっとよくしたい」と思う大阪市内のおもろい場所やけったいな風景を写真にとって応募してください。

■大阪「ええとこ」そうせい（創生）プロジェクトとは

社団法人日本建築協会は、2017年に創立100周年を迎えます。その記念事業のひとつとして「大阪ええとこそうせいプロジェクト」を企画しました。このプロジェクトは、普段見過ごされそうなまちの資源を発掘し、“こうしたらもっとよくなる”“もっといきいきする”等のアイデアを2017年まで様々なテーマで募集することにより、まちづくりや町おこし、賑わい作りに役立てていくことを目的とします。今回の大阪「かくれたええとこ」再発見コンクールはその第1弾です。

※評細については、1月上旬にチラシを配布し、併せて当協会のホームページに掲載いたします。



「日本建築協会80年史1917-1996」

増刷頒布中　頒価　3,000円

1999年7月に発刊した「日本建築協会80年史1917-1996」は、各方面から好評をいただいておりますが、このたび、皆様の強いご要望により、増刷・頒布することにいたしました。大正6年3月30日に関西建築協会として誕生した日本建築協会の80年の歴史を、様々な事業や委員会活動を通じて、また、本会設立者の片岡安、武田五一以降現在までの会員たちの社会活動を通して知ることができる記念誌として、A4判・240頁にまとめています。

とくに、協会草創期の大正・昭和初期の片岡安ら協会のメンバーと当時の大阪市長・関　一との交流を物語る一文は、大阪の都市計画史、あるいは関西の建築人物誌ともなっています。本会の歴史を知るだけでなく、建築を通して、それぞれの時代の雰囲気を身近に感じることができる大変貴重な資料となるものです。

購入ご希望のかたは、下記要領でお申し込み下さい。

＊

申 込 先　社団法人 日本建築協会
〒540-6591　大阪市中央区大手前1-7-31
大阪マーチャンダイズ・マートビル7階B室
TEL 06-6946-6981　FAX 06-6946-6984

頒　　価　1部3,000円(税・送料込み)

※増刷部数には限りがございますので、お早めにお申し込み下さい。

「日本建築協会80年史」

A4判・240頁・並製本

●日本建築協会の沿革／委員会活動／「建築と社会」の変遷／大正時代から現在までの本会主催の博覧会・展覧会・講演会／よろず相談住宅展／青年建築家・青年技術者顕彰／工高生デザインコンクール入選者etc.

●日本建築協会創立者と会を支えた38人のプロフィール（片岡　安・設楽貞雄・武田五一・池田　實・波江悌夫・竹腰健造・尾崎久助・東畑謙三・塚本猛次・福田朝生・佐野正一・葛野壯一郎・横濱　勉・松本禹象・宗　兵蔵・園部文雄・日高　胖・野村一郎・古宇田　實・松室重光・松井貴太郎・安井武雄・中澤誠一郎・坂　靜雄・今林彦太郎・井上新二・松本儀八・池田宮彦・錢高輝之・中西六郎・大林芳郎・鴻池藤一・伊東五郎・竹中錬一・鷲尾健三・松村雄吉・横尾義貫・足立　孝）

●座談会「戦中から戦後初期の協会活動」―尾亀清四郎・大林芳郎・小西　岬・佐野正一・横尾義貫・三品哲夫の6氏による終戦前後の協会活動の証言―

＊

■執筆ワーキンググループ
坂本勝比古／安達英俊／石田潤一郎／植松清志／梅宮弘光／桐浴邦夫／酒井一光／橋寺知子／山形政昭／吉田高子／和田康由

■80年史編纂委員会
長谷部朔郎／安達英俊／近藤達夫／谷淳之介／十倉　毅／原見昌志／和田康由／吉田悦二



「日本建築協会の遺産と功績」（坂本勝比古）より



「草創期の人々」より片岡安の項

建築と社会

Architecture and Society
2009
No.1042
1
日本建築協会

■特集予告
2月号／水の都 賑わいある未来に向けて
3月号／東海支部特集

編集委員会（平成20年度）
■副会長
井上　豊
松村　孝治
■編集担当理事
上原　正行
木戸　徹
佐藤　栄一
佐藤友美子
○設楽　貞樹
竹中　統一
立成　良三
松村　孝夫
吉村　英祐
■特集小委員会
■計画分科会
★計画系
△飯田　匡
飯沼　清明
鈴木　克彦
田中　慎治
田中　直人
紅谷　昇平
松田奈緒子
三宅　次郎
守井　辰
吉村　英祐
★建築計画系
安部　新二
荒木　宏之
江副　敏史
奥村　朋孝
菅野　忠司
神戸　嘉也
木多　彩子
△楠　敦士
小林　優子
所　千夏
野田　隆史
枇杷　健一
松森　織江
★インテリア・住宅系
阿部　泰浩
加藤　力
神谷　浩司
黒柳　亮
高野　直樹
田中　浩介
戸井賢一郎
ベリー史子
本山　仁
■構造分科会
秋田　智
岸本　光平
志摩　好宣
瀧野　敦夫
鶴田　潤
中塚　光一
難波　尚
△房安　智也
松村　健
向井　洋一
矢野　勇二
■設備分科会
△赤澤　正治
梶井　宏修
河井　康人
北野　勝也
谷野　太志
夏井　重行
福谷　周
桝井　貴廣
村上幸三郎
山下　修
渡邊　裕之
■施工材料分科会
桜井　和男
下迫　力
平田　茂良
藤丸　啓一
△山岡　篤人
吉田　正友
■法令分科会
伊賀　誠
片岡　正和
金本　忠義
河野　学
坂本　智生
△谷本　和子
中迫　悟志
文山　達昭
■作品作風小委員会
○居内　章夫
池上　明
稲垣　和江
井上　雅祐
岩佐　進
加嶋　章博
倉渕奈千子
澤田　純一
戸川　勝之
納野　淳司
豊田　充広
鳥居　久人
長堀　晃治
西田　佳代
芳谷　晴彦
増田　敬彦
山田　俊紀
■広告企画小委員会
上田　訓将
宇城　英彦
江本　孝弘
○虎谷　伸幸
○前田　衛
南澤　浩司
森川　幸信
■10年委員会
赤木　隆
川上比奈子
熊田　将男
河野　浩司
齋藤　幸代
菅原　幸也
中村　文紀
○前川　治彦
○委員長　○副委員長　△幹事

印　刷　2008年12月20日
発　行　2009年1月1日
発行人　社団法人日本建築協会
発行所　社団法人日本建築協会
大阪市中央区大手前1-7-31
電　話　06-6946-6981
振替口座　00910-9-39975
印刷所　㈱NPCコーポレーション
定　価　1200円〔税込〕

Journal of the Architectural Association of Japan

特集　私の空間作法—会員作品—

Three Boxes●森村政悦 — 14
杉素材でつくる中庭のある家●久保清一 — 15
都市の相家（あいや）・・二世帯居住の家●本多友常 — 16
グランドライン●岡崎善久 — 17
都市・自然・すまい●田中啓文 — 18
みんなのいえ●徳岡浩二 — 19
空間の強度と幾何学●早崎伸一＋池井健＋平尾和洋 — 20
北島の家—地域の持つ力、土地・素材・伝統構法を生かす—
●新居照和&ヴァサンティ — 21
蓮の団居（まどい）●中尾勝悦 — 22
医療空間の蘇生●池上　明 — 23
キッチンから多方面に庭が見える家●吉村篤一＋建築環境研究所 — 24
ワンボックスな家●稲垣元宣・稲垣和江 — 25
不連続統一の団地（個性と環境が調和するまち）●岸　一 — 26
イオンレイクタウンのリフレッシュ空間—五感を活用したユニバーサルデザイン
●田中直人（摂南大学）＋老田智美（NATS環境デザインネットワーク） — 27
二度目の住まい創り　その後…●河南重雄 — 28

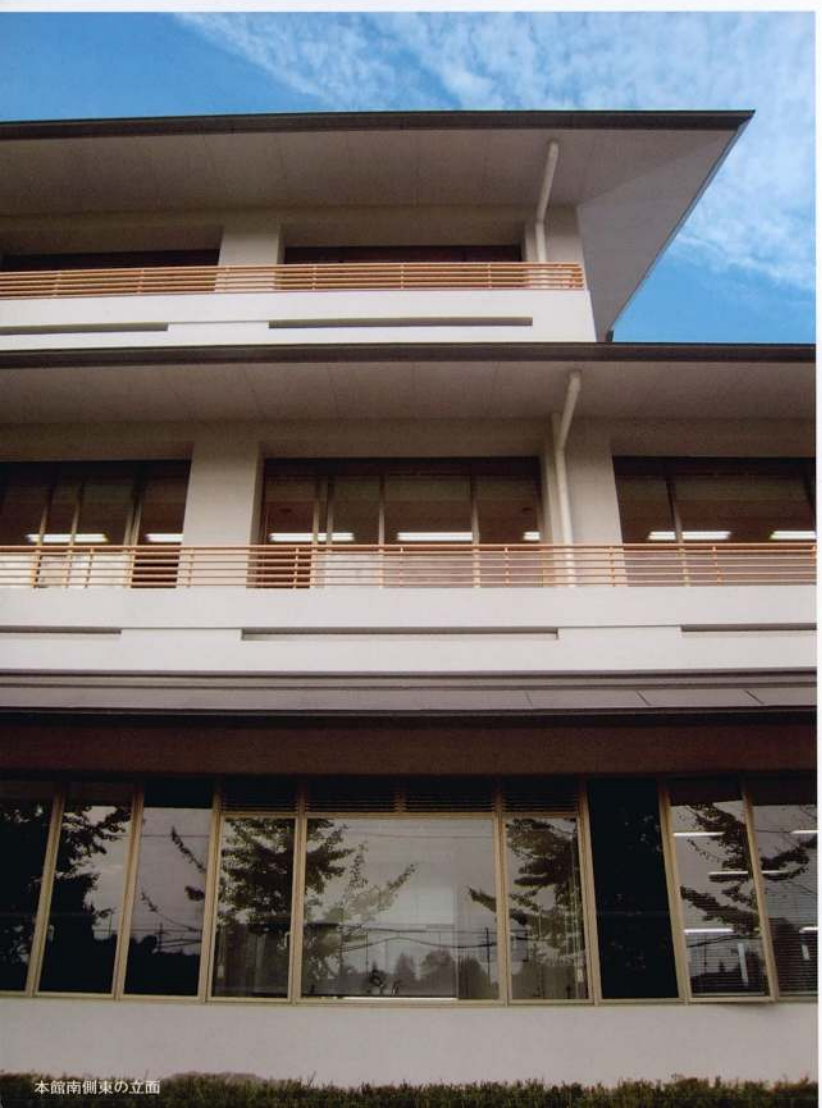
特集　京阪電車　中之島線 —新線が拓く中之島新時代—

●グラビア — 42
京阪電車　中之島線
●新たな中之島のまちづくりについて●北村英和 — 51
●中之島線の開業を迎えて●向井寛行 — 53
●座談会　中之島の粋（エスプリ）●木村純夫・澤田　充・設楽貞樹 — 54
●4つの駅のデザインを通して考えたこと
「島が島なら、駅も駅だな!」と言われたい。●寺岡宏治・近藤良彦・杉野卓史・奥　貴人 — 58
●駅のデザインコンセプト　水都大阪のゲートステーション — 60
—中之島駅　～水辺のプロムナードのような駅～ — 62
—渡辺橋駅　～ぶらりと楽しく街歩きできる駅～ — 63
—大江橋駅　～光の下で待ち合わせできる駅～ — 64
—なにわ橋駅　～中之島文化ゾーンの一角を担う駅～ — 65
●駅利用者へのインタビュー — 66
●中之島線に期待する
変革を遂げる中之島エリア～中之島線が結ぶ建築美～●廣間準一 — 68
中之島都市ビジョンの実現とさらなる活性化に向けて
—中之島線開通を契機に寄せる期待●北野剛人 — 69
新線開通に期待する●吉村　哲 — 70
水都の賑わい創出へ連携●伊藤裕章 — 71
●中之島今昔物語
「まれびと」を迎える祝祭●河内厚郎 — 72
京阪電車中之島線計画概要 — 74

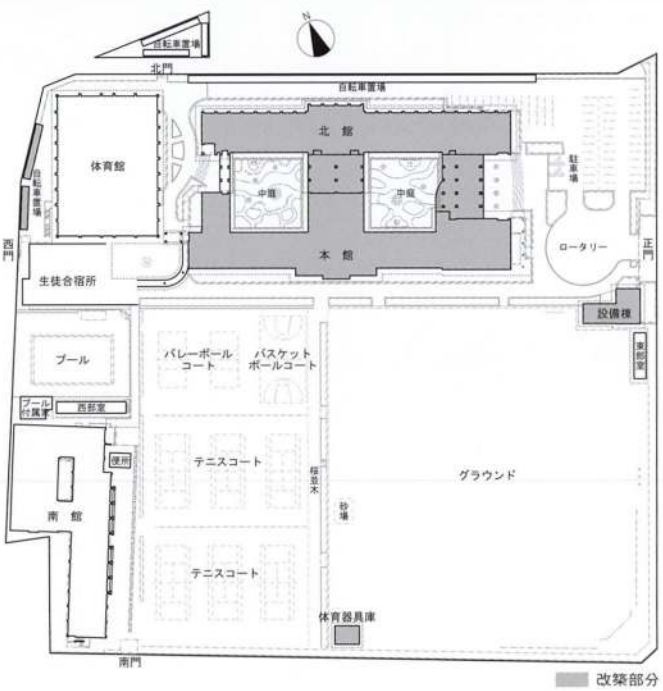
年頭のことば　2009年を迎えて●中井　進 — 1
本年の抱負　常設委員長●設楽貞樹・上原正行・山形政昭・瀬戸川葆・松原徹雄 — 2
会告　武庫川女子大学建築学科・大学院建築学専攻スタジオ見学会 — 3
作品作風　兵庫県立姫路西高等学校 — 6
タナベ経営本社ビル — 8
研究の風景　吉澤研究室（関東学院大学人間環境学部人間環境デザイン学科） — 10
gallery　…想いをカタチに…（池上康史）●豊田充広 — 12
デザインコンクール　第54回工高生デザインコンクール　設計課題：インターネットカフェ — 30
法令コーナー　被災建築物応急危険度判定●田上幸二 — 34
構造の頁　完全プレキャスト化を目指したRCの施工方法●藤生直人 — 35
読者の頁　昭和一けた族のタワゴト●山田　修 — 36
information　「どう果たすか国際支援」関西学院大学でフォーラム開催．“美術館にアートを贈る会”から．摂南大学工学部建築学科非常勤講師を募集．新朝日ビル見学会開催．京都工芸繊維大学大学院建築設計学専攻修了制作展．建設リサイクル法説明会開催．「ヒューミライト」「タイカライト」調湿建材登録・表示制度に登録．静物画の秘密展—ウィーン美術史博物館所蔵—．「日本画の精華」展．「京都御所ゆかりの至宝—甦る宮廷文化の美」．ノリタケデザイン100年の歴史．大阪歴史博物館特別企画展「お菓子の博物館」．都市へ仕掛ける建築 ディーナー&ディーナーの試み．企業ミュージアムの協会で京阪中之島線に乗って． — 37
月間の動き　平成20年11月分 — 40

表紙　デザイン　花城 辰男（時空アート）
本文　デザイン　高橋 善丸

東側正門から見た全景



本館南側東の立面



所 在 地	姫路市北八代2-1-33
敷地面積	38,089㎡
建築面積	（改築部分）4588.26㎡ ＊自転車置き場390.75含む
延床面積	（改築部分）9777.44㎡ ＊自転車置き場390.75含む
構造規模	RC造　4F
工　　期	2006年10月～2008年10月
最寄り駅	JR姫路駅

作品風作

設計・監理■
兵庫県県土整備部住宅建築局営繕課・設備課
加藤建築事務所

施工■
（建築）神崎・北村・平錦・畑﨑特別共同企業体
（機械）山本鑿泉水道
（電気）播州電業
（ガス）大阪ガス

兵庫県立姫路西高等学校

兵庫県立姫路西高等学校（以下、「姫路西高校」という）は、2008年の今年に創立130周年を迎える県下でも有数の歴史と伝統を持つ学校であり、今まで多くの優秀な人材を輩出してきた学校でもある。学校の敷地は姫路市のほぼ中央の住宅街にあり、国宝姫路城（白鷺城）の北約１kmに位置し、校庭からはその雄大な姫路城の北面を望むことができる。このような姫路西高校の改築にあたって、「歴史ある伝統を未来に継承する」「白鷺城を身近にのぞむ」「環境へ配慮する」まなびや学舎を基本として以下のようなコンセプトで設計した。

○創立130年の歴史と伝統を刻み未来に継承する学舎

姫路西高校は、明治11年に６群組合立姫路中学校として設立され、昭和23年に兵庫県立姫路西高等学校となった。今回工事で解体される本館・北館等は昭和31年から47年にかけて建設されたもので、ここにはさまざまな卒業生たちの思い出や、絵画や彫刻など多くの力作が残されている。これらの作品を新しい校舎に刻みながら未来へと繋げていきたいと考えた。

なかでも旧図書館にはモザイク壁画「光かがよう」（原画：尾田　龍　作）がある。また白城会館の３階には「層層」が残されている。これは城を抽象化し、城の層の表現に、年々卒業生が加わり次々と層をなして発展していくという意味らしい。新しい学舎を計画するにあたり、光かがよう新しい学舎で希望に満ちて学び「光かがよう」未来へはばたき、卒業生たちが「層層」を重ねていくというこの考えをデザインの基本的コンセプトとして設計した。具体的には、大きなカーテンウォールや窓、トップライトを設け光あふれる建物とし、また、３層の屋根を重ね「層層」を表現した。

○姫路城・姫路の町並みにふさわしい学舎

世界遺産でもある国宝姫路城を望む立地から、傾斜屋根で和風の建物をというのが学校の要望であった。今後も受け継がれていく長い歴史に耐えうる格調高く、さらに姫路城と調和のとれた姫路の街に相応しいものとした。具体的には、シャープな屋根の連なりとすだれ風のルーバーで和を表現し、無彩色の色調でまとめた。

○環境に配慮した快適な学舎

建物への熱負荷の低減を図るため、屋上を緑化、またバルコニーと窓上部のルーバーで夏季の日射の遮断・緩和を図ると共に、吹き抜けとトップライト最上階に設けたハイサイドライトにより通風のよい建物となるよう計画した。また、南棟には屋根一体型の太陽光発電、北棟にはOMソーラーを設置し冬季の底冷えに対処するなど、自然エネルギーの利用を図り快適な室内環境となるよう努めた。

（大上　章／兵庫県県土整備部住宅建築局営繕課）


ピロティーに移設した壁画「光かがよう」


東棟の中庭側カーテンウオール


中央棟３・４階の大講義室


彫刻を設置した中庭


大講義室ホールに移設した壁画「層層」


タナベ経営

作品風

設計・監理■
東畑建築事務所

施工■
ナカノフドー建設

タナベ経営本社ビル

大手経営コンサルタント会社の本社ビルである。敷地は、狭小ながら東海道新幹線の走る南側に開かれ、東側は交差点の隅切りにより大きく切り取られている。この不整形の角地という敷地形状が外部意匠の動因となっている。主たるアプローチ方向であるその隅切りに沿うように円弧を描く壁面を立ち上げた。ドレープカーテンのような凹凸はガラスとセラミックで構成している。スリット状のガラスの内側にそれぞれ小さなボイドを設け、ダブルスキン構造とすることで、エネルギー効率を向上させるとともに層間で途切れることなく垂直に伸びる光と影のファサードを創る。屋上には、緑量に配慮した庭を設けた。

（中村文紀／東畑建築事務所）

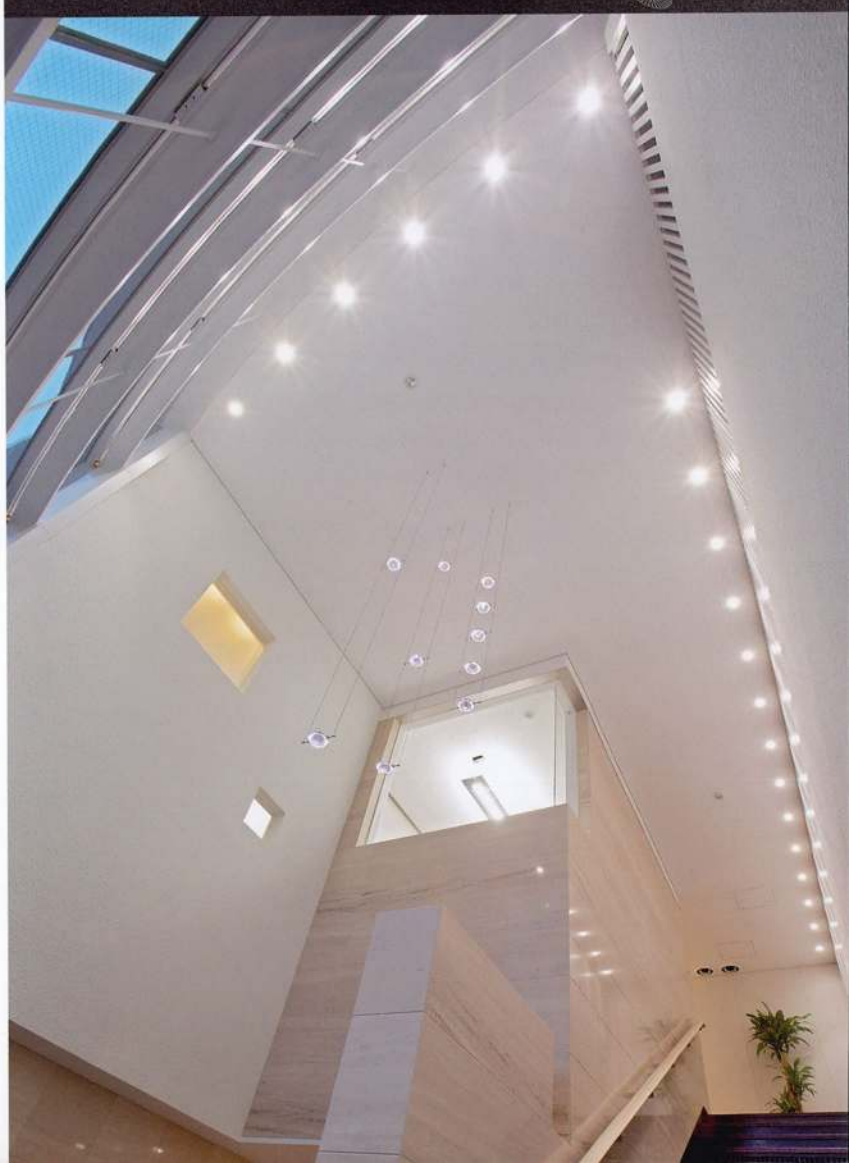


所在地	大阪市淀川区宮原３丁目
敷地面積	548.96㎡
延べ面積	3,411.36㎡
構造規模	S造　8F
工　期	2007年８月～2008年８月
撮　影	時空アート









研究の風景

関東学院大学
人間環境学部人間環境デザイン学科

吉澤研究室



↑研究室からの眺め



↑美術館での実測風景（輝度測定）

■はじめに

関東学院大学人間環境学部人間環境デザイン学科に赴任して今年で３年目、次の春にようやく初めての卒論生を送り出すところまでこぎ着けたところである。キャンパスは金沢八景という歴史的な景勝地に位置しており、もちろん往時の風景を忍ぶことは難しいのだろうが、しかしどことなく明るく気持ちの良い雰囲気の漂う土地柄である。部屋から眺める夕方の空が素晴らしくダイナミックかつ綺麗で、東京から近いとは言っても随分と違うものだなと、感心させられている。特に夕方ブラインドの隙間を通過した光が白い壁一面をオレンジ色の縞模様で埋める様は見事で、一見味気ないブラインドも機能的な役割だけでなく、光を楽しむ上でも馬鹿にならないのだなと改めて見直した次第である。

さて、少し話がずれすぎたが、本学科は、居住デザイン・生活デザイン・環境デザインを３つの柱とした複合領域にまたがる学科で、その中で本研究室では、光環境・照明環境・視環境を中心とした研究を進めている。まずは研究テーマを大別して以下に示す。

■光環境予測・呈示

まず光環境呈示に関して、VR（Virtual Reality）を応用した空間呈示における再現性の問題などを前から扱っていて、ここ数年は、設計時における光環境チェックのための明るさ再現性の問題について、大成建設技術センターと一緒に様々な検討を行ってきた。実際に学生を連れて、施工後の建物（美術館）に実測に行き、VR大画面でのCG呈示との比較などを行っている。空間のタイプによるが、画面上で実空間ほどの輝度（絶対値）が得られなくても、輝度対比・順応などを考慮すれば、呈示された画像から感じられる明るさを実空間に近づけることができるという結果が得られている。ただ時間の関係上、まだ検討が不十分なところも多く残っており、もう少し腰を据えて研究したいテーマである。

光環境を設計時に検討するためには、照明計算プログラムを用いた光環境予測が重要となってくるが、これに絡んでは、前任校で東京圏における昼光データの整備の作業に加わり、昼光（自然光）利用時の光環境予測を可能とするデータ（東京圏における標準年気象データ）を一般に公開した。このデータを使ってRadianceなどの照明計算プログラムで計算することにより、設計段階における室内の照度・輝度分布を、年間を通して予測することが可能になる。最近ではこの昼光データ＋Radianceの組み合わせで、ブラインドの特性計算や、窓廻りの室内環境予測、昼光率変動の計算などを実施しているところである。

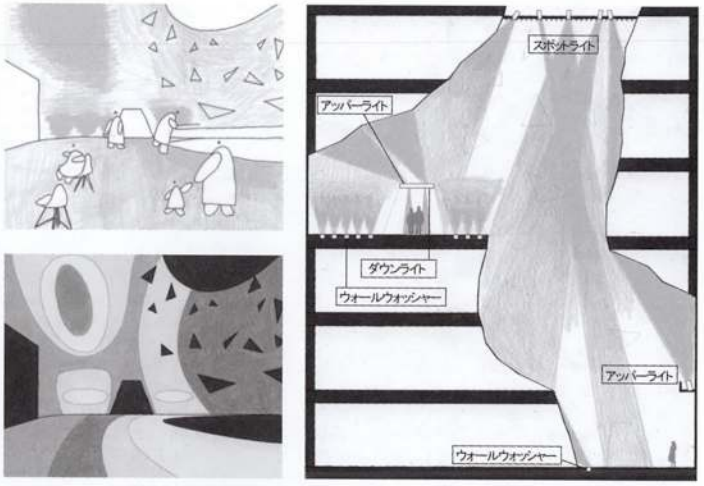
以上の２つは企業からの委託や共同研究という形で進めているものが多い。

■遺伝的アルゴリズムを利用した照明デザイン手法の開発

次に光環境デザイン手法に関わるものとして、３年ほど前から遺伝的アルゴリズム（GA）を利用した照明器具配置を決定する手法の開発を試みている。一般に照明デザインを行う場合は、必要とする光の分布を得るためにデザイナーの経験上から照明器具配置を決め、その後照明シミュレーションなどでその効果を確認する（あるいは現場で直接確認する）といったプロセスを経るが、複雑な空間形状における光の流れ・昼光が入ってきたときの輝度分布・グレア・コストなど様々な要求品質を一遍に満



↑ゼミ合宿写真：2008年度十和田湖畔



↑例えば、左図のような見えを実現するために最適な照明配置を、遺伝的アルゴリズムを用いて求める。



表面色	堅く突き通せない感じ・観察者からの位置が明確・物体の構造や肌理を表す
面色	柔らかで突き抜ける感じ・観察者からの位置が曖昧・開口を通すと現れやすい・青空など
空間色	3次元的に組織され、空間を満たしている霧・もや、少し濁った液体など
光輝	光が通り抜けているかそれ自身が発光している、Volume,Film の性質を帯びることもある
透明色	それを通して表面色などが見える 透明面色と透明表面色がある
その他（光沢・鏡映色・灼熱）	

↑D.Katzの色の見えのモード



↑光の空間として名高いル・トロネ修道院。表面色の上に光が帯びているように見えるFluorenceや、空間色など、様々な光の現象に出会うことができる。

たすような配置を考えることは、なかなか難しいこともある。そのような時にGAを用いて逆問題を解けば、最適な照明器具配置に近づくことができる。昨年度からは東京理科大学の兼松先生にご協力いただき、東京理科大学武田研究室の学生と共に、照度・輝度分布、グレア、コスト、色温度といった複数の評価関数を組み込んだGAの開発を進めている。最終的には、「ものの見え」（例えば明るさ知覚）をも評価関数に組み込んで、そこから直接照明配置を導き出せれば良いと考えている。また今年度中に照明デザイナーに実際の場面で試しに使用してもらい、問題点を洗い出してみる予定である。

■光の現象を捉える

実はこれが研究を開始した当初（つまり卒論・修論時代）から、一貫して追いかけてきたテーマである。建築において「光」が重要な役割を果たしていることは繰り返すまでもないが、例えば教会の中の効果的な光が、単なる照度で捉えられるものではないことは明らかであり、まずは一体どのような現象が空間内に現れている時に「光」として語られているのかに着目する必要がある。ポイントとなるのは、光やマテリアルの操作を通して、「もの」らしさが揺らいだときに、光の現象（＝現象として光）が現れるということである。

さらにその光の現象をD.Katzという知覚心理学者が提唱した色の見えのモードに沿って分類すると、建築空間内における現象としての光の特徴がより明確に見えてくる。このように捉えておけば、建築において光の現象を生み出す課題は、それぞれの色の見えのモードをどのように表出させるのかという問いに変換ができることになり、定量的な解析への道が開けることになる。

さらに、なぜ現象としての光が重要になってくるのか、その問題を突き詰めようとすると、ほとんど必然的にメルロ＝ポンティなどの現象学を通して哲学な話に入っていくことになり、昨年度は、関東学院大学人間環境研究所の研究助成テーマ「メルロ・ポンティと光の思想―『見えるものと見えないもの』をめぐって」のもとで、公開研究会などを通して光と建築に関する議論を進めた。

話がすこしずれるが、同じ学科に哲学や社会学の先生がいるということは、非常に刺激的で面白いことだと思う。特に建築を考える基本が、結局は人がどのように暮らし生きていくのか、という点にあるとすれば、建築学科に哲学の専門家が一人ぐらいいて、色々と議論を交わすことは学生にとっても有益なのではないかと思ってしまう。

■研究室のゼミ

光や照明に興味を持ってくれる学生が多く、毎年定員オーバー気味なのだが、いずれも素直で積極的な学生達なので、こちらも楽しい。まずは良いものを体験してもらいたいので、ゼミの時間や合宿などを通じて、学生をできるだけ外に連れ出すことを心掛けている。また昨年度は、環境シミュレーション室として割り当てられた部屋を、学生達が大改装してくれた。自分達で壁紙を剥がしペンキを塗って、照明実験が実施可能な真っ黒な部屋になっている。しばらく前から卒論で使用する裸のマネキンがバラバラの状態でその真っ暗な空間に転がっており、結構不気味である。新しい試みとしては、来年度からの学部敷地内のクリスマス・イルミネーションの計画を学生と共に練り始めている。

■卒業論文＆卒業制作

紙面がなくなってしまい書き切れないが、学生の興味は実に多種多様で、また卒業制作も引き受けているので、この後どうなっていくのかこちらが興味を持って見守っているところである。上記の研究テーマに絡む卒論の他にも、例えば制作の中には、有機ELを使用した未来の空間、フラワーアレンジメントとLED照明などがあり、論文と制作が半々といった感じになっている。もしお時間があれば、学生の成果がHED展（3月横浜）で展示予定なのでぜひ御覧になっていただきたい。



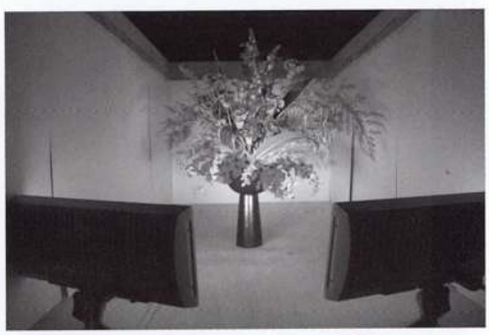
↑現象としての光の研究の枠組み



↑ゼミの照明見学＆測定風景



↑学生が改装したゼミの実験室



↑現在進行中の卒業研究例：花とLED照明

まち　建築　ひと

gallery

…想いをカタチに…

鍛鉄職人
池上 康史 Ikegami Yasuchika

私が、依頼を受け制作をする際、いろいろな話を聴くところから、始められればと思っています。
そして、依頼者の趣味や家族構成、想いを感じることで、その想いを“鉄”に吹き込めれば…と考えています。
様々な想いのこもった“鉄の道具たち”が、永くクライアントのもとに有るようにと、できるだけ取り外し可能にし、移築などの際には一緒に持っていって頂けたら…と願っています。想いのこもった“道具たち”がゴミにならないように。
依頼をしていただけるクライアントさん、鋼材を仕入れる材料屋さん、仕上げを施してくださる塗装屋さん…、私の仕事に関わってくださる皆さんに感謝し、日々『いいものがつくれるよう…』という事に心を置いています。

京都の西山に建つおうちでは、『ゆっくりくつろげる東屋』という道具や『棚が落ちないようにする棚受』という道具などを制作しました。
東屋の壁を造園家の友人が“泥団子”で制作し、私は屋根、柱の制作をしました。
屋根は折り紙をイメージし、様々な形の鉄板を貼り合わせ、その継ぎ目を『雨が通っていく』イメージで制作しました。
『雲の移ろい、月の動き、風にゆれるホルトの葉…それらを感じられれば』と、天窓を設け、柱部分では鉄で『ホルトの木』を表現しました。

池 上 康 史
1968－京都市生まれ
1986－京都市立伏見工業高校建築科卒業
1996－広庭熔工所に入所、技術を習得
2000－京都にて自営開始
2003・2005－渡欧　アルチザンの技を学ぶ
2008－現在にいたる

企画編集：豊田充広（作品作風小委員会）


『屋根』という道具


訪れた方に
「ん?」と、目をとめてもらいたい…と、
『ホルトの幹と葉』を
鉄で表現しました。


『棚受』という道具


庭のガスメーターを隠す道具



私の空間作法

2009

日本建築協会■会員作品特集

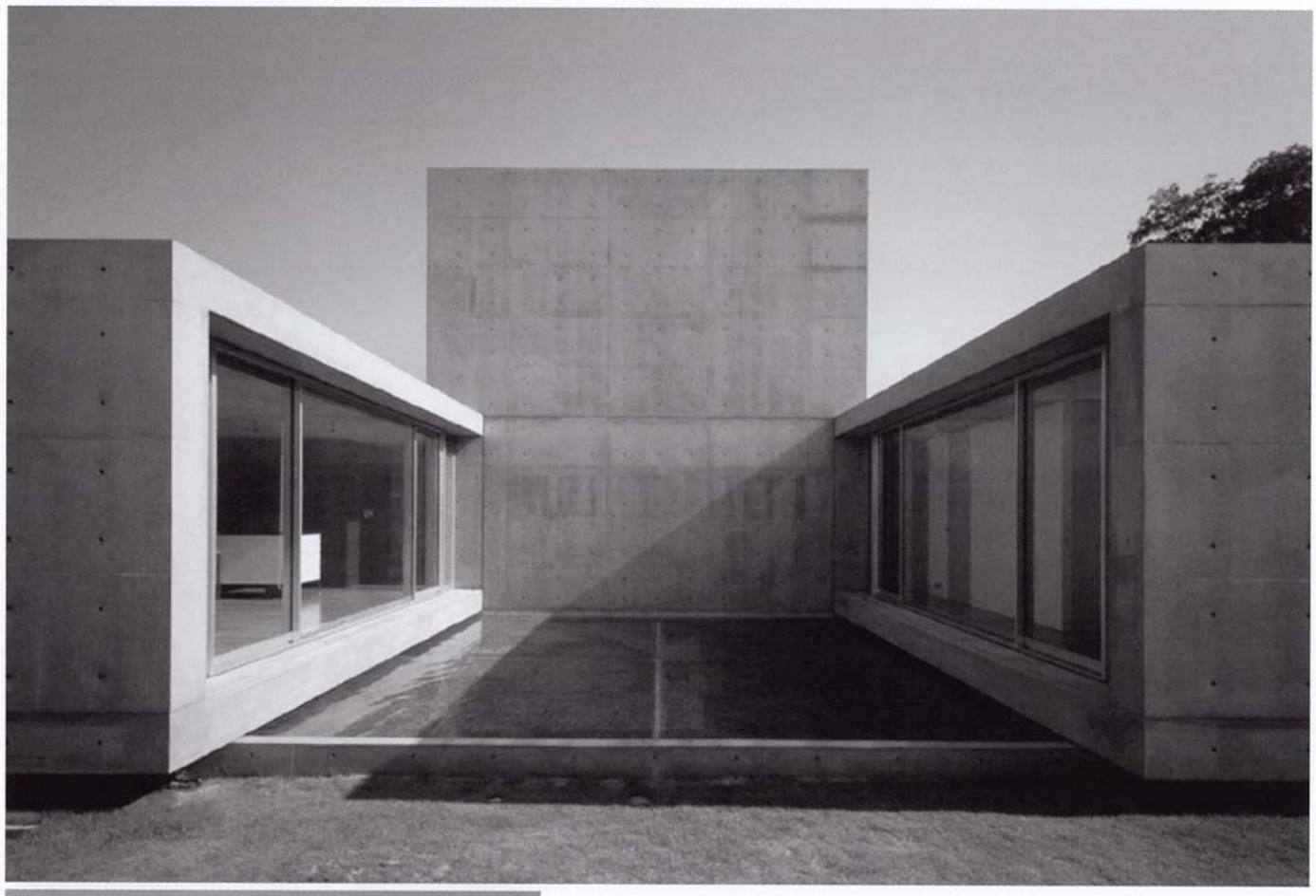


建築は「光」を受けることで形を現し、「光」を採り入れることで空間の表情を変え、「光」を発することで作品の意図を表現していると考えられます。寄せられた作品からは様々な手法を駆使し、新たな空間を創造しようとする熱い想いを感じることができます。
会員各位の今後ますますのご活躍を期待しています。

企画編集　作品作風小委員会

Three Boxes

森村政悦　森村政悦建築設計事務所





この敷地には、和歌山市に位置し、親子２世帯の住居が共存する。
建物は、３個の同じボリュームを持つBOXで構成され、前方にパブリックスペース、中央に玄関ホールやサニタリー、後方にプライベートルームの用途に分割される。
また、中央に中庭を置くことで、空間において家族が適度の距離を楽しむことが出来るような計画とした。
コンクリート壁面により隣接する住戸の視線を防ぎ、母屋のリビングには十分な採光を確保する。また中庭にある水盤は２世帯を柔らかな関係にする事を意図している。
インテリアにおいては、ズレを持つ３つのBOXにより、自然光と流れる気流を折々に感じ、一年を通じて四季の変化を楽しむことが出来るだろう。
こうして出来上がったRCの力強く単純なカタチは、居住者の創造力を喚起し、生活の楽しさをもたらすだろう。　（森村政悦）



■鷹匠町の家

所 在 地　和歌山県和歌山市
施　　工　小池組
敷地面積　536.82㎡
延床面積　145.58㎡
構造規模　RC造　地上２階
竣　　工　2006年９月

杉素材でつくる中庭のある家

久保清一＋鍵山昌信＋村辻水音







景勝地和歌浦の東部、秋葉山の麓に建つ住宅である。家屋の老朽化に祖父母が亡くなったことも手伝い、残された母と娘が協力して新しい家づくりをすることとなった。
凸型の変形敷地に二つの居住空間を設定したことにより、二つの中庭が出現した。この中庭に内外をつなぐ生活空間を創出するための５つのデッキが用意された。スギ板の囲い壁によってプライバシーと安全性を確保しながらも、光・風・緑を獲得した開放的な住まいとなっている。
（久保清一）

■和歌浦の家

所 在 地　和歌山県和歌山市
施　　工　赤土建設
建築面積　108.08㎡
延床面積　133.36㎡
構造規模　W、2F、P
竣　　工　2005年１月
撮　　影　絹巻　豊

都市の相家(あいや)‥二世帯居住の家

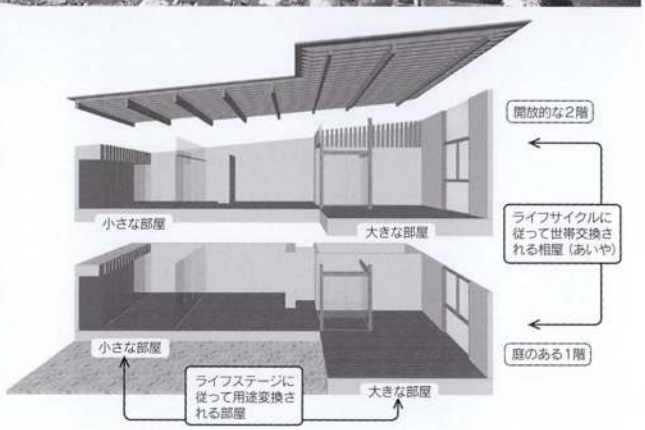
本多友常　国立大学法人和歌山大学



個と家族、それぞれのライフサイクルの変化に合わせて、人が住まい方を調整し、変えていくことが最大のテーマになっている。
ここでの住まい方のモデルは、遠く和歌山の小さな漁村に求められた。相家（あいや）と呼ばれ、一つの家を縦あるいは上下二つに割って世帯の独立性を確保するなど、“壁ひとえ”とも呼ばれる住み方の工夫でもあったが、そこには親と子の世帯を分離結合するための知恵が育まれていた。
この住宅では「大きな部屋」と「小さな部屋」の引戸を開け放し、ワンルームとして使われると同時に、二つの部屋は、使い方により居間にもなれば、寝室にもなることを想定している。
「大きな部屋」は引戸を閉じるとバストイレつきの個室にもなり、1階はバリアフリーで外部につながっている。
また上下総入れ替えによる世帯交代の可能性も想定しており、上下二つのほぼ同じ間取りは、環境移行によるストレスの最小化を念頭に置いている。

（本多友常）





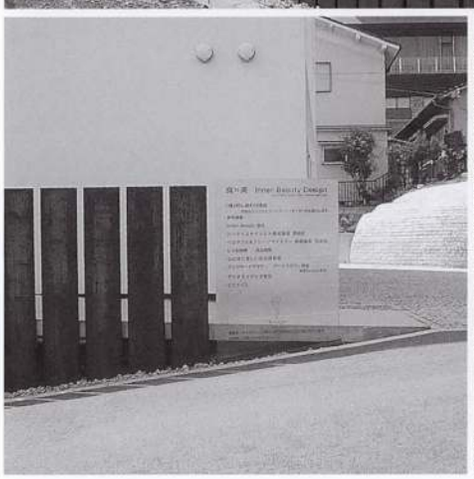
概要

設計協力	柏原誉、成山奈々絵
監　　理	本多環境・建築設計事務所
構　　造	デザイン・構造研究所
施　　工	ルームプラン
所 在 地	東京都杉並区
地域地区	第一種低層住居専用地域
工　　期	2008年1月～2008年10月
構造規模	W、2F
敷地面積	133.98㎡
建築面積	66.92㎡
延床面積	131.4㎡

グランドライン

岡﨑善久　岡﨑善久建築設計事務所







近鉄学園前駅より南東へ徒歩５分の下った窪地の角地にこの計画がある。
クライアントからの要望は、２方向からの出入り口と自分たちの駐車スペースと外来車３台以上を確保し、１室空間のオフィスが欲しい要望があった。
この計画は、クライアントの要望を整理すると余白が建物となり、法規上の高さ制限があり自然と建物の配置とヴォリュームが決まってくる。
8.8×9.5×7.5のシンプルな四角いヴォリュームを逆に存在感を持たせるために白い建物であると考えた。
ゆったりしたアプローチから違った「風景」と「間」を取り入れるための玄関は南東の奥に設けた。
構造は壁ラーメン構造である。屋根は35cmの球形ボイドスラブ・２階床は35cmのボイドスラブを採用し、外周壁厚30cmで全てを支えた。
北東・南東・北西の角は同レベルとし、南西の角を1.0m下げた屋根勾配は、稜線は谷となり流れる雨は孟宗竹にそそり落ちるようになる。
アプローチのスロープデッキは基礎成105cmからのキャンチレバーとし、基礎部分は地上に顔を見せるため、基礎の目隠しやスロープの手摺等に、スチールの素地を使用し、t=16ミリは経年変化やメンテナンス等を考慮して採用した。基礎は105cmのベタ基礎である。
北西の角に盛り上がった土を現状のままに置きピンコロ石で覆い、駐車場と一体となった小高い山をつくった。
この建物は基礎の上に浮いたような、不明確なグランドラインの上に乗った建物である。

■学園前の家

所 在 地　奈良市学園前
施 工 者　芙蓉建設
外　　構　建築工事プロデュース
敷地面積　299.33㎡
建築面積　89.2㎡
延床面積　177.44㎡
構造規模　壁ラーメン構造、2F
竣　　工　2006年４月

都市・自然・すまい

田中啓文　田中啓文総合建築研究所





地下鉄大国町駅に程近く、国道25号線から1ブロック南に入った約90坪の敷地に建つ集合住宅。約40㎡～75㎡8タイプ計23戸のユニットがあります。

2層吹き抜けのエントランスは、南北を開放的にした半外部空間として、個々の住戸と町とのつながりが希薄にならぬよう配慮しました。南側2階の一部に植栽を施して隣地とのクッションとし、ホールを南北に通り抜ける風の心地よさとともに、日々ささやかな自然を感じとることが出来ます。最上階メゾネット住戸の階高は構造体で5350、上階の床は主たる構造体とは分離し、鉄骨梁を渡してデッキ+コンクリート床(H=80)で構成。将来の改変も視野に入れたタテヨコが一体化した広がりのある空間としています。

（田中啓文・担当 藤岡敦子）



■Ritz SQUARE CREST

所在地　大阪市浪速区
施　工　コーナン建設
建築面積　178.41㎡
延床面積　1,429.04㎡
構造規模　RC、10F
竣　工　2007年10月
撮　影　河合止揚

みんなのいえ

徳岡浩二　徳岡昌克建築設計事務所









風景と調和し「みんなのいえ」を象徴する大屋根と小田原の伝統的な漆喰壁を外観デザインとしたデイサービス、ショートステイなどの在宅介護支援総合施設である。
居室は日本民家の四つ目型平面を規範とし、高窓のある通り土間のような空間から各室に採光する個室型４床室を基本とした。将来の福祉施策の変化に伴う増改築や設備の更新を考慮し、構造体の内側に木造の居住ユニットを組込んだスケルトン・インフィルによる長寿命建築を目指した。
「家庭を中心に考えて社会奉仕するのが社会福祉法人」という建築主の強い理念に応え、「長寿を支える生きがいとは何か」を追求した。

■潤生園住宅介護総合センター「れんげの里」

建 築 主　社会福祉法人　小田原福祉会
所 在 地　神奈川県小田原市蓮正寺中洲1004-1
施　　工　瀬戸建設
敷地面積　5,700.58㎡
建築面積　1,521.59㎡
延床面積　2,459.97㎡
構造規模　RC（一部S）、2F
竣　　工　2006年９月

空間の強度と幾何学

早崎伸一＋池井健＋平尾和洋　VIDZ／ヴィズ建築設計事務所







幾何学を重視する設計手法は、平面操作の次元において認識を容易にし、また現象の次元においては部分の機能や用途に縛られない空間が立ち上がる可能性を秘めている。それは幾何学の持つ強さといえるだろう。

賃貸の集合住宅である本計画においても幾何学的操作の組み合わせにより空間の強度を得ることをひとつのテーマとしている。求心形の平面計画において共用空間はその中心に位置し、45度ずつ角度を振りながら円環状に取り巻く住戸群によって外部から閉ざされ、空に抜けたヴォイドとなっている。

それにより離合集散する動線の幹となる共用空間が日常を捨象する強度を持つことを意図している。

（早崎伸一＋池井健＋平尾和洋）

■Shwalbe／シュワルベ

所在地　京都市
施　工　五洋建設
敷地面積　542.50㎡
建築面積　457.09㎡
延床面積　3098.31㎡
構造規模　RC、10F
竣　工　2008年2月
撮　影　松村芳治

北島の家

—地域の持つ力、土地・素材・伝統構法を生かす—

新居照和＆ヴァサンティ　新居建築研究所







敷地は、古くから工業地帯があり、徳島では数少ない人口が増加している町にある。周囲は住宅地に囲まれているが、南西側は田畑が隣接していて、水田の風景が拡がっている。その方向を、住まいづくりの核に据えた。

夏は風が通り、西日の暑さを抑え、冬は暖かい陽が入り空気が住宅内を巡るよう、南北を軸に居室をカギ型に配置する。カギ型の棟と高さ三mの抜けをつくった板塀が中庭を囲み、屋根のない部屋をつくる。中庭デッキを介して、住宅内を子供達が立体的にかけ巡ることができ、どの居室からも常に田園風景が暮らしの一部となる様にした。反対方向は、漆喰壁で囲み二階広間の角を開口して、北の空が拡がる。

構造は、長寿命で粘りのある伝統構法の知恵を生かし、力強い柱・梁架構と土壁・貫構法で組み、住空間を包む。木材は、全て自然乾燥させた樹齢七〇年以上の地場の木頭杉を使い、大工の手加工で架構を組んだ。

素材は、地元の木材や土、石を極力生かすことに努める。自然素材は、経年変化の美があり、調湿作用や自然の香り、良質の成分が放出され、癒される室内空気環境をつくることができる。地球環境問題対策と同時に地域のもつ風景や時間、技術の連続性をつくることが重要だと考える。

（新居照和）

■北島（きたじま）の家

所 在 地　徳島県板野郡北島町
施 工 者　アズマ建設
建築面積　77.23㎡
延床面積　143.38㎡
構造規模　W、2F（伝統構法を生かす）
竣　　工　2007年８月

蓮の団居（はすまどい）

中尾勝悦　中尾綜合建築設計事務所





この特養は、22年前に定員50人として開設された。この間、施策は大食堂＋多床室型から個室ユニット型に移行し、入居者の介護度も上がり、ケアの方法も従来の施設では、実情に合わなくなってきていた。

施設長が、開設者のご子息に代わったことを契機に、全面改修をすることとなった。

計画に当たっては、施設長を中心に、介護士の方々と共に他の特養を幾度も見学し、改修ごとにアンケートを繰り返して頂き、その都度、設計変更を重ねてきた。

今回の改修では、エレベーター前にあった管理型の寮母室（職員室）を取壊し、ユニット的なケアをすべく、階ごとのリビングルームに変更した。家族との面談コーナーも各階に設けた。また、3階は落ち着いた「洋」のデザインとし、2階は朱色を混ぜたモダンな「和」として、『住まい』を感じて頂けるよう心掛けた。

リビングを中心に据えたプランは、スタッフの労働を軽減させ、より手厚い介護と、目の行き届いたケアが行なわれている。また、エレベーター前に広がる空間は、施設に華やかさを与え、家族の来訪者が増え、入居者も積極的にここに集まっている。改修後、介護士らスタッフたちの手で、試行錯誤が繰り返され、リビングは、どんどん多機能な空間へと使いこなされ、皆の顔が、はっきり見えるようになった。

（中尾勝悦）

＊タイトルの「蓮」は法人名称のロータスからきています。

■特別養護老人ホーム門真荘

建 築 主　社会福祉法人ロータス福祉会
所 在 地　大阪府門真市堂山町25-20
施 工 者　宮井工務店
改修面積　447.915㎡
建築面積　594.529㎡
延べ面積　1,742.014㎡
構造規模　RC、３Ｆ
竣　　工　2008年３月
撮 影 者　㈲イセヤ　森田　賢

医療空間の蘇生

池上　明　エーアイ　アーキテクト　スタジオ







医師の第３者継承による産婦人科医院の全面改装です。築30年近い建物であり、近年は診療を縮小されていたこともあり、初めて訪れたときはタイムスリップしたような感覚になりました。又、近年の産婦人科医院は差異化が求められ豪華ホテルのようなものも見られるようですが、今回の計画では病院の雰囲気をできるだけなくしたいというドクターのコンセプトをいかし、妊婦がリラックスしてアットホームな雰囲気の中で出産し、新生児の誕生に感動できる施設をめざしました。規模的にもヨーロッパのプチホテルのような感覚の空間をイメージしています。駆体に抵触しないという制限の中で、老化した医院を「リノベーション」という限界を超えた新しい医療空間として蘇生することができたと思います。

（池上　明）

改装前の待合室



■しばたレディースクリニック

所　在　地　神戸市東灘区住吉宮町4-1-7
改装部面積　391㎡
施　　工　プラントン
竣　　工　2007年11月
撮　　影　稲住泰広

キッチンから多方向に庭が見える家

吉村篤一＋建築環境研究所







築約70年といわれている木造２階建て住宅のリフォームである。主たるテーマはダイニングキッチン及び水回りの刷新であった。以前から暗くて狭苦しいダイニングキッチンをいかに明るく気持ちの良い空間にするかということが最大のポイントであり、キッチンに立つとそこから外部が見通せるようにしたい、という強い要望があった。一つの解決策として、キッチンから浴室を通してささやかな外部の緑が見えるようにし、目を転じると裏庭が見え、さらに建具を開け放つと玄関横の主庭が見通せるように考慮した。このことにより、プラン上直接光が入ってくる開口部はないが、明るく爽やかな空間になった。

他の和室等は畳の入れ替えや襖の張り替え、および基礎の補強、また施工可能な壁は貫を入れて簡易な耐震補強等をしている。

（吉村篤一・奥野八十八）



改修前

■紫竹の家

所在地　京都市
施　工　熊倉建匠
建築面積　66.6㎡
延床面積　120.0㎡
構　造　W、2F
撮　影　大島勝寛

ワンボックスな家

稲垣元宣・稲垣和江　イナガキケンチクケンキュウショ





大阪市内の、連棟長屋を切り離しての建て替え物件。２世帯でお住まいになる。200平米を超えない床面積で建てることが法規上得策とふんで、その面積を２世帯でわけあってもらうことにした。
足場は建てられないため、屋内からの外壁施工となった。複雑な外壁形状を避け、めいっぱいの箱形をつくって、内部に広がりをとりいれる方法を考えた。
SE構法を採用して短辺方向の壁量を若干しぼり、狭小間口でも開口部を十分確保した。室内建具は開放しておけるよう引戸とし、閉めていても、うっとうしさがないよう素材を選定した。４階相当の高さにルーフバルコニーをつくり、そこからも採光・通風をとっているが、それは隣家が建て変わっても有効と思われる。　（稲垣和江）



■oah project

所在地　大阪市東住吉区
施　工　福徳建設産業
敷地面積　88.87㎡
建築面積　66.77㎡
延床面積　199.46㎡
構造規模　W（SE構法）、3F
竣　工　2008年６月
撮　影　森武史（モリフォトスタジオ）
　　稲垣和江

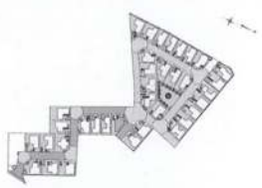
不連続統一の団地(個性と環境が調和するまち)

岸　一　アトリエJIGSAW





本作品は千葉県船橋市に位置する36戸の建売分譲団地である。
以前は田畑の多い自然に恵まれた環境であったが、近年開発が進み住宅激戦区となっている。
本計画はこのような背景の中、景観・環境・地域特性をテーマとして実現した。「成長し続ける団地」である。ターゲットを一次所得者層とし、36個のコンセプトプランと、色、形、素材のトータルコーディネートによる個性豊かなファサードにより計画しており、提供公園と生活道路に視線を向けレベルを統一し、団地内の共存意識を高めている。また、エントランスや居室前にはデッキ等を積極的に設け、地域コミュニケーション意識を高めた安全で楽しい、活力ある団地を実現している。外構は先行植樹によるオープン外構とし、境界線を無くした景観に開放感を演出しているが、一部未完成部分を残すことで、これから住み手が作り上げていくであろう楽しみをも残している。近隣他物件より、約1～2割高額価格で完売した成功事例と言える。
これからの団地に大切なことは、景観・環境・地域特性であり、住み手に楽しく作り続ける環境と景観を提供する場を与えることだと考える。　(岸　一)



■船橋の分譲団地

所 在 地　千葉県船橋市二和東
施　　工　吉岡工務店
事 業 主　吉岡環境開発
建築面積　70㎡（1戸あたり平均）
延床面積　120㎡（1戸あたり平均）
構造規模　在来軸組工法
工　　期　約1年
撮　　影　岸　一

イオンレイクタウンのリフレッシュ空間

—五感を活用したユニバーサルデザイン

田中直人（摂南大学）＋老田智美（NATS環境デザインネットワーク）





UD監修／リフレッシュ空間設計■
田中直人＋NATS環境デザインネットワーク

日本最大級の売り場面積を有するイオンレイクタウンは、「迷わない」「疲れない」「使いやすい」をキーワードとするユニバーサルデザイン（以下「UD」とする）を、屋内外問わず、すべてに導入したモデルプロジェクトである。UD導入にあたり、地元市民団体との数次にわたるタウンミーティングの開催や、プロジェクト関係者による施設各部位のモックアップ（実物大模型）検証などを積み重ね、これらの結果を反映している。UD設計においては、法や基準を超える機能性を重視すると共に、視覚や触覚、音や匂いなどの感覚デザインを導入することで、わかりやすく、使いやすい空間を実現し、居心地の良さをも追求している。多くのヤングファミリー層の来店が予測される本物件では、特に機能性が求められるトイレや授乳室、喫煙室、休憩スペースなどを「リフレッシュ空間」として、新たな空間提案および設計をしており、それは7箇所におよぶ。授乳室まわりでは、家族一緒に授乳ができるソファースペースや個室授乳室を配している。また赤ちゃんの授乳中、その兄弟・姉妹も一緒に楽しい時間を過ごせるよう映像等が流れる「キッズコーナー」を設けるなど、機能・癒し・楽しさ等の空間デザインを行っている。

■イオンレイクタウン

所在地	埼玉県越谷市
設計・施工	大林組
敷地面積	261,633㎡
延床面積	218,483㎡
構造規模	SRC（一部S）、3F
竣工	2008年9月
撮影	古川公元

二度目の住まい創り　その後…

河南重雄　河南建築設計事務所





竣工時、ご近所の方から“やっと完成ですね 壊さずに改造された事が良かった”との感想を頂いた。
今は亡き父母が37年前に建てた家（私の修行時代に設計）を兄の定年退職を機会に大改造の提案をした。実家ゆえに永年に渡り不満、不足、不具合、若気の意匠などを痛感し改築ではなく改造で試みた。
二世代に渡り蓄蔵された物品類は、兄弟同士でもなかなか処分してもらえず今でも室内を占領している。設計屋の提案より以前の住み方の方が案外と居心地が良いのかも知れない。
構造補強、維持管理、収納設計以外に当初から造園設計をも提案した。一旦無くなってしまった緑が両隣家の緑のボリュームに何とか早く追いつかないかなぁと思いながら毎週水まきに通っている。

（河南重雄）

■垂水の家／平成の大改造

所 在 地　神戸市垂水区旭が丘
監　　理　河南建築設計事務所
施　　工　レンゴー建設
敷地面積　164.62㎡
建築面積　 83.88㎡
延床面積　122.91㎡
構造規模　W、2F
竣　　工　2008年３月
撮　　影　河南重雄

「建築と社会」誌

特集一覧●1987~2008

大正6年3月に誕生した日本建築協会（当時・関西建築協会）の、機関誌は大正6年9月に「関西建築協会雑誌」と題して創刊された。大正8年に「日本建築協会雑誌」、さらに1年後には「建築と社会」と改題し、今日に至っている。

取り上げてきた特集テーマは下記のとおりで、バックナンバー購入希望は、日本建築協会事務局（TEL 06-6946-6981、FAX 06-6946-6984）まで。販売価格は1200円（送料・消費税含）。

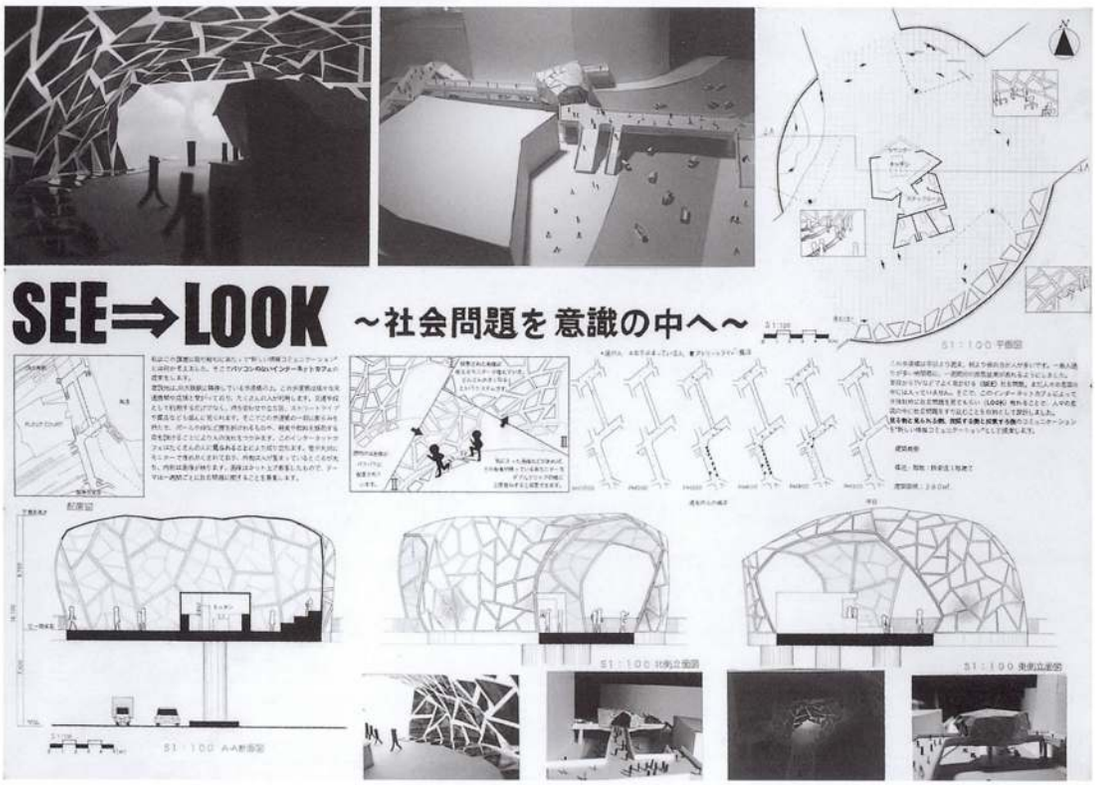
号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1987 vol.68	●入浴物語	●腐食	●創立70周年記念号	●躍動する東海へ	●貯蔵・保管施設 ●大阪府立体育会館	●室内の仕上床	●駅	●行政建築家の可能性	●シティホテルの設備	●宝塚の街づくり＊	●建物と町並みの接点 ●昭和設計作品集	●第34回青年技術者
1988 vol.69	●ホテル物語	●軟弱地盤と基礎 ●文化と伝統—東海からの報告	●設備におけるLCCとリフレッシュ ●東畑建築事務所作品集	●建物の外装リフレッシュ＊	●都心居住	●中国地方の展望とひろしまのまちなみ	●21世紀への照明＊	●制振＊	●超高層住宅を考える	●集合住宅のリフレッシュ＊ ●大阪府営善	●第35回青年技術者 ●800号記念＊	●讀賣テレビ
1989 vol.70	●夢をのせる輸送設備	●リゾート事情 ●竹中工務店創立90周年記念	●色の復権 ●東海の新建築と伝統技術＊	●省力化のための材料・工法	●まちづくりと法	●博覧会とまちづくり	●都市環境創造と設備Ⅰ	●建築とアート	●構造の省力化 ●鹿島建設大阪支店建築設計部作品集	●都市環境創造と設備Ⅱ ●ユーザー参加のハウジング	●第36回青年技術者	●最近の博覧会パビリオン
1990 vol.71	●商品化住宅のデザイン＊	●ニュータウン・ルネサンス	●東海の都市景観 ●住宅市文化会館＊	●スケール感	●プレハブ住宅技術の現在と未来	●国際花と緑の博覧会	●建築家のための設備知識—中規模オフィスビルによるケーススタディー	●高強度化—設計の多様化をめざして—＊	●やわらかな住宅管理・ユーザーの役割	●都市のナイス・プレイス ●兵庫県営緒の歩み	●第37回青年技術者 ●和歌山県の展望と景観＊	●高級感—建物の顔：感性の時代を迎えての外装材
1991 vol.72	●新しい都市空間づくり—Ⅰ— ●オフィス・プレジャー 新しい都市空間づくり—Ⅱ— ●建築の風景	●東海支部復活30周年記念	●大阪東京海上ビルディング	●今、京都 ●建築家のための設備知識—複合商業ビルによるケーススタディー	●建築と土木 ●毎日放送本社ビル ●近畿地方建設局営繕部	●一般号＊	●建築をめぐるトラブルとその解決 ●建設現場のイメージアップ作戦	●空間のアイデンティティ ●きんでん写真集 ●大建設計40周年	●自治体住宅政策への提言 ●大林組創業100年記念	●建築と土木—構造技術の世界— ●第38回青年技術者	●スリムでタフなコンクリート ●21世紀の住まいを考えるシンポジウム	
1992 vol.73	●夢物語—人がかわる，まちがかわる—	●こだわりのインテリア ●近畿の郵政建築15年の歩み	●建築とデザイン—東海支部—＊	●建築家のための設備知識—集合高層住宅の設備システム—	●地球環境時代の建築	●街創り、住まい創り—住宅・都市整備公団関西支社10周年—	●木構造を使ってみませんか—集成材による構造—＊	●接着—建築分野への限りなき可能性	●中国地方の町並みと建築家の「語り，夢，作品」＊	●屋台一仮設の魅力に学ぶ— ●ハウジングのメインストリームを探る	●いま建築教育に何が期待されているか	●京のかたちと色
1993 vol.74	●第36回青年技術者 ●東畑建築事務所創立60周年記念作品集	●大阪府営緒	●東海の美術館・博物館	●市民劇場の舞台設備	●環境—限りある自然と建築とのかかわり	●都市のスカイライン	●映画の中のインテリア ●けいはんなプラザ・住友ホール	●建築の再生—構造技術の役割— ●大阪市営緒	●国際的パートナーシップの可能性	●福祉のまちづくり	●都市型住宅再考	●第40回青年技術者 ●環境—人にやさしい空間創造をめざして
1994 vol.75	●コピー文化の新時代 ●広島の街創りアジア競技大会	●九州のインスタレーションと翼	●伊勢・神宮式年遷宮と神宮界隈＊	●建築のエネルギーシステム	●明日に向かって—会員作品＊	●いま、医療施設は	●住空間における居どころへの視点	●まちなかの看板 ●竹中工務店の集合住宅	●水と建築 ●日本建築総合試験所	●建築設備のCGシミュレーション ●村野，森建築事務所	●構造美—建築の中の美 ●集合住宅団地リニューアル	●第41回青年技術者 ●関西国際空港
1995 vol.76	●光がつくる風合の世界＊	●音—騒音から操音/創音へ	●飛騨・美濃—まちの活性化と地方文化＊	●トイレから見た都市文化	●トイレ空間	●接合 ●コスモタワー	●ユニバーサルデザインとは	●私の空間作法—会員作品	●新しい「都市・建築」の視点＊	●建築構造と社会の接点 ●日建設計＊	●ライフラインと建築設備＊	●第42回青年技術者 ●滋賀県建築課
1996 vol.77	●阪神大震災から学ぶ＊	●大阪府住宅供給公社創立30周年記念＊	●遠江—その地方振興と文化＊	●立体駐車場設備 ●大建設計	●災害！非常時に生きる法体系 ●OAPタワーズ	●いま、プールがおもしろい	●住まいの未来像	●マルチメディアがつくる世界	●キーコンセプトの新時代	●最新の大規模スポーツ競技施設の設備	●私の空間作法'96 ●九州の元気 ●りんくうの3作品	●第43回青年技術者 ●近畿地建営繕部
1997 vol.78	●建築のロングライフ化をめざして	●鉄ものがたり＊	●東海支部会員作品 ●金沢・能登—風土・文化とまちなみ・建築＊	●創立80周年記念/建築と私と社会—80人の願—＊	●木造建築物の伝統技術とその将来	●住む空間の復興—法・制度の運用と新たな展開へ— ●住都公団関西支社	●素材の不思議 ●大阪ドーム	●新エネルギー ●住宅・都市整備公団改革への提言	●クロスワード都市OSAKA＊	●モザイク都市の住むかたち ●昭和設計40周年	●私の空間作法—会員作品—	●第44回青年技術者 ●京都駅ビル
1998 vol.79	●新しいまちづくりの予感 ●東畑建築事務所創立65周年	●Concrete ●九州とわたし，そして建築	●東海支部会員作品 ●信州—諏訪とその周辺—	●街並みの演出—最近の外構材料	●生活環境の安全・安心	●地球環境保全と建築	●心と体を元気にするインテリア	●建築設備—ビルメンテナンスの立場から	●建築への証言'98—21世紀に向けて	●ゆれをとめる—たえる技術からわわす技術へ	●私の空間作法 ●2001年の医療施設	●第45回青年技術者 ●駅とともに歩んだJR西日本の12年
1999 vol.80	●“らしさ”のデザイン ●建築を綾どる小粋なモノの仕掛人	●大阪市都市整備局	●東海支部会員作品'99 北信濃—街並み修景と地域文化の再構築	●都市のパブリック	●関西建築界の流れと東畑謙三の足跡をたどる	●大阪城天守閣平成の大改修	●改正建築基準法—まちづくり・すまいづくりへの展開—	●私の目でみた環境問題	●アーバンインテリア—都市空間としてのインテリア	●木とともに	●私の空間作法	●第46回青年技術者
2000 vol.81	●21世紀のデザインの動向を見る ●安井建築設計事務所創業75周年	●中国支部—しまなみ海道と中国地方の街づくり—	●東海支部会員作品2000 越中・富山—地域文化の振興と新たな施設づくりの流れ	●こころを癒す環境デザイン	●測る—測定方法と測定結果が意味するもの—	●スケルトン&インフィル	●改正建築基準法—パートⅡ—	●100年後へのメッセージ ●日建設計創業100周年	●来世紀に引き継ぐ—わざ，もの，こころ—	●時間	●私の空間作法—会員作品— ●21世紀の高齢者の居住環境	●第47回青年技術者
2001 vol.82	●エヌ・ティ・ティファシリティーズ	●21世紀の建築設計教育	●東海支部会員作品 ●岐阜・大垣	●IT社会におけるきずな	●自然素材をめぐる「もの・わざ・ひと」	●成熟社会をささえるまちづくり	●現代の日本の空間・文化を探る	●環境—近未来に向けて今できること— ●大建設計—作品特集1996~2001—	●建築の力都市の力	●緊張 ●都市基盤整備公団関西支社	●私の空間作法—会員作品—	●第48回青年技術者 ●NHK大阪放送会館・大阪歴史博物館＊
2002 vol.83	●国土交通省近畿地方整備局営繕部＊	●再生・リサイクル	●東海支部会員作品 ●愛知・名古屋	●生活環境の安全・安心—パート2—	●塗装のいろいろ	●都市再生に向けた建築基準法集団規定のあり方	●いま，インテリアデザインは ●淳町リバープレイス	●建築をささえるセンサー	●建築とボランティア	●時を超えて〜サステナブルエンジニアリングの現在〜	●私の空間作法—会員作品—	●第49回青年技術者 ●大阪市中央公会堂
2003 vol.84	●東畑建築事務所創立70周年	●九州の地域づくり・まちづくり	●東海支部会員作品2003 愛知・名古屋—この地の文化・芸術と建築・街づくりを考える—	●サスティナビリティー次世代に引き継ぐ都市・建築・暮らしのデザイン—	●建築と五感	●都市計画法及び建築基準法等の改正	●コンバージョン—インテリアから発信するまちなみ—	●介護と建築・設備	●建築とノスタルジー〜建築の主観的価値について〜	●力と楽しくつき合う方法	●私の空間作法—会員作品—	●第50回青年技術者＋青年技術者顕彰50年
2004 vol.85	●大阪市住宅局	●都市緑化	●東海支部会員作品 ●愛・地球博＊	●省リスクな「まち再生」＊	●リニューアルの技	●地域住民主体のまちづくりと支援制度	●Product Design＋1	●銭湯〜心地よさを求めて〜	●建築家とは何か	●巨大地震にそなえて	●私の空間作法—会員作品—	●第51回青年技術者
2005 vol.86	●震災から10年	●「健やか」 ●長崎医療センター	●東海支部会員作品2005 東海における施設づくりへの新たな試み	●建築の経済化	●住まい方の変化	●人工栽培	●次世代に伝える「木」の建築 ●「建築と社会」1000号記念	●改正建築基準法と景観緑三法	●火災から守る	●構造の過去から未来へ＊	●私の空間作法—会員作品—	●第52回青年技術者
2006 vol.87	●都市環境デザインと参加のまちづくり	●「地方空港の時代」〜まちと共存する空港づくり〜	●東海支部会員作品2006＋東海支部特集3部作＊	●都市再生の本質〜光と影のはざまで〜	●変容する家族形態とあたらしいライフスタイル	●身近な省エネルギー〜エネルギーをたくわえ，有効利用する〜	●設計図が伝えるもの	●建築物の安全・安心＊	●第53回青年技術者	●「セキュリティ」	●もしも…〜構造が未来へつなぐ夢〜	●私の空間作法—会員作品—
2007 vol.88	●光り輝く京都の景観まちづくり	●学校新時代	●東海支部会員作品2007＋東海支部特集3部作	●創立90周年記念—この10年、これからの10年	●あそび考	●こだわりが創る住まいのカタチ	●住まいの設備と空間の移り変わり	●建築系雑誌が伝えるもの	●建築基準法等大改正	●第54回青年技術者	●ガラスを考える	●楽しい構造の世界
2008 vol.89	●私の空間作法—会員作品—	●PFI事業、その後	●東海支部会員作品2008＋東海支部特集3部作	●まちづくり2011年宣言	●新ホテル物語	●設備に役立つ地震対策	●中国地方を訪ね歩いて見えるもの ●小林聖心女子学院	●建築と景観	●第55回青年技術者	●木造住宅を巡って	●建築においてROBOTが活躍する日は来るのか？	●自然と戦う構造

＊は欠号

第54回 工高生デザインコンクール

設計課題／インターネットカフェ

応募校数●26校　応募作品数●98点
締切日●平成20年９月30日　審査会●平成20年10月18日　表彰式●平成20年11月15日



◀審査コメント／江川直樹

課題に対する既存のものへの問題意識、提案力が良い。それをいかに空間化しつつ、都市の中で建築化していくのかということへの試みの姿勢を評価する。場所の選び方も良い。建築としての解き方は未熟であるが、構想が一番大切である。現実に向かってことを進める中で、さらに多くの課題を背負い、より包容力のある豊かなものに仕上げていくのが建築の醍醐味であるが、現実には、構想のもっていた大切なものが失われていくケースも多く見受けられる。そこのところを意識して、さらに高いポジションに昇れるように精進されることを期待する。

入選・最優秀賞　**岸本麻希**　大阪市立工芸高等学校３年

私は、今までのインターネットカフェでは面白くないと思いました。インターネットカフェにパソコンがあるのははや当たり前になっており、私は、そういう固定概念をくずそうと考え設計しました。設計にあたって、特に、インターネットとどう繋げるかということを試行錯誤して出来上がったのが今回の作品です。

何回もやり直して仕上げた作品だったので、実際期待も半分ありましたが、知らせを受けた時は、まさか最優秀になるとは思ってもいなかっただけにすごく嬉しかったです。

審査総評

審査委員長　**久保清一**

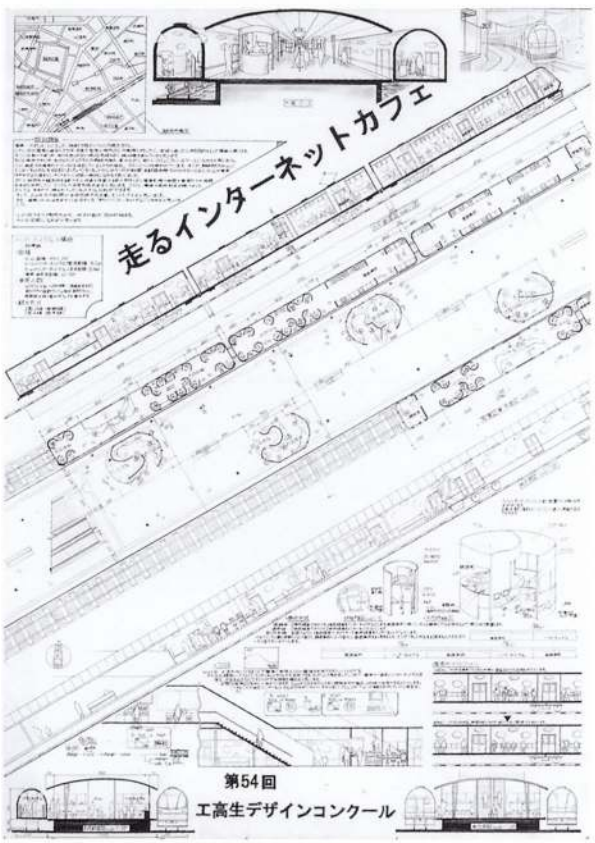
今の時代、インターネットをやる場所が必要か、というのが本音かもしれない。しかし、それはさておき、ビジネスモデル化したインターネットカフェには、ネット難民現象をはじめ、なんと社会問題が多いことか。この双方の矛盾からか、とにかくコンペ課題「インターネットカフェ」は審査する側も非常に難しかった。テーマの性格上、当初より設計条件について厳しい制約を加えるのはやめようと考えていた。若い人たちの自由な発想に期待する気持ちが強いからだ。いつもより多くの若手建築家に審査をお願いしたのも、そこに理由がある。しかしながら、応募数が昨年より減少したのは残念であった。やはりテーマが難しかったからだと思う。

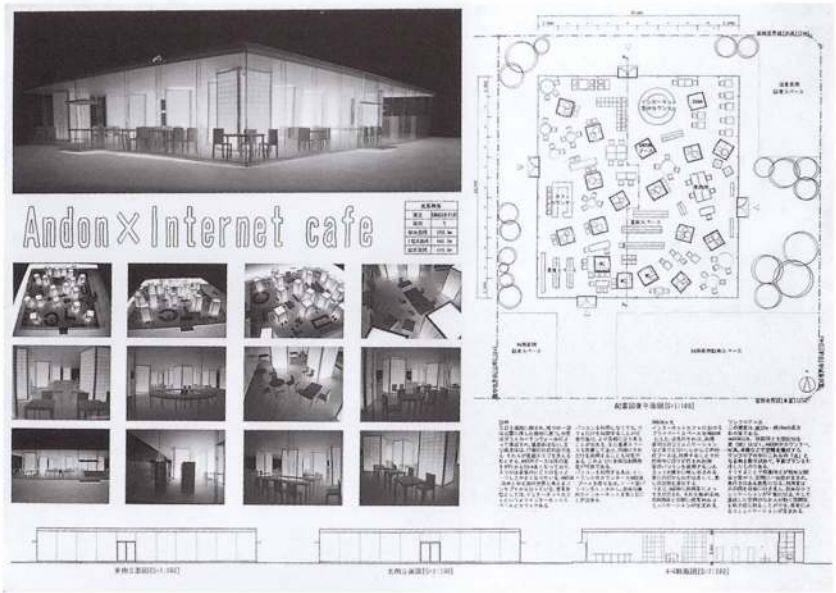
最近、若い人たちのコミュニケーション能力の低下が、よく取り上げられる。携帯電話などの普及によりメールやインターネットは日常行為そのもので、コミュニケーションツールは確実に増えている中での問題である。言いたいことを伝えるための手段、知りたいことを調べる手軽な道具であるが、本来のコミュニケーションとは遠いものになってしまっているのだろう。それ故かコミュニケーションアレルギーが蔓延する。それでは建築はつくれない。なぜならば建築もまたコミュニケーションツールそのものなのだ。人とモノ、人と人、人の営みと空間の関係性を構築することこそ、建築のレゾンデートルが証明されるからだ。同じことばかりをまるで台本を繰り返すように言ったり、伝えたいことが形式化していて変化がなく、聞くまでもなく内容がわかってしまう退屈な表現に誰が耳を傾けるだろうか。

これまでのインターネットカフェは、ボックス型やカウンター型が主流だが、モニターの向こう側と交信するとてもプライベートな使途から、その場に居合わせた人たちが交流をもつ場面などまずない。それどころか孤独を楽しむスペースと言える。そこに新しいコミュニケーションの場の可能性を切り開くアイデアを示すのだから簡単ではない。おのずと作品傾向がいくつかに絞られた。全作品を見ていく過程で、ほぼ４つの傾向が浮かび上がった。森の中や公園でネットを楽しみながら交流をもつイメージの自然派、駅施設や駅前など地域の人々や旅行者が集まる場所を選んだ駅派、さらには、散歩道や橋、歩道橋などの移動空間を対象としたインフラ派、また歴史的環境や建物の魅力に着目したリノベーション派などである。そのなかで最優秀賞に輝いたのが、岸本案の大阪・梅田駅前歩道橋の一部にドームをかけるというものだ。歩きながら壁をタッチしたり、足で二度踏みすれば多面体ドームに嵌められた液晶パネルが楽しめたり、好きな画像に投票できたりする。ストリートライブや大道芸の魅力をネットカフェを通して進化させた作品で、市民参加型のプログラムや身体性を獲得した空間構築が評価された。

入選・優秀賞 **佐野智哉**
静岡県立科学技術高等学校２年

新しい情報コミュニケーションスペースについて考えたとき、真っ先に浮かんだのが「電車」です。携帯電話や新聞などのかわりとなる情報システムやマナーの改善となる「走るインターネットカフェ」を設計しました。初めて鉛筆だけでの作品づくりをし、本当に苦労しました。その分努力をして、最後まで打ち込んでいけました。その結果、このようなすばらしい賞をいただき、うれしく思います。





入選・優秀賞 **関口宏海** 山梨県立甲府工業高等学校３年

CADに頼りがちな傾向にあるコンペの中で、手描きですべてを表現するという部分に魅力を感じ、このコンペに参加しました。「インターネットカフェ」での新たなコミュニケーションの可能性を求め、模型制作にたくさんの時間を費やしました。模型写真を全面的に用いたプレゼンテーションがうまく目を惹いてくれたのだと思います。ありがとうございました。

▲審査コメント／長坂　大

インターネットブースが大きな行灯になり、利用者が動く影となってカフェの魅力的なインテリアとなっている。ブースのランダム配置は既視感が強くて少し気になるが、インターネットカフェのインタラクティブな性質について一定の提案となっていると思う。今後「インターネットカフェ」という新しいビルディングタイプが定着するとは思えないが、光るブースの身体性は、それを超えて汎用性のあるアイディアだと思う。

◀審査コメント／芦澤竜一

電車の中で多くの人が無言で携帯電話に向き合う光景。移動する電車やホームは、自分だけの時間を得ることができる空間であろう。佐野智哉君の案は、電車内の閉鎖的な状況をポジティブな方向に変換する可能性をもつ案だと感じた。開放的で、便利で、心地よいネットカフェをつくろうという提案である。ただし空間デザインのオリジナリティが薄かったことが残念である。

●審査記録

10月10日　予備審査：応募作品について応募規定違反の有無を調べ、その検討を行った。
（教育委員会・工高生教育小委員会）

10月18日　審査会：欠席の審査委員２名による事前審査と審査委員11名による当日審査。
（審査時間13：30～18：00）

●審査経過

審査を開始するにあたり、本年度の応募校数、応募作品数の報告と大きな違反がなかった旨の予備審査報告が行われた。続いて審査委員長より審査方針の確認があり、審査に入った。

■１次審査（審査委員11名、事前審査２名）98作品→26作品
全応募作品について、審査委員１名につき10作品を選んで投票し、当日欠席した審査委員２名の票を加え集計した。

得　票	13	12	11	9	8	6	4	3	2	1	0
作品数	1	1	2	2	2	1	4	3	6	4	72

票を得た26作品を１次審査通過とした。（審査時間13：50～15：00）

■２次審査（審査委員13名）26作品→16作品
１次審査にて得票１、２及び３の13作品について審議し、得票３以上の16作品を２次審査通過とした。（審査時間15：00～16：00）

■３次審査（審査委員11名）16作品→11作品
２次審査を通過した16作品について、審査委員１名につき３作品を選んで投票を行った。

得　票	8	4	3	2	1	0
作品数	2	1	1	3	4	5

票を得た11作品を３次審査通過とした。（審査時間16：00～16：40）

■４次審査（審査委員11名）11作品→入選10作品
得票２以上の７作品を入選とし、得票１の４作品について審議を行い、合計10点の入選作品を決定した。（審査時間16：40～17：10）

■５次審査（審査委員11名）入選10作品→最優秀作品１点、優秀作品２点
優秀作品３点を選ぶにあたり、３次審査で得票８の２作品を優秀作品とし、次に優秀作品１点を決定するために得票２、３及び４の５作品について審議し、審査委員１名につき１作品を選んで投票を行った。

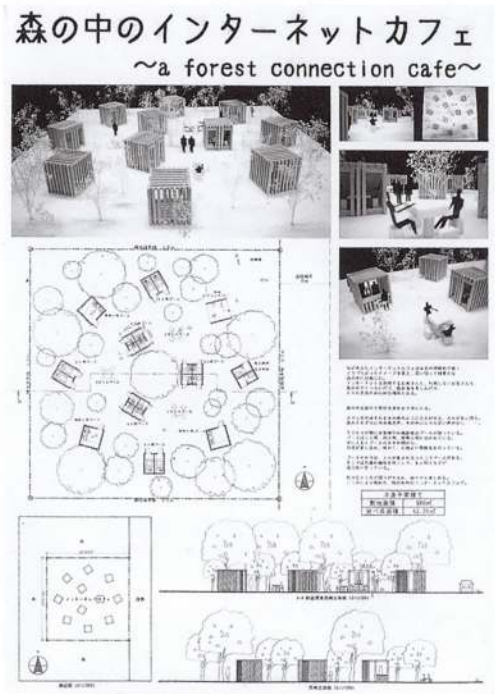
得　票	3	2
作品数	1	4

得票３の１作品を優秀作品とした。引き続き、最優秀作品１点を選ぶため、優秀作品３点について審議し、審査委員１名につき１作品を選んで投票を行った。

得　票	7	4	0
作品数	1	1	1

優秀作品３点のうち、得票７の作品を最優秀作品に決定し、審査を終了した。

会誌「建築と社会」への審査経過報告掲載にあたり、10点の入選作品について審査委員が分担してその評価を紙面にまとめることを約束し、審査会を終了した。（審査時間17：10～18：00）



入選　**中込慎也**
山梨県立甲府工業高等学校２年

課題は「インターネットカフェ」ということで、まずは自分が行きたくなるような設計をしようと考えました。閉鎖的なブースをあえて環境と密接にかかわらせることで、いい空間が生まれたと思います。審査が厳しいこのコンペで入選できたことは自信につながると思います。遅くまで残って作業をしたので、通知が来たときはとても嬉しかったです。一緒に遅くまで残っていてくれた顧問の先生には感謝しています。

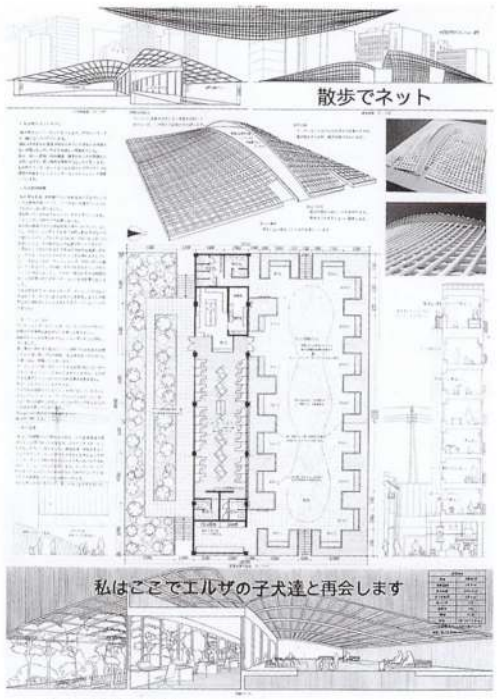
▲審査コメント／伊藤直幸

インターネットカフェを、明るく開放的でパブリックな空間へ開放したという点で、新しいインターネットカフェのありかたが提案されている。個々のブースは木造で同形の立方体をしており、計画地の中にランダムに配置されているが、森と対峙することなく、自然のランドスケープの中にうまく溶け込んでいる。森の中をさまよい歩く様と、インターネットの世界をさまよう様が重ねあわされたとも言える秀作である。

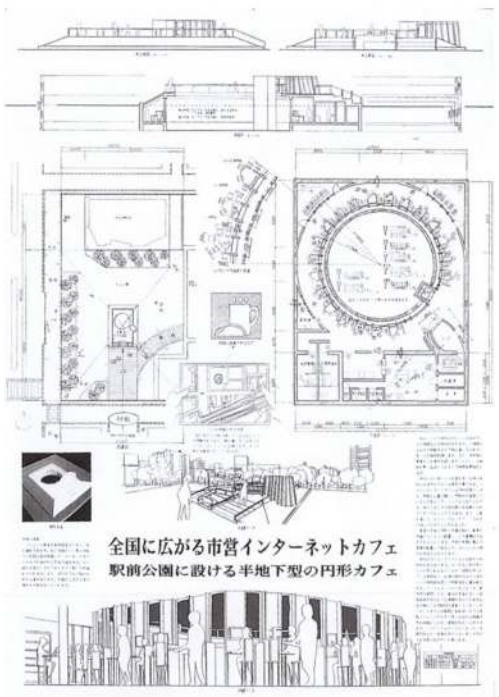
私の家で飼っているダルメシアンのエルザが出産し、その子犬たちの飼い主探しに困った話が元となっています。もらい手は知っている人の方がいいのですが、最終、業者に引き取られました。そこで、人が集まるところ、人と人とが直接情報交換できる場があればと思い、今回の提案をしました。普段自分では濃く製図しているつもりでしたが、すべて鉛筆仕上げのコンペに参加したことで、今までの製図がどれだけ薄かったのかがわかり、手描きの面白さもわかりました。

審査コメント／小笠原絵理▶

飼い犬をネットオークションで手放した苦い経験から、日常の散歩レベルでの飼い主とペット同士の交流の場が必要ではという身近な視点と情報交換の場としてのネットカフェを結びつけた提案には、必然性とリアリティが感じられる。建築的にも、構造的な力強さとおおらかさ、自然要素を取り込む心地よさをあわせもったバランスのとれた作品である。



入選　**阿師村珠実**　三重県立四日市工業高等学校2年

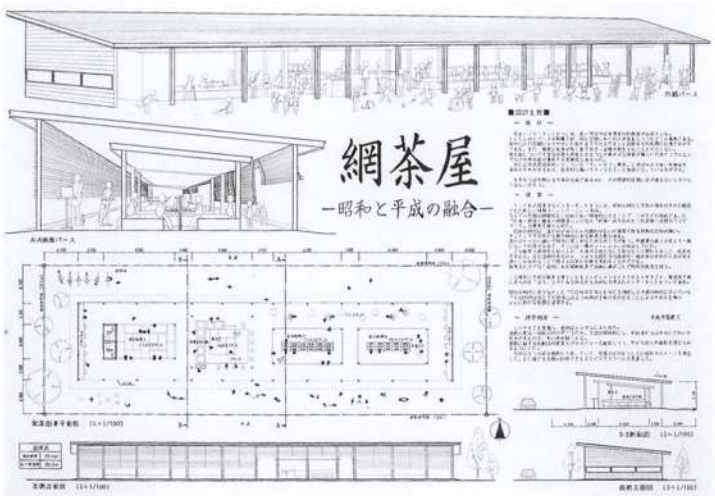


入選　**西田雄太**
三重県立四日市工業高等学校３年

私は一人で旅行することが好きです。必ず現地の地図と日程表を持参します。しかし実際の風景の中で、道に迷ったりします。そんなとき、このインターネットカフェがあったらいいなと思い、提案しました。入選通知を前に、先生とまず反省点などを話し合い、「入選しなかったのかな」と緊張しましたが、入選の文字を見たときはうれしく思いました。

◀審査コメント／濱田　徹

半地下、屋上庭園、円形プラン、中庭といった魅力的な道具立てに加え、使われ方を提案した詳細図や人の動きを想定したプラン表現は、時間をかけて検討されたことを物語っている。特長をうまく表現したパース・模型もわかりやすく、共感のもてる作品である。地図にのせるロゴマークのデザインまでするサービス精神には思わずニヤッとさせられた。



入選　**依田彩加**　山梨県立甲府工業高等学校３年

私は、インターネットカフェを利用したことがありません。どうしたら行きたくなる場所になり、どのようなインターネットカフェが存在したら楽しい時間を過ごせるかを考えたいと、制作に取り組みました。試行錯誤を繰り返した作品を認めてもらえて、嬉しかったです。設計競技に取り組むことで建築の難しさや可能性を知り、完成したときの達成感を味わうことができました。

◀審査コメント／佐々木　栄

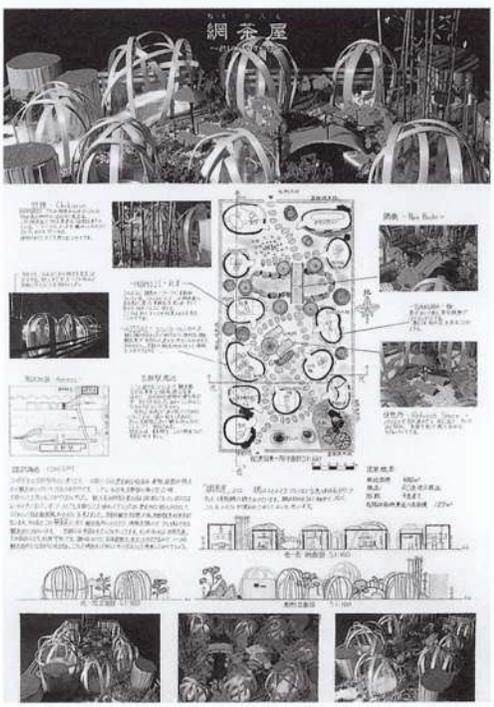
駄菓子屋やネットカフェが一体となり、「すだれ」が風にゆらぐ「網茶屋」は、子供たちをはじめいろいろな世代の人が集まり、楽しげにすごす新しい情報コミュニケーションスペースとして提案されていた。周辺環境とのコンテクストは不明だが、工高生らしくインターネットカフェの問題に真摯に向かった姿勢、簡潔かつ明瞭な空間構成、鉛筆単彩による的確な表現力は本コンクールの趣旨に相応しい秀作であった。

入選 **萱原裕馬** 滋賀県立八幡工業高等学校３年

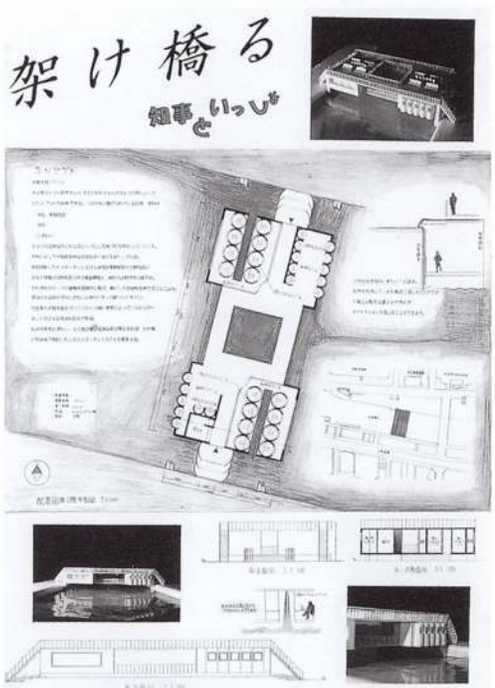
近江八幡は歴史のある素晴らしい町です。この近江八幡に古くからある町家にインターネットカフェを融合してみようと、制作しました。入選と聞いたときはすごく驚き、その後にじわじわと喜びの感情がわいてきました。締め切りの10日前くらいから学校に遅くまで残って制作に取り組み、時間をかけた作品だったので、評価してもらえてうれしかったです。

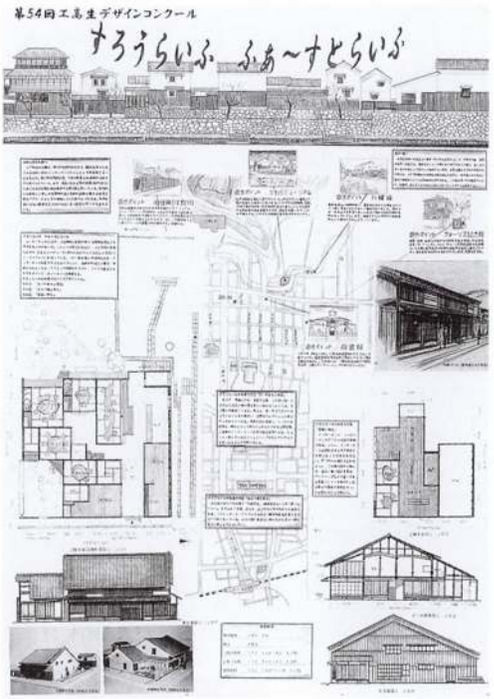
審査コメント／長瀬りか▶

日常に溶け込むネット環境に疑問を抱き、会話や読書、場所の空気を楽しむ行為との共存を大切にし、カフェの姿を素直に捉えた柔らかな視点の作品である。町並み調査も踏まえたアプローチは良いが、相互の繋がりを生む方策に工夫がほしい。商家の空間構成をもっと立体的に捉え、土間を介した内外の連続性をどう活かすかなど、もう一歩踏み込んだ内容が示せればと思う。



入選 **中谷美緒** 大阪市立工芸高等学校３年





入選 **河野恵佳** 大阪市立工芸高等学校３年

明るく、落ちつきのある空間をつくるため京都という場所を選びました。京都の有名な日本庭園をそのままとり入れることができたらいいなと思い、この網茶屋を考えました。京都に何回も足を運び、庭や観光地を回って考えた甲斐があったと思いました。模型制作にも力を入れて良かったです。

◀審査コメント／田代　純

華やかで楽しいプレゼンテーションがまず目に飛び込んできた。互いに見知らぬ人が近接しながら時を過ごすネットカフェという場の特徴をよく捉えた案で、大勢の旅人が降り立つ京都駅前に竹林を設けて……という発想もおもしろいと思う。ただ、竹かごのスキンの内側にもう一つ固い壁を設けているのはなぜか？　創ろうとする空間の質感をよりリアルにイメージし、材料や構法のあり方にももう一歩迫ってみると、さらに説得力のある案になると思う。

大阪の建築物がたくさんつぶれていくなか、それでも存続できるような、魅力や社会とのつながりをもつ建築物をつくりたいと思ったので、このようなインターネットカフェを設計しました。まさか自分が入選するとは思っていませんでした。ですが、今回の作品の模型はとても力を入れて取り組んだので、入選の通知を受けたときは、すごくうれしく思いました。これからもがんばろうと思いました。

◀審査コメント／遠藤秀平

橋を設計する役割を多くの場面で建築家が担ってきた。大阪の銀橋も建築家・武田五一のデザインによる。そこには都市の風景に対して果たす重要な役割がある。それは、都市において開放された広い視界を得られる貴重な共有環境の創出としてである。インターネットカフェに対する解答として「架け橋る」は、橋の下という大胆な場所の設定により新たな視界と景観を提案している。今後はやや密度が不足する図面表現を高め、その発想力を広くそして深めることを期待したい。

●応募学校

・福島県立
　勿来工業高校
・群馬県立
　高崎工業高校
・神奈川県立
　神奈川工業高校
・山梨県立
　甲府工業高校
・新潟県立
　新発田南高校
・富山県立
　高岡工芸高校
・金沢市立工業高校
・福井県立
　武生工業高校
・静岡県立
　科学技術高校
・岐阜県立
　可児工業高校
・私立
　名古屋工業高校
・三重県立
　伊勢工業高校
・三重県立
　四日市工業高校
・滋賀県立
　八幡工業高校
・京都市立
　伏見工業高校
・大阪府立
　西野田工科高校
・大阪市立工芸高校
・大阪市立
　都島工業高校
・堺市立工業高校
・和歌山県立
　和歌山工業高校
・岡山県立
　岡山工業高校
・鳥取県立
　鳥取工業高校
・広島県立
　広島工業高校
・高知県立
　高知工業高校
・大分県立
　鶴崎工業高校
・大分県立
　日田林工高校

入選者の感想文は誌面の関係上、委員会にて要約の上、掲載しました。
文責・岡本展好／教育委員会

写真撮影
スタジオコムズ

●審査員（50音順・敬称略）

久保　清一／建築家・大阪芸術大学大学院芸術研究科教授 -委員長-
芦澤　竜一／芦澤竜一建築設計事務所代表
伊藤　直幸／㈱大林組本店建築設計部課長
江川　直樹／建築家・関西大学環境都市工学部建築学科教授
遠藤　秀平／建築家・神戸大学大学院工学研究科教授
小笠原絵理／間工作舎主宰
佐々木　栄／㈱昭和設計執行役員都市・建築本部統括
笹村　欽也／㈱東畑建築事務所大阪事務所設計部部長
田代　　純／建築家・大阪工業大学工学部空間デザイン学科教授
寺岡　宏治／㈱安井建築設計事務所設計部部長
長坂　　大／建築家・京都工芸繊維大学大学院教授
長瀬　りか／RH＋計画研究室
濵田　　徹／鹿島建設㈱関西支店建築設計部長
増田　俊哉／㈱竹中工務店大阪本店設計部副部長
渡辺　豪秀／㈱日建設計設計部門設計室長

457

法令コーナー

被災建築物応急危険度判定

田上幸二
大阪府住宅まちづくり部建築指導室

近年、新潟県中越沖地震や岩手・宮城内陸地震など最大震度６強の地震が起こっており、わが国では、大きな地震がいつどこで起きても不思議でない状況にある。大阪府においても、東南海・南海地震の海洋型地震や上町断層系の直下型地震など大地震の発生が懸念されている。

建築物の安全性を確保する第一義的責任を有するのは、その建築物の所有者、管理者または占有者である。しかし大きな地震の直後には、一般に多数の余震が発生する。地震で被災した建築物は余震によって再び大きな振動を受けると破壊が進展し、場合によっては倒壊に至ることもあり、多くの人々が二次災害の恐れに直面することになる。特に被災建築物が道路や隣家に影響を及ぼす恐れのある場合は、第三者に被害が及ぶ可能性も高い。

これらのことから、行政が地震発生直後の応急対応の一環として、被災建築物の安全性の判定を応急的に実施する必要がある。



道路を閉塞する住宅

応急危険度判定

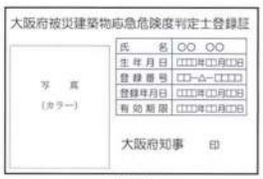
応急危険度判定は、余震等による被災建築物の倒壊、部材の落下等から生じる二次災害を防止し、住民の安全の確保を図るため、建築物の被害の状況を調査し、余震等による二次災害発生の危険の程度の判定・表示を行うことである。

これは、罹災証明のための被害調査ではなく、建築物が使用できるか否かを応急的に判定するものである。

応急危険度判定士

応急危険度判定士は、被災地において、地元市区町村長または、都道府県知事の要請により応急危険度判定を行う技術者である。

応急危険度判定士は、建築技術者を対象に、都道府県知事等が講習会を実施して認定及び登録するものである。応急危険度判定士は、判定活動に従事する場合、常に身分を証明する登録証を携帯し、「応急危険度判定士」と明示した腕章及び、ヘルメットを着用する。



登録証

判定作業

判定作業は、都道府県に事前に登録された応急危険度判定士２人が１チームになって、調査表等に定められた基準により、客観的に判定する。

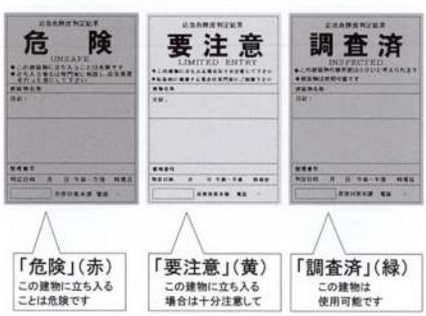
なお、応急危険度判定は地震発生直後に実施するものなので、判定作業の際、常に余震及び周囲の状況に気を配り、危険と思われる建築物には立ち入らないなどの配慮が必要である。

判定結果の表示

応急危険度判定の結果については、下記の３種類の判定ステッカーを出入り口等の見やすい場所に表示し、当該建築物の利用者・居住者だけでなく、建築物の付近を通行する歩行者にも安全であるか否かを容易に識別できるようにする。

また、判定ステッカーには、判定結果に基づく対処方法に関する簡単な説明及び二次災害防止のための処置についても明示する。

なお、判定結果に対する問い合わせ先もステッカーに表示する。



判定ステッカー

応急危険度判定の実績

最近の事例として、平成19年７月16日に発生した新潟県中越沖地震の際は、31都道府県登録の応急危険度判定士の協力により、34,048棟の建築物の応急危険度判定を実施している。平成20年６月14日に発生した岩手・宮城内陸地震の際は、4,043棟の建築物の応急危険度判定を実施している。

なお、過去の応急危険度判定の活動実績について、判定棟数が10,000棟を超えたものを下記に示す。

過去の応急危険度判定の実績

地震名	兵庫県南部地震　平成7年1月17日		
判定実施主体	兵庫県、神戸市、尼崎市、西宮市、伊丹市、宝塚市、川西市、芦屋市、明石市、淡路地区		
判定地区	神戸市、尼崎市、西宮市、伊丹市、宝塚市、川西市、芦屋市、明石市、淡路地区		
判定対象建築物	共同住宅及び長屋	判定期間	平成7年1月18日～2月9日
判定人数	約6,468人	判定棟数	46,610棟
判定結果	調査済 30,832棟	要注意 9,302棟	危険 6,476棟

地震名	新潟県中越地震　平成16年10月23日		
判定実施主体	新潟県、長岡市、見附市、栃尾市、越路町、小千谷市、川口町、魚沼市、南魚沼市、十日町市、川西町、中里村、柏崎市、小国町、刈羽村、西山町、松代町		
判定地区	小千谷市、見附市、長岡市等（8市6町2村）		
判定対象建築物	住宅	判定期間	平成16年10月24日～11月10日
判定人数	3,821人	判定棟数	36,143棟
判定結果	調査済 19,778棟	要注意 11,122棟	危険 5,243棟

地震名	新潟県中越沖地震　平成19年7月16日		
判定実施主体	新潟県、柏崎市、出雲崎町、刈羽村		
判定地区	柏崎市、出雲崎町、刈羽村		
判定対象建築物	住宅	判定期間	平成19年7月16日～7月23日
判定人数	2,758人	判定棟数	34,048棟
判定結果	調査済 20,150棟	要注意 8,943棟	危険 4,955棟

応急危険度判定の周知

応急危険度判定の有用性は、近年、特に高まっており、今後も大きな地震が発生した際には、応急危険度判定の活動は不可欠なものである。

地震が発生した際に、応急危険度判定を円滑に行うため、常日頃から、この調査は罹災証明のための被害調査ではないことなど、応急危険度判定を広く住民に周知していく必要がある。　（たがみ　こうじ）

366
構造の頁

完全プレキャスト化を目指したRCの施工方法

藤生直人
㈱大林組東京本社東京建築事業部第二特定工種工事事務所
躯体PCG　工事長（生産技術部専門技術課兼務）

LRV工法概要

LRV工法（Left Right Vertical installation Precast method）は、**図1**に示すように、仕口部と梁の一部をプレキャスト化した部材を用いる、以下のような工法である。

①柱主筋位置を、シース管を用いて貫通孔とした梁・仕口一体プレキャスト（LRビーム）

②柱頭部に主筋用モルタル充填型機械式継手を内蔵し、柱主筋が下向きに突出したプレキャスト柱（Vコラム）

によって構成される。

Vコラムの下向き柱主筋は、LRビームの貫通孔を通り、下部Vコラム柱頭のスリーブ継手に差し込まれる。一方、梁主筋に関しては、LRビームの一方の端部にスリーブ継手を内蔵させ、他端から突出した梁主筋を水平移動により差し込むことでジョイント（横ざし）する。すなわち、LRビームを設置する時には下部柱より柱主筋が出ていないため、横ざしが可能となる。

本工法により、次のようなメリットが得られる。

①LRビーム相互が直接スリーブ継手で接合されるため、従来型のプレキャストで必要であった、梁ジョイント部でのコンクリート現場打設がなくなる。

②仕口がプレキャスト化されているため、スラブなどのほかの部位のコンクリート打設を待つことなく、次節の柱・梁の建て込みが可能である。

③従来型プレキャストのように、仕口部における梁プレキャスト（梁主筋）の納まりで錯綜がなく、建て込み効率が良い。

④柱と梁を同時に完全PC化することが可能。

LRV工法の柱主筋・梁主筋継手グラウト注入方法は、以下に示す通りである。

A）柱主筋継手：単体グラウト注入

スリーブ継手に設けてある注入孔からグラウト材を注入し、目視にて天端あふれ出しを確認して注入完了とする。

B）仕口部目地・シース：一体グラウト

下目地に向けて設けられた注入孔からグラウト材を注入し、下目地を介し個々の主筋貫通孔を通って上部Vコラムと LRビーム間の目地（上目地）を充填する。

C）LRビーム継手・目地：一体注入

梁に設けられた継手注入孔からグラウト材を注入し、目地部を介してすべての継手に注入される。

LRV工法を用いた接合部実験

LRV工法で構築した柱梁接合部が、在来工法により構築した接合部と同等の性能を有することを、実験により確認した[3]。

試験体は2体で、PCa化手法をパラメータとしている。配筋は下層部分を想定して決定した。ただし、柱梁接合部のせん断補強は各試験体共通で、2－D10@200（pw=0.18%）とし、接合部の損傷状況やシースの付着性状が耐力性状に及ぼす影響をより明確にするため、実際よりかなり少なくした。最終的には接合部せん断破壊となった。LRV工法によるPG試験体と在来工法のRC試験体との耐力・変形性状に目立った違いはなかった。

これらの実験に関する概要と結果については、詳しくは文献3）と**図2**を参照願いたい。

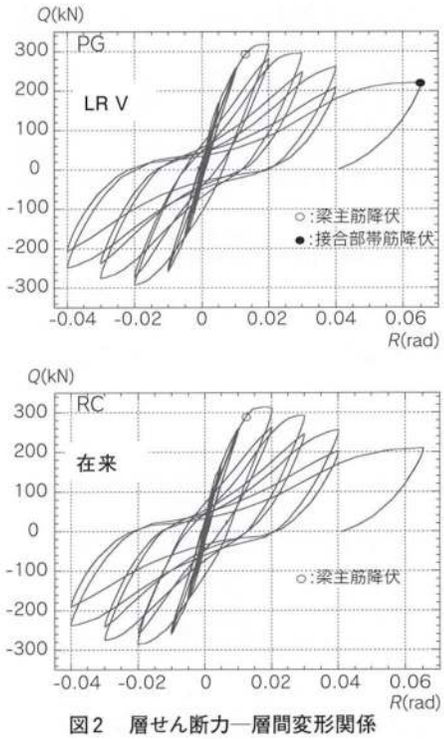


図2　層せん断力―層間変形関係

施工サイクルと施工実積

17現場ごとに施工サイクルは異なるが、標準サイクル実績と物件数を**表1**に示す。

表1　施工実績（2008現在）

標準サイクル工程	物件数
2.5日／フロア	1件
3日／フロア	5件
4日／フロア	9件
5日／フロア	2件

まとめ

合理的かつ効率よく施工する工法として、梁・仕口部一体型プレキャストを用いた完全PCa施工法を開発した。本工法を採用することで、厳しい施工条件にもかかわらず無理なく、標準フロア1フロア2.5日タクトを実現することができた。

参考文献

1）叶健佑・藤生直人ほか：オールプレキャスト化を目指した高層集合住宅の施工、コンクリート工学、Vol.44、No.8、pp.48-53、2006.8

2）武田寿一ほか：柱・はり接合部PC化工法を用いたRC高層建物の開発（その1）、大林組技術研究所報、No.35、1987、pp.103-107

3）太田俊也、畑戸能夫ほか：柱梁接合部のプレキャスト化に関する実験研究（その1　柱梁接合部実験）、日本建築学会大会講演梗概集、2004

（ふじう　なおと）

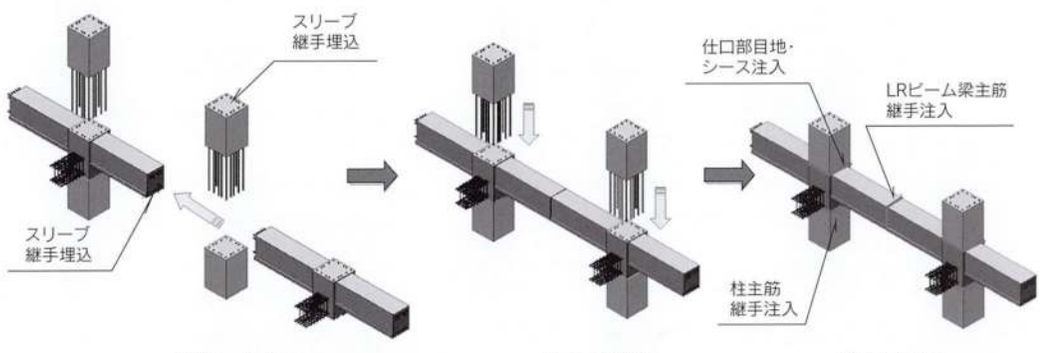


図1　LRV工法の概要

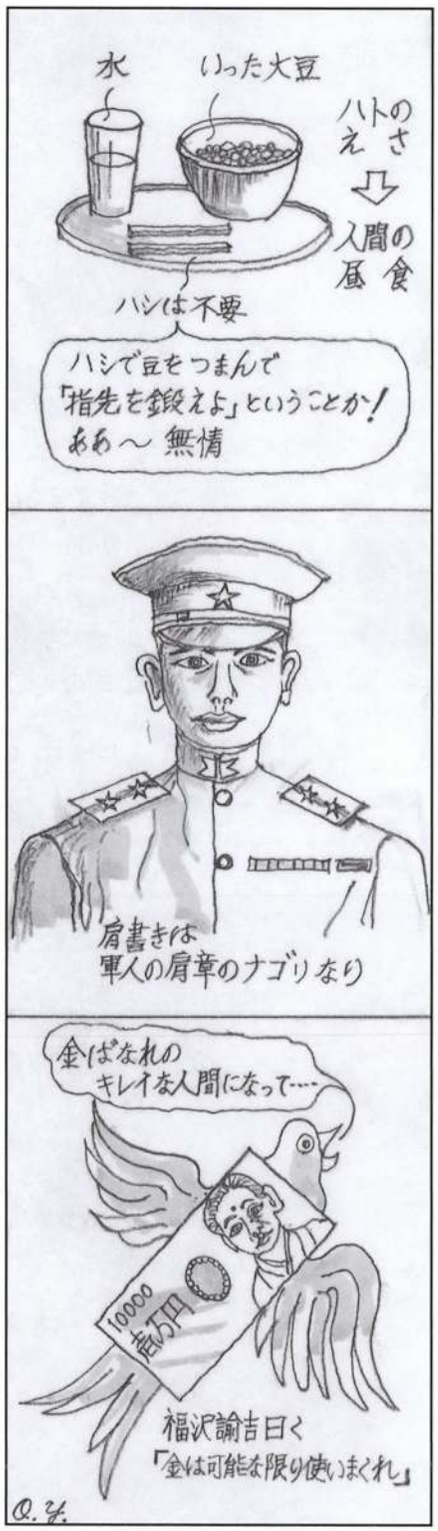
読者の頁

投稿をお待ちしています

昭和一(ひと)けた族のタワゴト

山田　修

修　建築事務所



昭和一けた族（1926～34年生まれ）は、いまや後期高齢者層に突入した。人生の成長期に15年戦争（満州事変～日中戦争・太平洋戦争）を体験した世代である。

わたしの中学時代は三無（学力なし・食糧なし・体力なし）時代だった。食べたい成長期に食べられない苦しさは、何とも表現しがたい異様な現象である。

学徒勤労動員時に、O工場で出された昼飯には、ぶったまげたなァー。アルミの食器にイリ大豆が半分入っただけである。お茶はなくコップ一杯の水がついていた。ハトのエサと同じである。これが人間の昼飯か、と腹が立った。「これで一日中、立ちつくして働け」とは……。怒り心頭に発する。「心頭を滅却すれば豆もまたうまし」と読みかえて辛抱、辛抱。腹がへっては戦(いくさ)はできぬモノ。

人生の成長期にすごした基礎学力の無さ・美術教育の貧弱さ・食生活の貧困さがその底には淀んでいる。食事マナーを学ぶ期間が、すっとんでしまった世代だ。

アルコール類の飲み方も、せかせかしている。ゆっくりと時間をかけて楽しむということをしない。できないのだ。舌の上をころがして飲むという習慣、香りとコクを味わう余裕を持っていない。“一時二友三肴(いっときにともさんさかな)”という言葉も忘れている。

「ホロ酔いの美学」を出したいのだが、どうしても演出できない世代である。生(き)一本のテレ屋なのだ。

肩書きを欲しがる世代

過日、中学校時代の同窓会があった。C氏が嬉しそうに名刺をさし出す。見ると「○○自治会長・○○市○○協会顧問・○○の会（趣味の会）会長・○○県人会○○市支部長・○○県観光大使」と五つも肩書きが並んでいた。肩書きを嫌った年代なのに、肩書きがないと暮らしていけないのだァー、と感じた次第。

ところで、わたしたちの成長期は、肩書き全盛の時代だった。軍人が幅をきかせた社会だから、ホシ一つが多ければ多いほど威張りちらしていた。それを受けて、学校内でも上級生は、下級生に向かって尊大な態度をとっていたなァー。言葉で制しえないときは、上は下に向かって鉄拳制裁を用いている。ムチでなぐって教える暴力教師も存在していた。

こんな思い出が強烈に残っているから、肩書きを振り回す人は大嫌いである。肩書きにまつわりつく大ゴマスリも嫌いだ。小ゴマスリは可愛くて面白い。

現役時代の肩書きは、大切である。肩書きつきの名刺一枚で、飲み屋のツケが利くからだ。それに引きかえ、老年層の肩書きは、自己満足・自己陶酔の紙キレにすぎず、実用上は何の効果も発揮しない。誰にも迷惑がかからない肩書きは、一人遊びの手段として活用しても可、と考えた。ボケ防止をかねて、いろんな肩書きを創作して並べるのもよろしかろう。

顧問とは　来ん者とよむ　時代なり
肩書きを　死ぬまでつける　世代かな
肩書きを　持ち続ければ　勲章や
肩書きを　はずして晴れる　笑顔かな
人間は　引けるときこそ　大事なり

ケチで孤独な世代

悲しいかな昭和一けた族は、人生の成長期に15年戦争があり、学校と家庭は、剛の戦争を優先してとりあげたが、柔の人情味ある学び方・育て方は、しなかった。加えて、柔の元祖となる遊びの世界が、存在しなかったのは悲しい。

考えてもごらん。機械的に剛な車のハンドルでも、遊びという空間が存在する。「遊び」という空間があるからこそ、ユッタリとした柔の安全運転が可能なのだ。遊びの空間がなかった戦争中の人間社会に、思いやりの心が育つはずはなかろう。

「他人にモノをゆずる」という簡単なコト自体ができなかった。モノをゆずっていると、自分自身が生きていけない。モノがあれば、まずオノレが確保しなければ生活できなかった。オノレを犠牲にして「戦争に勝つためには……」と、モノ不足をあきらめさせられたなァ。「欲しがりません。勝つまでは……」と叫ばされて、人間としての生活は否定されていた。

昭和一けた族は「わたしは、○○というケチな人間ですが……」とオノレをけんそんするときにも使うが、正味そのままを使っている、と思ってもらえば可である。

ケチは、思いやりのない自己中心者、といえる。ケチケチな学生時代をすごしてきたから、金を持っているのに、他人のためにはビタ一文使おうとしない。ケチは孤独にも通じていた。

年とともに、私のケチの根性は失せたから、ケチはだいぶ直ってきた。本心は「金ばなれがキレイだなァー」といわれるように、男の美学の向上をめざしているのだが……。しかし、体力・知力の低下が著しい世代だから、金ばなれの効果は意外と少ない。

さいきんは、金を豊かに使うように心がけている。「金を豊かに使うことは、心が豊かになることなり」と自問自答をする。が、これは、貧乏でケチだった青春期の裏返しの行動かも知れない。　（やまだ　おさむ）

お知らせ information

▶「どう果たすか国際支援」関西学院大学でフォーラム開催

「どう果たすか国際支援～国家・社会・文化の壁超えて～」をテーマに、関西学院大学災害復興制度研究所はフォーラムを開催する。

申込先　関西学院大学災害復興制度研究所
〒662-8501　西宮市上ヶ原1-1-155
URL http：//www.fukkou.net/
FAX 0798-54-6997

入　場　無料。定員になり次第締め切り。

●2009年1月11日(日)14：00～20：00
【被災地交流集会・復興デザイン研究会】
宮城・栗駒、新潟、能登、鳥取・日野、三宅島、神戸などの被災地からゲストを迎える。
会場：関西学院大学B号館104号教室
【懇親会】18：00～
会場：関西学院会館「風の間」

●2009年1月12日(月・休)10：30～16：30
会場：関西学院会館レセプションホール
【プレセッション】
村井雅清（CODE海外災害援助市民センター理事・事務局長）
聞き手：山中茂樹（関西学院大学教授）
【特別講演】13：30～
演題「海外支援～日本の役割」
講師：姜　尚中（東京大学大学院教授）
【シンポジウム】14：30～
《パネリスト》加藤孝明(東京大学大学院助教)／斉藤容子（国連地域開発センター）／吉椿雅道（CODE海外災害援助市民センター）／ラジプ ショウ（京都大学大学院准教授）
《コーディネーター》室崎益輝（関西学院大学教授）

▶"美術館にアートを贈る会"から

美術作品を選定し、所蔵者としてふさわしい美術館を見つけて寄贈する、市民と美術館の新しい関係の構築を目指して"美術館にアートを贈る会"は活動している。
この一環として、参加者を募り、展覧会を鑑賞すると同時に学芸員から話を聞き、館のコレクション方針・姿勢などについて学ぶため、美術館を訪問してきた。
1月には兵庫県立美術館を訪れる予定で、同館のコレクション展「現代美術の世界へようこそ!」を、学芸員の河崎晃一さんとともに鑑賞する。

日　時　2009年1月25日(日)
訪問先　兵庫県立美術館
集　合　11：00にチケット売り場前に集合
参加費　無料、ただし入館料は各自負担
申込み　美術館にアートを贈る会へ。
e-mail：info@art-okuru.org

▶摂南大学工学部建築学科非常勤講師を募集

摂南大学工学部建築学科は、2009年度から原則年度ごとの「設計演習」担当の非常勤講師を2名募集している。

●担当科目と職務内容
建築学科の設計演習Ⅰ（後期月曜日3、4、5限）または設計演習Ⅱb（後期金曜日3、4、5限）のいずれかにおいて、設計課題の検討並びに20人程度のグループに対する設計指導

●報酬
時間あたり手当額、交通費等は、摂南大学で別に定めるところによる。

●応募資格及び条件
①設計指導に十分な実務経験と意欲があり、学生にわかりやすい演習が実施できること。
②摂南大学まで無理のない通勤圏内に居住すること。
③一級建築士の資格を有していること。

● 提出書類
①履歴書（6カ月以内に撮影した写真を貼付。備考欄には出勤可能な曜日・時間を記入）
②これまでの主な作品のポートフォリオもしくは研究教育業績書
③80円切手を貼付した結果通知返信用封筒。
応募封筒には「設計演習」非常勤講師応募書類と朱書きし、書留で送付

●提出期限　2008年1月20日（火）（必着）
●書類による第一次審査の後、面接を実施
●問い合わせ先と提出先
〒572-8508　大阪府寝屋川市池田中町17-8
摂南大学工学部建築学科学科長　田中直人
Tel 072-839-9128　e-mail junbi@arc.setsunan.ac.jp

▶新朝日ビル見学会開催

朝日新聞大阪本社の提案により、解体前の新朝日ビル見学会の内容が具体化した。

日　時　2009年1月17日(土)
13：30～16：00
場　所　新朝日ビルとフェスティバルホール
受　付　13：00からフェスティバルホール入り口にて
定　員　60人（最大で80人）
希望者多数の場合は抽選
申込先　所属する建築14団体事務局へ。日本建築協会会員の場合はTEL06-6946-6981へ。
内　容
- 新朝日ビルの歴史／竹中工務店・松隈　章
- フェスティバルタワー計画について／日建設計・江副敏史
- 現場見学―フェスティバルホールと新朝日ビル屋上の見学

▶京都工芸繊維大学大学院 建築設計学専攻修了制作展

■講演会（入場無料）
講　師　ドミニク・ペロー(Dominique Perrault)
日　時　2009年2月13日(金)18:00～20:00
会　場　キャンパスプラザ京都　第3講義室
京都市下京区西洞院通塩小路下ル
JR京都駅北側、京都中央郵便局西側
定　員　170人
■京都工芸繊維大学大学院建築設計学専攻
第四回修了制作展（入場無料）
会　期　2009年2月11日(祝)～2月15日(日)
10:00～19:00(最終日は17:00まで)
会　場　京都府京都文化博物館　別館ホール
京都市中京区高倉通三条北西角
■公開講評会（入場無料）
日　時　2009年2月14日(土)13:30～16:00
講　師　ドミニク・ペロー、遠藤秀平、
乾久美子（予定）
会　場　京都府京都文化博物館　別館ホール
以上3つの催しの問い合わせは、京都工芸繊維大学建築設計学専攻へ。
e-mail　kenchiku@kit.ac.jp

▶建設リサイクル法説明会開催

「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」、アスベスト関係法令、建築物の環境配慮制度に関する説明会が開催される。
日　時　2009年1月30日(金)13:30～16:30
会　場　茨木市立男女共生センター
ローズWAM（茨木市元町4-7）
地下2階ワムホール
阪急茨木市駅下車、西へ徒歩5分
定　員　180名（参加費無料）
申込み　1月28日までに、電子申請http：//www.pref.osaka.jp/kenshi/recycle/index.html かFAX06-6944-6810で、大阪府建築指導室審査指導課建築環境・設備グループへ。

▶「ヒューミライト」「タイカライト」調湿建材登録・表示制度に登録

所定の調湿性能を有する製品を登録することにより、その登録製品にマークを表示できるようにした㈳日本建材・住宅設備産業協会の「調湿建材登録・表示制度」に、日本インシュレーション㈱は「ヒューミライト」「タイカライト」を申請し、平成20年10月15日付けで調湿建材マークの使用登録を受けた。日本インシュレーション㈱は、今春を目途に「健康住宅建材バウビオシリーズ」として販売する予定である。

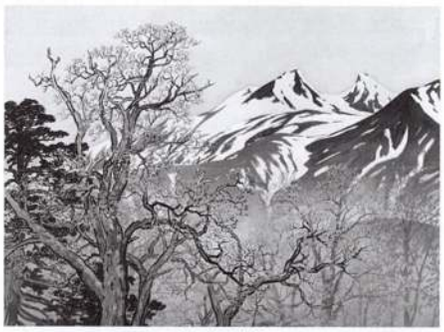
▶静物画の秘密展 ―ウィーン美術史美術館所蔵―


ベラスケス《薔薇色の衣裳のマルガリータ王女》
1653-54年頃　©Kunsthistorishes Museum Wien, Gemäldegalerie, Vienna

ウィーン美術史美術館は、ハプスブルク家が400年にわたりヨーロッパ各地から収集した遺産をもとに、1891年に開館した。
兵庫県立美術館では、静物画の黄金期である17世紀の作品を中心に、ウィーン美術史美術館のコレクションから75点を展示する。
会　期　2009年1月6日(火)～3月29日(日)
10：00～18：00（金・土は20：00）
月曜休館、1／12は開館・13日休館
会　場　兵庫県立美術館　企画展示室
神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1
阪神電車「岩屋」下車徒歩8分
観覧料　1300円、大高生900円、中小生500円
構　成　①市場・台所・虚栄の生物
―ペレダ《生物:虚栄(ヴァニタス)》など13点
②狩猟・果実・豪華な品々・花の生物
―ヤン・ブリューゲル（父）《青い花瓶の花束》など30点
③宗教・季節・自然と生物
―レアンドロ・ダ・ポンテ《6月》など12点
④風俗・肖像と生物
―ディエゴ・ベラスケス《薔薇色の衣裳のマルガリータ》など20点
招待券は日本建築協会（TEL06-6946-6981）へ。

▶「日本画の精華」展

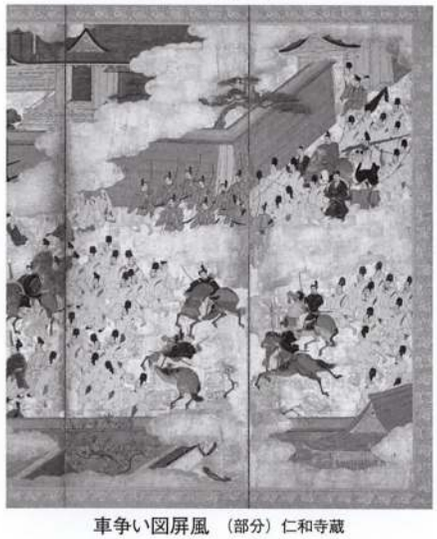
新春、西宮市大谷記念美術館ではそのコレクションの中から、線描によらない独自の画法をこころみた横山大観、日本的風景を描き続けた川合玉堂、理想の女性美を追求した上村松園ら近代日本画の優品約50点を展示する。


川合玉堂「乗鞍」1954年

会　期　2009年1月2日(金)～2月15日(日)
10：00～17：00　水曜日休館
ただし2／11は開館・翌木曜日休館
会　場　西宮市大谷記念美術館
西宮市中浜町4-38
阪神電車「香櫨園」下車徒歩6分
入館料　500円、高大生300円、小中生200円
出　品　橋本雅邦／富岡鉄斎／竹内栖鳳／山元春挙／菱田春草／木島桜谷／西村五雲／小林古径／前田青邨／奥村土牛／堂本印象／福田平八郎／山口蓬春／児玉希望／伊東深水／杉山寧ら
招待券は日本建築協会（TEL06-6946-6981）へ。

▶「京都御所ゆかりの至宝 ―甦る宮廷文化の美」

京都御所で、歴代天皇が数多くの芸術家や文化人との交わりの中で育んできた宮廷文化の全貌をかえりみる展覧会。京都御所や宮内庁で伝えてきた品々、天皇の下賜品、移築された御所建物に付属する障壁画の名品などが展示される。
会　期　2009年1月10日(土)～2月22日(日)
9：30～18：00（金曜日は20：00まで）
月曜日休館
ただし1／12は開館・1／13休館
会　場　京都国立博物館・特別展示館
京都市東山区茶屋町527


車争い図屏風（部分）仁和寺蔵

観覧料　1300円、大高生900円、中小生400円
展　示　①京都と天皇の遺宝②桂宮家と桂離宮③宮廷と仏教④宮廷の装束⑤御所の工芸⑥紫宸殿の荘厳⑦御所を飾った障壁画⑧御所の障屏画
招待券は日本建築協会（TEL06-6946-6981）へ。

▶ノリタケデザイン100年の歴史

日本陶器合名会社（現：ノリタケカンパニーリミテド）は明治37（1904）年に創業した。同社には、「オールドノリタケ」と呼ばれる食器類をはじめ、デザインの変遷の「画帖」など、貴重なものが保存されている。
本展では、西洋の華やかな装飾図案と日本の優れた技術から生み出された繊細華麗なテーブルウェアなど約210件の精華を展観する。
会　期　2009年1月6日(火)～3月15日(日)
10:00～18:00（金曜日は19:30まで）
月曜日休館(祝日の場合はその翌日)
会　場　京都文化博物館　4階特別展示室
京都市中京区三条高倉
入場料　1,000円、大高生700円、中小生400円
展　示　①モリムラブラザーズの創業
②オールドノリタケの世界
③ディナーウェアの誕生
④ノリタケ・アール・デコ
⑤テーブルウェアの変遷
招待券は日本建築協会（TEL06-6946-6981）へ。



色絵皿とカップ&ソーサー　1912-1967年
（フランク・ロイド・ライトデザイン　帝国ホテル注文品）

■関連行事（参加無料、同館3階映像ホール）
A）講演会「ノリタケの歴史と洋食器デザイン」
日時：2009年1月10日(土)11：00～12：30
講師：安藤忠治（株式会社ノリタケの森／ノリタケミュージアム館長）
B）講演会「明治以降の輸出磁器におけるデザインの変遷」
日時：2009年2月14日(土)11：00～12：30
講師：井谷善恵（多摩大学非常勤講師）
上記講演会参加希望者は、往復ハガキに所要事項と希望講座名を記入の上、京都文化博物館「ノリタケデザイン100年の歴史」展係（TEL075-222-0859）へ。

▶大阪歴史博物館特別企画展「お菓子の博物館」

「お菓子」に関するコレクションの展示を通して、大人同士、子ども同士、家族そろってそれぞれの視点で会話の弾む展覧会が大阪歴史博物館で開かれる。
特別企画展「お菓子の博物館―初公開・山星屋コレクション―」では、明治42年大阪創業の菓子卸売業最大手・㈱山星屋が収集してきた3万点を越える菓子関連のコレクションの中から明治・大正・昭和の時代のものを中心に選び、およそ500点の資料を展示する。



ヤシマドロップス　車形容器（ブリキ、昭和）

会　期　2009年1月14日(水)～4月6日(月)
9：30～17：00（金曜は20：00まで）
火曜日休館
会　場　大阪歴史博物館　6階　特別展示室
大阪市中央区大手前4-1-32
地下鉄谷町線・中央線「谷町四丁目」
入場料　大人600円、高大生400円
中学生と65歳以上は無料
出品物　ヤマシタドロップス車形容器／リリーガム首振り人形／不二家のミルキーホウロウ看板／グリコのおまけ等々
常設展示室での企画招待券は日本建築協会（TEL06-6946-6981）へ。

▶都市へ仕掛ける建築 ディーナー&ディーナーの試み

父マルクス・ディーナー（1918～1999）の事務所を息子ロジェ・ディーナー（1950～）が引き継ぎ主宰するディーナー&ディーナー（D&D）は、スイスのバーゼルを拠点にヨーロッパ各地でプロジェクトを展開している。
新築・改築・増築を問わず建築は現存する都市の一部にならなければならないと考え、都市の記憶をたぐり、その現在の活動を読み、人々が建築と都市の関係に新しい意味を発見することに手を貸す存在となるべく、周辺環境を丹念に分析しながら設計されるD&Dの建築は、都市になじんで、一見匿名的であるが、都市に対して内部から微妙なパルス（振動）を発生させている。
今回の展覧会の展示デザインはD&Dによるもの。静かにささやきかけるようなD&Dの建築とその思考の軌跡を知ることは、改めて都市と建築の関係を考える機会となろう。



ノヴァルティス本社屋　バーゼル　2005年竣工
photo ©Christian Richters

会　期　2009年1月17日(土)～3月22日(日)
11：00～19：00
1／17を除く金・土は20：00まで
月曜日休館、2／8は全館休館日
会　場　東京オペラシティアートギャラリー
東京都新宿区西新宿3-20-2
入館料　1000円、大高生800円、中小生600円
内　容　3つのセクションに分け、木材でつくられたプロジェクトと周辺の街並みの都市模型をはじめ、グルムシンスカ・ギャラリー（1991年竣工）、ヴォルテック再開発（1996年）、パスカール現代美術館（1999年）、在独スイス大使館（2000年）、ジャワ島の集合住宅（2000年）、ボイムライン通りの住宅（2004年）、ノヴァルティス本社屋(2005年)、ホテル・シュヴァイツァーホフ・コンプレックス（2005年）の写真を展示。

▶企業ミュージアムの協会で京阪中之島線に乗って

企業ミュージアムの協会(理事長：亀田訓生)は、昨年10月に開通した京阪中之島線に乗り継ぎ、大阪市中央公会堂岩本栄之助記念室、「ほたるまち」、莫大小会館の内部、大阪国際会議場、「くすりの道修町資料館」をめぐる。
日　時　2009年1月10日(土)9：40～15：30
集合9：40・大阪市営地下鉄堺筋線「北浜」駅改札口
参加費　1800円（交通費・昼食は各自負担）
定　員　20名
申込先　企業ミュージアムの協会事務局
TEL&FAX　06-6872-0969

日本建築協会 月間の動き 平成20年11月分

理事会

第７回常任理事会

11月26日（水）16：00～17：30
出席者　中井会長ほか８名
議　事（１）平成20年度収支予算執行状況
（２）「今後の展開に向けて」について
（３）後援名義等の使用承諾
（４）大阪建築確認検査協会からの顧問就任依頼
（５）10年委員会のコンペ協賛について
（６）国土交通省の当協会定期検査
（７）その他報告事項

編集委員会

第８回編集委員会

11月12日（水）18：00～19：00
出席者　設楽委員長ほか３名
議　事（１）１月号「第15回会員作品特集号“私の空間作法”」の報告
（２）１月号「京阪電鉄　中之島線（仮）新線が拓く中之島新時代」特集の報告
（３）２月号「水の都、賑わいのある未来に向けて」特集の報告
（４）３月号「東海支部」特集の報告
（５）各小委員会・分科会の報告
（６）収支状況報告

第８回構造分科会

11月７日（金）18：00～20：00
出席者　房安幹事ほか５名
議　事（１）12月号「自然と戦う構造」特集の企画
（２）「構造の頁」の企画
（３）新年度の構造分科会

第９回法令分科会

11月11日（火）15：00～17：00
出席者　谷本幹事ほか５名
議　事（１）「法令コーナー」の企画
（２）情報交換

第６回施工材料分科会

11月13日（火）17：00～18：00
出席者　桜井委員ほか３名
議　事（１）11月号の反省
（２）その他

第１回計画系分科会

11月11日（火）19：00～21：30
出席者　三宅幹事ほか７名
議　事（１）委員の交代
（２）４月号計画系特集の企画
（３）計画系分科会幹事の選出

第８回作品作風小委員会

11月27日（木）19：00～20：00
出席者　居内副委員長ほか７名
議　事（１）作品の掲載状況並びに掲載予定の報告
（２）「gallery」掲載報告・予定

第８回広告企画小委員会

11月12日（水）17：00～18：00
出席者　設楽委員長ほか４名
議　事（１）１月号特集「第15回会員作品特集号“私の空間作法”」及び「京阪電鉄　中之島線特集（仮）新線が拓く中之島新時代」
（２）２月号特集「水の都、賑わいある未来に向けて」
（３）３月号特集「東海支部」
（４）広告掲載状況
（５）50人アンケート
（６）収支状況報告

第８回10年委員会

11月13日（木）19：00～20：30
出席者　設楽委員長ほか２名
議　事　コンペ実施にむけての検討

学生向けの「土佐堀ダイビル見学会」

11月21日（金）14：00～16：30
出席者　設楽委員長ほか２名
参加者　４大学の教員・学生35名

事業委員会

第５回情報見学小委員会

11月13日（木）18：00～18：45
出席者　瀬戸川委員長ほか６名
議　事（１）本年度事業について
武庫川女子大学建築スタジオ・清流亭茶室見学会
（２）その他

出版委員会

第７回出版委員会

11月20日（木）18：00～19：15
出席者　上原委員長ほか９名
議　事（１）〈プロのノウハウ〉と特装本の経過報告
（２）進行中のテーマについて
（３）その他

教育委員会

第54回工高生デザインコンクール表彰式

11月15日（土）14：00～16：00
場　所　OMMビル２階４号室
出席者　受賞者９名（教員等同伴４名）
審査員　久保清一審査委員長ほか２名
委　員　神野副委員長ほか５名

入会者（敬称略）

〔団体正会員〕
㈱日東建設
〔個人正会員〕
竹沢　範晃　㈱錢高組
兼平　哲雄　㈱日興設計
〔個人准会員〕
松田奈緒子　京都工芸繊維大学大学院

東海支部（11月分）

第６回役員会

11月７日（金）18：00～
出席者　若林事業委員長ほか４名
議　事（１）「建築と社会」東海特集号について
（２）東海支部復活50周年準備委員会委員選出について
（３）報告事項

第２回東海支部特集特別編集委員会

11月７日（金）18：00～
出席者　若林事業委員長ほか４名
議　事　2009年３月号東海特集の企画
―「作品作風」「街道・宿場町シリーズ」「東海の建築事例紹介シリーズ」「東海支部会員が語る」







第54回デザインコンクール表彰式
2008年11月15日



京阪電車　中之島線特集

新線が拓く中之島新時代

［前頁］なにわ橋駅2層吹抜けの大空間：高さ9〜10mの木の壁と林立する円柱が創り出すダイナミックな空間は、地上部の中之島公園と呼応する森のような駅環境として計画されている。

［左下］中之島駅のホーム対向壁：中之島線の象徴である「木」でつくられている。大人の街に相応しい落ち着いた空間を演出している。



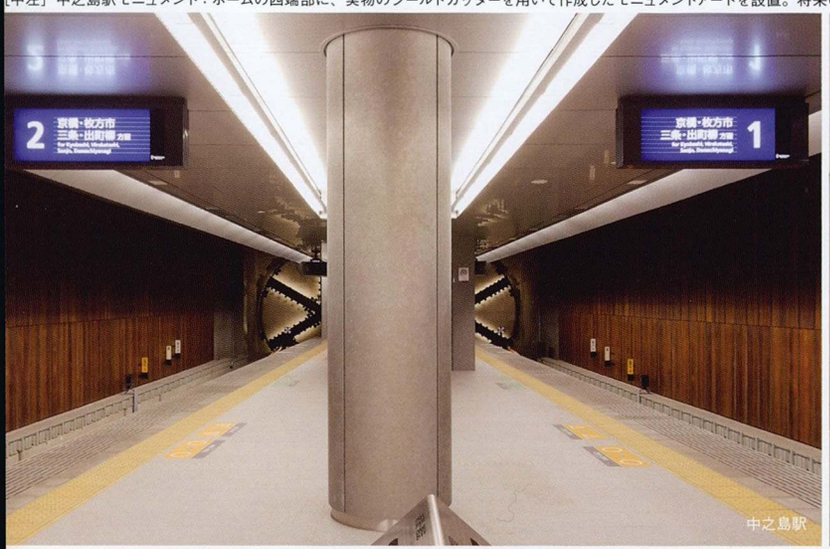
中之島の自然や水辺空間を意識したイメージを、自然素材や質感があり表情豊かな無垢の素材を厳選することで、「水都大阪」を表現しようと試みている。その中で中之島線を象徴する統一素材として、日本の伝統的な自然素材で、近年の技術革新により不燃化が可能になった、古くて新しい素材「本物の木無垢」を使用。写真上は中之島駅ラッチ外コンコースで、水景をイメージした波型のガラス壁面と、木壁・木天井ルーバーにより長いコンコースを遊歩道のように心地よく散策できる演出をしている。
［右下］日本銀行大阪支店前の大江橋駅地上出入口群。中之島駅・渡辺橋駅・大江橋駅の地上出入口は、中之島線を象徴する素材である木を使い、水景と日本の和を表現する格子を現代的にアレンジしたデザインとしている。



大江橋駅吹抜空間：ラッチ外コンコースに「行灯（あかり）」をイメージしたガラスの光壁を設置。木壁と天井の木ルーバーとともに光壁がつくりだす「和」のテイストは、大阪のメインストリートである御堂筋に面した駅として、中之島線のおもてなし空間を演出している。

なにわ橋駅2階改札の大空間（改札付近）：木ルーバー内に設置した「木漏れ日」をイメージした照明により、木壁を照らし出し、木の素材感を印象的に浮かび上がらせ、開放感のある大空間を演出している。

4つの駅のホーム部分には、それぞれの街の風景を表現した素材を対向壁に設置し、車窓から見える駅の風景を演出し、利用者がどの駅に着いたかを体感的に伝えている。素材は、中之島駅が木、渡辺橋駅が文化都市としての未来を表現する金属（ステンレス）、大江橋駅が重厚さを醸し出す石材（御影石：浪花白）、なにわ橋駅が、歴史ある街の趣を表現する焼物（テラコッタ）を採用している。
［中左］中之島駅モニュメント：ホームの西端部に、実物のシールドカッターを用いて作成したモニュメントアートを設置。将来の延伸を祈念している。



中之島駅



なにわ橋駅



大江橋駅

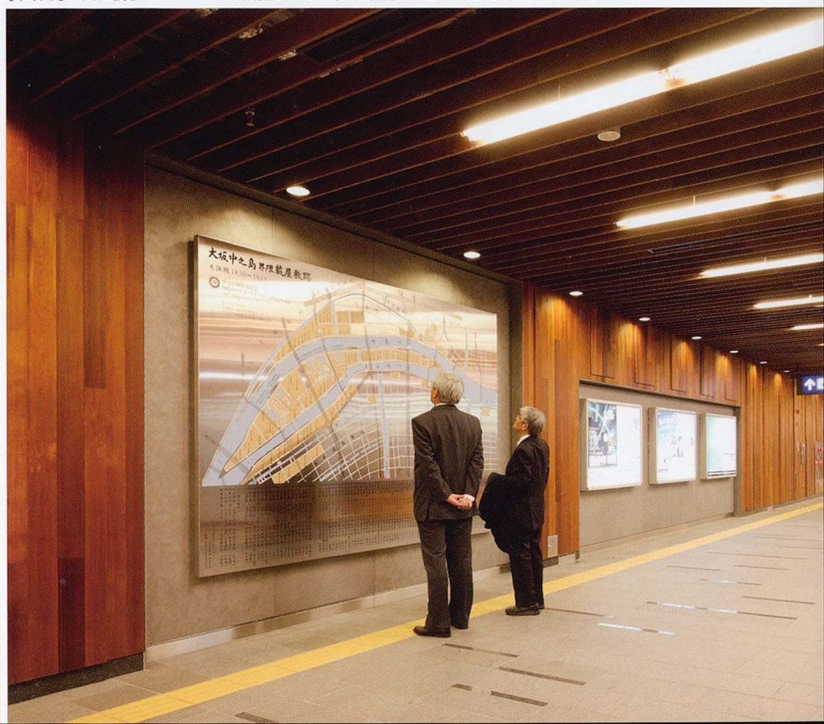

渡辺橋駅

［上］渡辺橋駅階段廻り：地上から連続するラッチ外コンコースは、外部環境と日本の伝統を表現した「木」を使用した空間としている。温かみのある照明は木の素材感を引き立てている。渡辺橋駅は、4駅で唯一2フロアに渡って木空間が連続する。

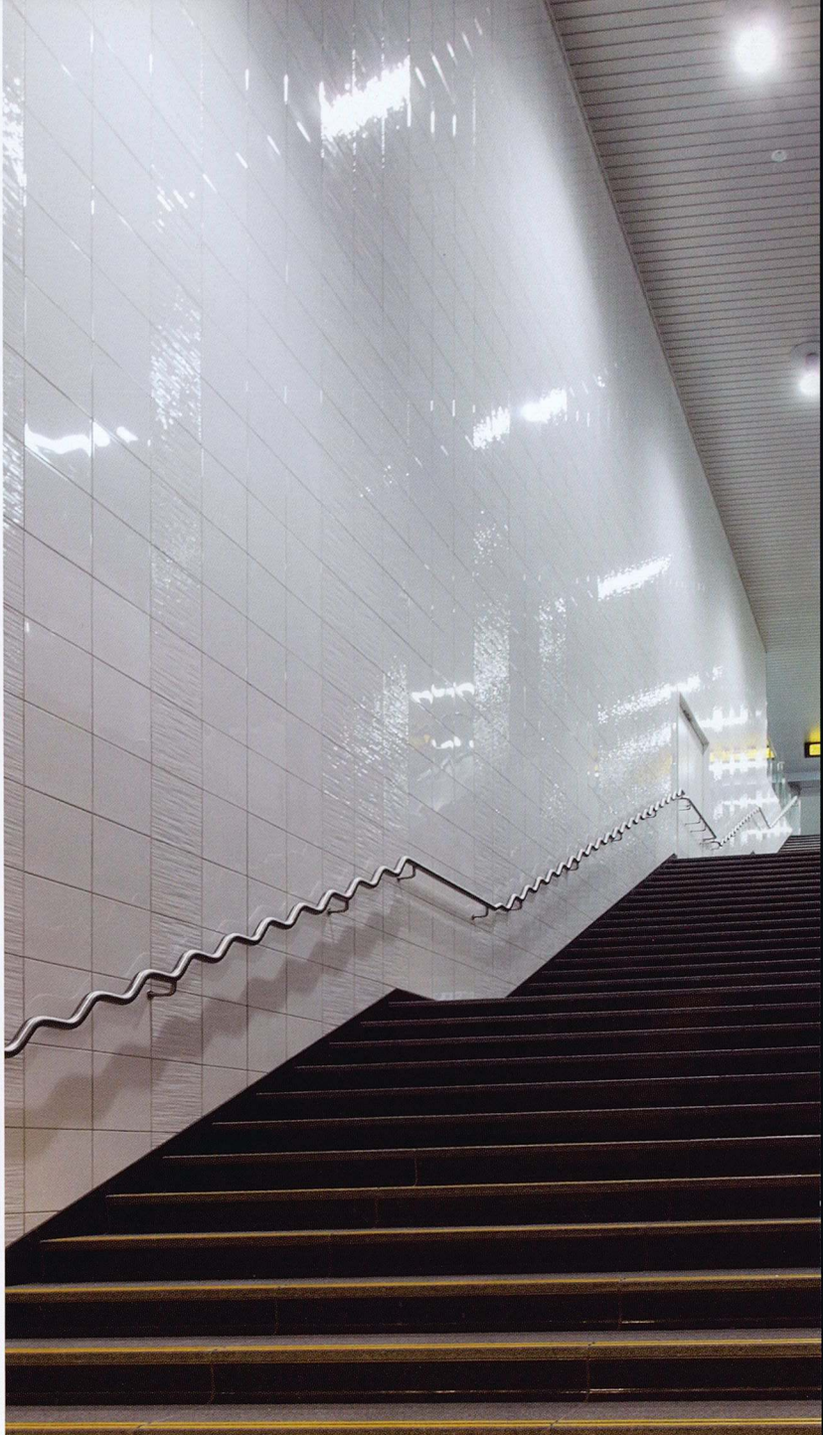
［左下］：光ダクトを通して自然光が降りそそぐ大江橋駅のコンコース。



［中右下］：大江橋駅のコンコースに設置された、中之島界隈蔵屋敷跡を記したモニュメント。



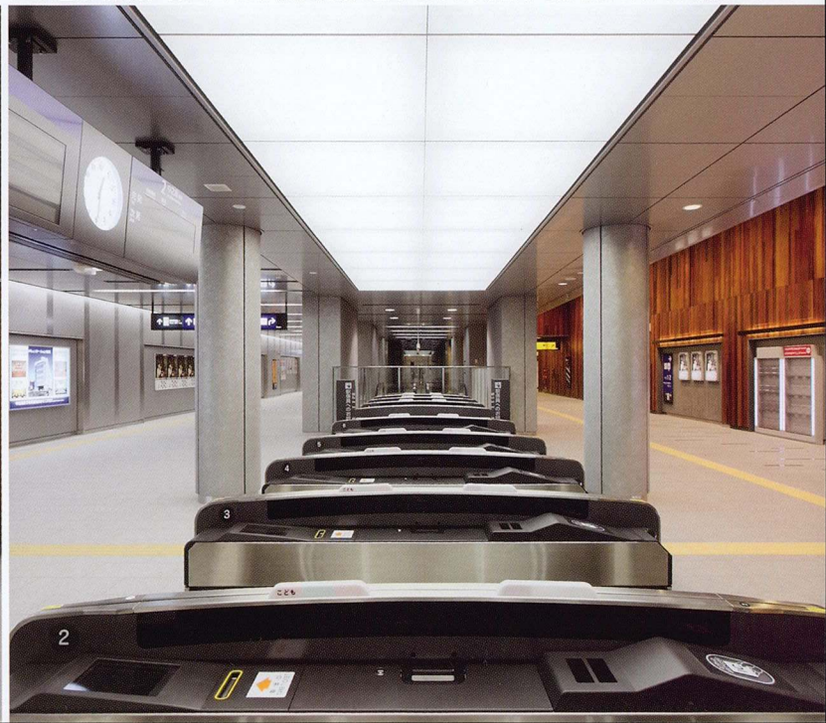




［中上］：なにわ橋駅ラッチ内コンコース：改札からホーム階へ連続するラッチ内コンコースは、ホーム階までの導入空間として、ステンレスとアルミパネルで構成した、シンプルでプレーンなイメージの空間として計画している。
［中左下］渡辺橋駅内の店舗風景：渡辺橋の駅構内にオープンした商空間MINAMO。

［右上］なにわ橋駅：地上出入口から木の空間への導入部には、表面が波形のタイルとプレーンなタイルを縦に通し、ランダムに配置することで水景のイメージを表現している。[右下]大江橋駅改札廻り：改札上部には光天井を設置し、周辺より照度・色温度を上げることで空間の雰囲気を一変させ、ラッチ外（外部と連続する空間）とラッチ内（駅空間）を切り替えるスイッチとして機能させている。



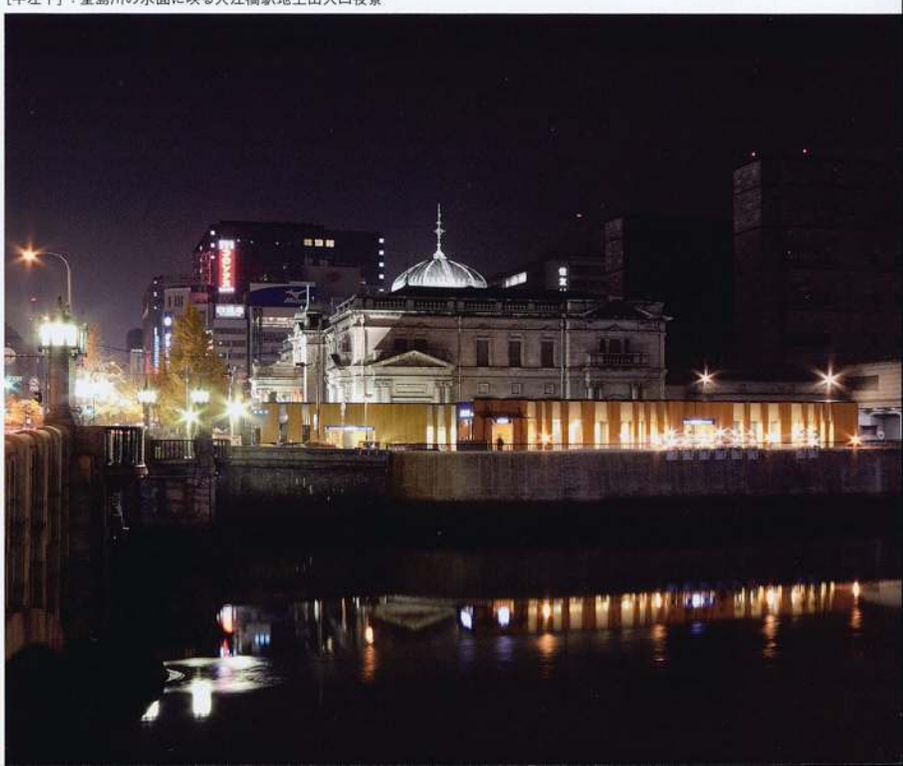


各時代の技術や精神が表現された建築群と、その前景となる川の景観（水、緑）が中之島にしかない上質な空間を創りだしている。中之島線の木でつくられた地上出入口は、中之島の景観に新たな基調をつくる要素となる

［左下］大江橋駅地上出入口：木でつくられた地上出入口内部



［中左下］：堂島川の水面に映る大江橋駅地上出入口夜景

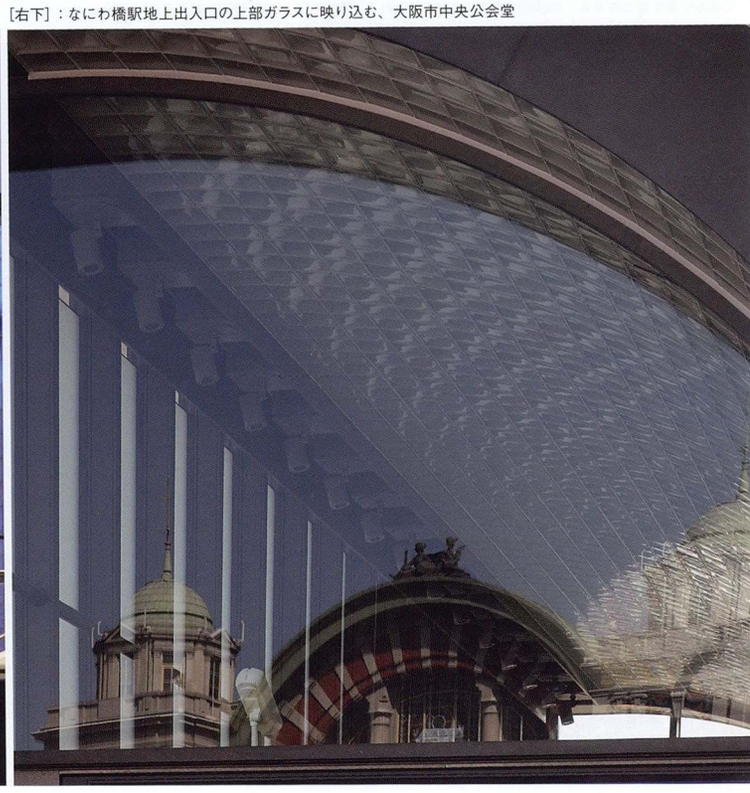


写真上は、大江橋から日本銀行大阪支店を背景に大江橋駅地上出入口をながめる

[中右下]：水景をイメージした、なにわ橋駅地上部出入口

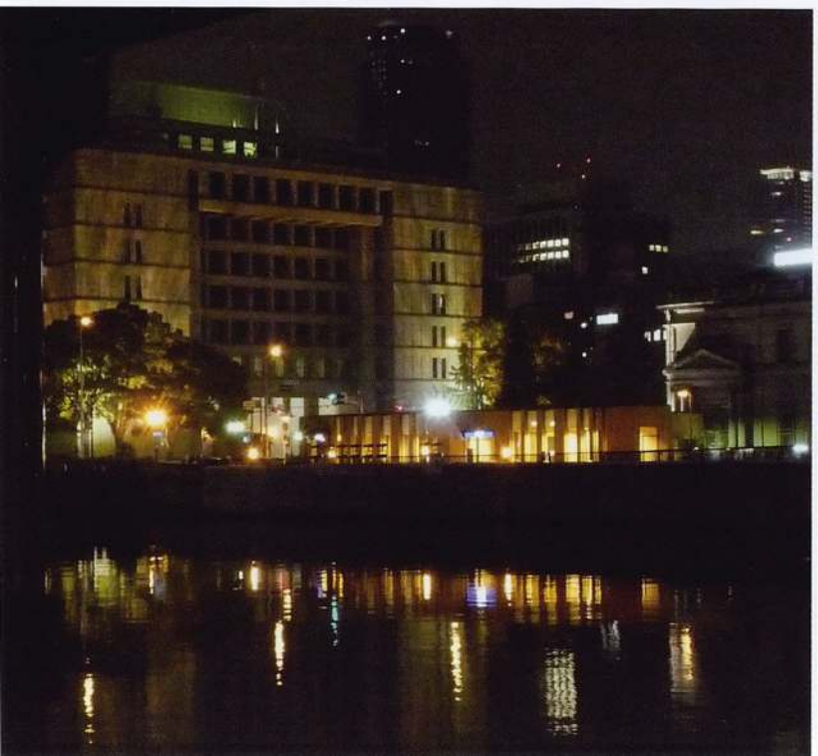


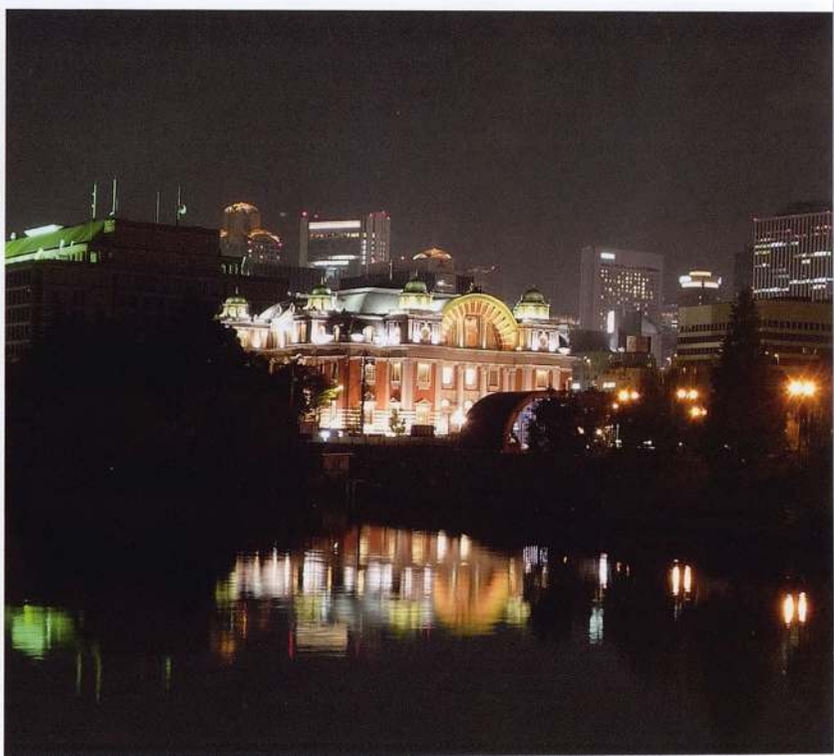
[右下]：なにわ橋駅地上出入口の上部ガラスに映り込む、大阪市中央公会堂



水都大阪の夜の表情：地上出入口は、木とガラスを交互に組み合わせ、昼は素材感のある木が、夜はガラス越しのやさしい光が街のリズムをつくりだす。夜間においては中之島の行灯（あかり）のように温かでやさしい光を放ちながら、利用者を迎え入れる。写真[上・左下]は、大江橋駅地上出入口。堂島川の水面に地上出入口の姿がやさしく映し出される。写真［右下］は、水面に映る大阪市中央公会堂の夜景







新たな中之島のまちづくりについて

大阪市計画調整局
北村英和

■はじめに■

大阪の都心を東西に流れる堂島川、土佐堀川に囲まれた中之島は、パリのシテ島にも似た特色ある水辺景観をもつ、「水の都」大阪のシンボルアイランドである。

この地は江戸時代には蔵屋敷が建ちならぶ「天下の台所」大坂の経済と水運を担う中枢の地であり、その周辺には懐徳堂や適塾などの学問所が設立されるなど大阪を代表する地区であった。また、東部では中央公会堂をはじめとする明治・大正期の建築物が保存され、中之島公園や東洋陶磁美術館が位置し、その西に進めば高層オフィスが建ち並ぶビジネス街となっている。そのため、堂島川や土佐堀川を航行する遊覧船から見れば、中之島は川に浮かぶ水上都市の感を呈している。そしてこの地は、景観、歴史・文化、都市活動のいずれにおいても大阪都心の要であり、これからの大阪のまちづくりにとって非常に重要な場所である。

■これまでの中之島のまちづくり構想

中之島地区は、昭和63年の大阪市総合計画審議会の報告で、広場や緑道ネットワークの整備と共に国際・情報・文化ゾーン等の整備方向が示され、大阪の新しい都心機能を担い、世界に誇れる魅力あふれる地区とすることが求められている。

平成14年には都市再生緊急整備地域に指定されると共に、堂島川・土佐堀川に囲まれた地域特性を活かしつつ京阪中之島線の整備によるアクセスの向上等と併せ、低未利用地の土地利用転換などによる業務・文化・交流中枢拠点を形成することを目指している。

■「元気な大阪」をめざす政策推進ビジョン■

平成20年10月30日に、「『元気な大阪』をめざす政策推進ビジョン」が公表され、この中では、市民と共に大阪を元気にしていくという考え方のもと、「協働」をムーブメントに高める、「元気な大阪」の基礎をつくる、「文化」「環境」のまちづくりを進める、の3つの方針に基づく取組みを推進することとしている。

ビジョンにある「文化」、「環境」のまちづくりに向け、「大阪市基本計画2006-2015」に示す「都市空間の形成」の考え方を踏まえた中期的な都市空間づくりの方向性を「今後のまちづくりの方向性（案）」として示している。

このうち都心機能整備エリアでは、新たなビジネス・文化を創出する拠点づくりとともに、文化・芸術の集積や水・緑の豊かな環境・景観を活かした風格あるエリア、歴史・文化・産業などの地域資源を活かした個性溢れる界隈づくりに取り組み、質の高い暮らしや多様な魅力を体感できるエリアが連なる広がりと厚みを持つ都心への再生を目指すこととしている。

特に、都心に位置し周囲を川で囲まれ、また南北軸と東西軸の結節点に位置する中之島地区は、この都心機能整備エリアの中の具体的な取組み例の一つとして位置づけられている。（図1）

そして、中長期的な観点から、市域全般に係るまちづくりのムーブメントの一つとして、大阪城、中之島から安治川を経て海に至



図1　都心機能整備エリア～水辺の文化都心 中之島～

※大阪市「「元気な大阪」をめざす政策推進ビジョン」抜粋

る川筋を、御堂筋に匹敵する水を中心とした東西のシンボル軸と捉え、その沿川にある近代大阪発展の歴史的ストックや文化・集客資源等も活かして、市民等と共に歴史・文化や環境を基調にした海と都心をつなげる「海の御堂筋」づくりを目指すこととしている。この「海の御堂筋」構想では、中之島地区が文化ゾーンの起点となり、川を通じて海へとのびる新しい「文化」「環境」の基軸として位置づけられている。(図2)

■水都大阪の再生に向けた中之島地区の動き■

1．水辺を活かしたまちづくり
(水と陸の回遊性)

平成20年10月に開業した京阪中之島線は、京阪天満橋駅から分岐して、中之島西部地区方面へ延伸する路線であり、その延長は2.9kmである。この整備により大阪の東西軸が強化されるとともに、京阪本線との接続によって京都とも直接結ばれるなど、広域交通ネットワークの充実も見込まれ、中之島地区においては沿線の民間開発の推進に寄与することが期待されている。

この京阪中之島線の整備に伴い、バラの名所として市民に親しまれている大阪市第1号の都市計画中之島公園や堂島川左岸である中之島北側の水辺の遊歩道等の再整備も進捗し、水都大阪のシンボルとして水と緑が調和するゆとりと風格のある快適な空間の創出と潤いのある水辺景観の形成を目指している。

また、中之島は、世界的にも珍しい都心部をロの字に囲む「水の回廊」(堂島川、土佐堀川、木津川、道頓堀川、東横堀川)の北辺に位置している。平成15年3月策定の「水の都大阪再生構想」の中でも、「水とみどりが活きる国際アイランドの創出」を目標に、中之島開発と連動した河川側からの水辺整備等も取り組み方向としている。これに基づき、中之島の国際会議場前港や天満橋の八軒家浜船着場が整備されるなど、中之島を取り巻く河川では舟運の活性化に寄与する水辺整備が進められており、これと一体となった魅力あるまちづくりを目指している。

さらに京阪中之島線の開業により、駅と民間ビルや既成地下街等とが接続されることで駅周辺では歩行者の利便性向上が図られるとともに、水上交通とも接続する川沿いの遊歩道の再整備や歩行空間をより広くとった中之島通の再整備により、歩行者交通ネットワークのさらなる充実を図ることが可能となる。

そして、文化ゾーンとして中之島地区の中核をなす中之島4丁目周辺では、堂島川を挟む対岸の旧阪大病院跡地に放送局、大学のサテライト施設、居住施設等からなる拠点開発がなされ、川を挟んだまちづくりやにぎわいづくりを進め、周辺地域とのさらなる回遊性を高めていく必要性がある。

この様に、中之島地区では京阪中之島線の整備を契機として、陸上交通ネットワークの充実と、舟運の活性化に寄与する水辺整備等、中洲という利点を活かす、水と陸との回遊性を意識したまちづくりを進める必要もあると考えている。

2．公民協働のまちづくり

中之島地区では、従来から中之島に本社などを置く企業等により「中之島まちみらい協議会」が結成され、魅力ある中之島の形成に向けた民間によるまちづくりも進められてきており、大阪市としても、公民協働して魅力あるまちづくりを着実に実現していきたいと考えている。

中之島4丁目地区は、大阪市総合計画審議会の報告において、本市の中心的な文化ゾーンとして整備することを基本として、広場や緑道といった歩行者空間の体系的な整備が謳われている。同地区にある市有地や民間用地を一体的に開発し、民間の力も借りつつ文化ゾーンにふさわしい整備につなげていきたいと考えている。

また、中之島5丁目地区では、国際会議場やロイヤルホテルなどが立地しているものの、市立扇町高校跡地のほかにも大規模な民間所有地が駐車場などの低利用な状況もあり、民間地権者との連携も図りながら、広場や緑道といった歩行者空間の体系的な整備に加え、国際機能のみならず、情報、文化・学術等の機能についても、その導入の可能性を探りたいと考えている。

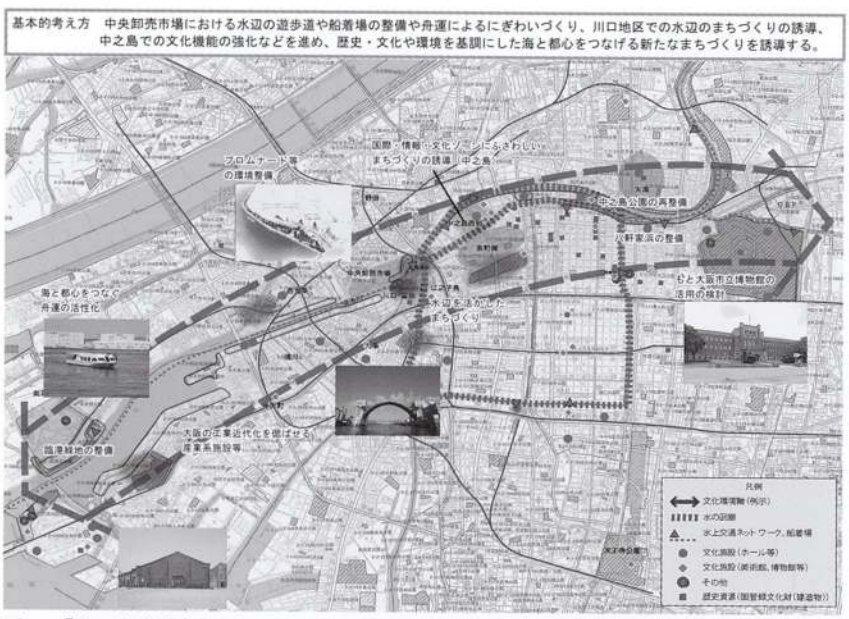


図2　「海の御堂筋」構想～御堂筋に匹敵する水を中心とした東西のシンボル軸～
※大阪市「「元気な大阪」をめざす政策推進ビジョン」抜粋

■まとめ■

堂島川、土佐堀川という2本の川で挟まれた中之島地区は、水都・大阪を代表する顔である。この中之島地区が持つ立地のよさを生かして、より魅力ある都市空間を形成するためには、公民の連携は不可欠であり、あらゆる可能性をシミュレーションし、総力をあげて市民の皆様にとり貴重な財産として後世に残るまちづくりを目指していきたいと考える。

そのためには、中之島地区をより一層素晴しい、世界に誇れる場所にしていこう、という気概をもって、中之島東部地区の基盤整備を進めるとともに、中之島西部地区にふさわしい土地利用の高度化や国際・情報・文化ゾーンとしての都市機能の導入を実現させていきたい。

(きたむら　ひでかず／大阪市計画調整局長)

中之島線の開業を迎えて

京阪電気鉄道株式会社
向井寛行



中之島線は、大阪の都心部である中之島地区の再開発進展に伴い発生する交通需要への対応と、東西方向の交通軸整備によるネットワークの充実を目的として整備された、中之島西部地区から京阪本線天満橋駅に至る約2.9kmの地下線である。

平成元年５月、運輸政策審議会答申第10号「大阪圏における高速鉄道を中心とする交通網の整備に関する基本計画について」において「2005年までに整備に着手することが適当である路線」として位置づけられた。

その後、平成11年度には都市鉄道調査（国実施の鉄道調査）対象路線として整備の意義と必要性、整備効果等の調査が開始された。また、平成12年８月の運輸政策審議会答申第19号「中長期的な鉄道整備の基本方針及び鉄道整備の円滑化方策について」においては「償還型上下分離方式」の提案がなされ、同整備方式および地下高速鉄道整備事業費補助の適用により事業化が決定した。

これを受け、平成13年７月に施設の建設・保有主体となる中之島高速鉄道㈱が設立され、同年９月には大阪府・大阪市の出資を受け第三セクターとなった。その後、同年11月中之島高速鉄道㈱が第三種鉄道事業許可、運行主体となる京阪電気鉄道㈱が第二種鉄道事業許可を取得した。平成14年12月には都市計画決定、鉄道の道路下敷設の許可および工事施工認可等、必要な諸手続を経て鉄道施設の建設工事に着手、順次工事を進めて昨年の10月19日に開業を迎えた。

施設の建設と保有は中之島高速鉄道㈱が行い、京阪電気鉄道㈱が列車を乗り入れ、運行を担当している。

大阪中之島は、淀川の支流である大川の下流に位置した堂島川と土佐堀川に囲まれた東西約３キロの中州で、江戸時代初期より諸藩の蔵屋敷が集中し、天下の台所として繁栄した地域である。

明治以降には、大阪市役所などの公共施設、有力企業の社屋が設けられた。又、大阪初の都市公園として開設された中之島公園内にはビアガーデン、カフェ、料亭が軒を並べ、大阪で唯一外国人が宿泊できる設備を持った大阪ホテル、温泉が設けられる等、大阪の行政、経済、文化の一大中心地として育ち、現在に至っている。

一方、水と緑に囲まれた、都心では稀有な豊かな自然環境を有しており、周辺の建築物についても、辰野金吾氏らが関わった大阪市中央公会堂、日本銀行大阪支店や黒川紀章氏による大阪国際会議場、シーザー・ペリ氏による国立国際美術館など近代から現代に至る著名な建築物も点在している。中之島は「水都・大阪」を代表する景観を形成していると表現しても差支えないであろう。

駅デザインについては、大阪の文化・ビジネスの中心であり、水都大阪のシンボルゾーンでもある中之島エリアにふさわしいものとするため「水都大阪のゲートステーションの構築―水辺の導入空間―」をテーマに検討を重ねた。

中之島線全ての駅の共通コンセプトとして、改札外コンコースに「木（無垢）」やガラス等を主な素材に用いた仕様とした。ガラスについては、そのきらめきから川面を流れる「水」を象徴する素材として、「木（無垢）」については、公園の木々や街路樹などを表現するに加え、国際都市であるが故に求められる「和」の感覚や、落ち着いた「大人の街」中之島にふさわしい駅を象徴する素材として使用した。また、各駅のホーム部分には、それぞれの街を代表する素材を対向壁に使用することで差別化を図り、各ホームと地上との繋がりを演出している。

開業後も「シルク・ドゥ・ソレイユ」やビーチバレー等のイベントの誘致や、大阪大学、NPO法人との連携による駅構内における「アート」「知」をテーマとしたさまざまなプログラムの実施など、より一層の中之島エリアの活性化を図っている。

皆さんも是非中之島にお立ち寄り頂き、その魅力に触れていただければと思う。

むかい　ひろゆき／京阪電気鉄道株式会社
執行役員経営統括室経営政策担当部長
中之島新線建設部長

座談会

中之島の粋（エスプリ）

京阪電気鉄道株式会社
木村純夫
・
株式会社ケイオス
澤田　充
・
株式会社安井建築設計事務所
設楽貞樹

■日　　時：2008年11月14日（金）
■対談場所：社団法人日本建築協会
■撮影場所：渡辺橋駅のイルパール・ディプントにて

設楽　本日はお集まりいただきまして誠にありがとうございます。

京阪電鉄※の中之島線が開通して約半月たち、いろいろ話題を独占した感じがありますけど、現在はどのような状況になっていますか。

木村　これまで連続立体交差事業等で新しい駅づくりを何度かやっていますけど、少なくともマスコミなどへの露出度は今回が一番高いですね。ただ、定期旅客の移行に時間がかかるために延伸効果がまだ上がっておりませんが、移行と共に徐々に効果が上がるものと想定をしています。また鉄道空白地区への乗り入れであるため、話題性が高い路線と言えます。

設楽　先日の日経新聞に載っていましたが、リーガロイヤルホテルの飲食の収入が３割増だそうですね。

木村　今までバスで行かないといけなかったところが電車となって、とても行きやすくなった。

澤田　せっかくだから、中之島線に乗ってロイヤルへ行こうとか聞きますからね。動機付けになったところはありますね。

設楽　関西の経済界でも注目のプロジェクトであったと思います。開通式に大阪府知事と大阪市長がこられて非常に期待を高く持っておられた。

澤田　京阪さんが長年やられていた活動の成果でしょうが、時代的に、みんなの目が都心部に向いていたということもあるんでしょう。

設楽　都心回帰志向というものですかね。中心市街地の空洞化という問題などいろいろ取りざたされていた。その反省のもとだと思います。中之島線開通はそのタイミングにうまくのった。これから都心部の資産としての中之島が生きていく。京都と繋がるという意味合いも強くあったのではないですか。いわゆるビジネス街と京都の歴史が繋がるという。

木村　交通政策的にはそういうことですね。戦後になって当社の鉄道の延伸は今回で３回目なんですが、最初は天満橋から淀屋橋、次が京都市内の三条から出町柳。淀屋橋までの延伸はいわゆる御堂筋という経済の大動脈とのコネクションという意義がありました。時代背景的には、高度経済成長期であり、郊外に住んで都心で働くという画一的ライフスタイルが定着した時代でもあり、ニュータウン開発などの沿線開発とのシナジー効果の中、会社も飛躍的に拡大をした時代でした。京都の延伸につきましても洛東の南北軸を形成すべく京阪線と叡電のコネクションという意味あいがありました。今回は、伸ばすことによって開発促進効果を上げよう、いわゆる街づくりとのセットものの話なんです。そのあたりの意味合いが違います。

設楽　都市再生効果ですね。

木村　ニュータウン開発とは違い、デベロッパーとしての京阪が開発するわけでもなく、今回は延伸とともにみなさんと一緒に街づくりをしましょうということです。

設楽　開発コンセプトを京阪がケイオスに依頼されたんですね。

※編集部注：鉄道の建設・保有主体は中之島高速鉄道㈱、運行主体は京阪電気鉄道㈱



木村純夫氏：京阪電気鉄道㈱都市開発部長

■中之島の粋（エスプリ）■

木村　淀屋橋WESTとか非常にゲリラ的にやっておられた。

設楽　ゲリラから正規軍になられたというわけですね。骨になる一端を澤田さんは担われていたと思うんですけど、最初にお話があったときアンケートをとられたんですよね。

澤田　街自身がブランドになる時代だというのを淀屋橋WESTの開発をしていて思いました。今回木村部長から我々がご相談を受けたときに考えたのが、最初に街をつくるんだったら街の人と一緒になっていかなければいけないのではないかということです。われわれの手法なんですが、我々が知っている中之島が本当にそういうものなのかということでアンケートをとったわけです。地道にヒヤリ

ングとかもけっこうしたんですよ。そこでわかったことが大阪の都心でも中之島は特殊だったんです。いろいろな貴重なストックがある。川があるし、緑があるし、文化的な施設がある。ただそういうところまでは出てくるんですが、深く聞いていくと結構何もない。突っ込んでいくとあまり使っていない。「ついでに」という言葉が良く出てきたんです。結婚式のついでにとか、ロイヤルホテルのついでに行ったとか、コンサートのついでに行ったとか。ストックはあるけど、うまく生かしていなかった。みなさん、イメージは明確にあるのに使っていない。知らんのかというと知ってる。どういうものが欲しいのかと聞くと曖昧蒙古な言葉で「中之島を生かして欲しい」という答えが返ってくる。これは逆に言うと何も語ってないということです。きれいに“すうー”っと流れていく、誰の心も刺さん。こりゃいかんなと思ったときに、勝手に京都と中之島の文化交流になりそうだ、そんな視点で見たらどんなものが見えてくるかと思ったんですね。もうひとつ京阪電鉄の新線なんで、京阪さんにとっていい開発ってなんやろ、意義があるものはなんやろと思いながらデータを見たときに、自然がある、文化がある。それらに愛着を持って見ると、豊かじゃないかなと思ったんですね。大江橋や淀屋橋はシテ島の橋を模してつくったとかそういう風にみていくと中央公会堂がノートルダム寺院に見えてきた。「中之島の粋☆エスプリ☆」、“粋”と書いて“エスプリ”と読ます。そういうキーワードで紐解いていったら中之島の特徴と京阪が目指そうとしていることと、時代の流れが出てきそうな気がして、「中之島のエスプリ」をご提案させていただいた。

木村　そのあたりは、今回の新線が文化軸としての東西軸であって、わが社にとっては新たに沿線が広がったというわけですが、今までの京阪にないテイストの沿線なんですよ。そういう意味でぴったり来ています。中之島ではなく京阪中之島というのを売りに出したいなと。中之島だけだったら沿線とリンクしないので、京阪の中之島というものがリンクしてくれば今後の開発の一つの軸になってくると思います。

澤田　中之島には文化的なストックがあるというのは結構面白かった。それから、島に初めて鉄道が入りましたという、なんかわくわくするストーリーも作れるかなと、思いましたね。



澤田　充氏：㈱ケイオス代表取締役

木村　澤田さんに入っていただく前に社内で議論をしたときに、梅田との関係を非常に気にしました。たとえば渡辺橋という駅名になっているでしょう、あれは南梅田のほうがええんちゃうかなという意見が出てきた。いわゆるメガ梅田エリアの一部という考え方ですが、しかしそれはちがうやろとかね。そのへん非常に悩ましいところがありました。

澤田　南梅田とやってしまうと、ぜんぜん違う歩み方をしますよね。中之島の独自性が全く違ってくる。

設楽　中之島のアイデンティティということでしょう。やはり京阪電鉄であるとか中之島であるというアイデンティティはきっちりしないとね。

木村　街のブランディングという話ですが、中之島の場合、地権者が個々におられる。OBPのような大規模面開発とは違う。同じベクトルでブランディングしていくのは難しいかなと思っていましたが、案外向かうベクトルにブレが少ないですね。

澤田　こっち向いたり、あっち向いたりしたら駄目なんですけど、問題は幅なんですよ。そこを串刺しにする京阪さんがいはったからちょうどいい具合にうまくいった。

木村　中之島は昔からの老舗の企業の集まりで、俺はこっちのほうやねん、というのはないですから。

設楽　逆に上質につなっがっていく下地があった。けっして突出したヒルズ族はいないでしょうけど。

澤田　ヒルズ族はいないけど、長い年月をかけて熟成されているので中之島という一定の上質感があったんじゃないですか。

木村　歴史的蓄積ですよね。そこが梅田と違うところですね。

設楽　中之島のエスプリのところに書いてあるんですが、中之島の特徴として中之島の自然、文化に愛着を持ちながら豊かで知的に生き生きと暮らす人々がいるスタイル。

まさに地に足が着いた、老舗かもしれませんけど、歴史がきっちりあるわけで、脈々と営業を続けておられる各企業の方々というのがこういうイメージに繋がっているのですかね。

澤田　豊かとか知的とかなかなか大阪では使えないんですね。あえて使える場所だったと。

ここでは「豊かで知的で生き生きと暮らす」と使える。梅田でやっても違和感があるけど、ここでは使える。

希少価値がある、アイデンティティがある場所だった。そのアイデンティティを作るんではなくて掘り起こすっていう形なので、皆さんに違和感が無かった。あれが創り出すとなると異論があると思うんですよ。



設楽　大阪独特の露悪趣味にいかない、上質できっちり語れるというのは貴重だ。

澤田　企業さんが守ってはったから。違う言い方をすると保守的だったのかも知れませんね。保守的だったかもしれないけど、今時代が変わってきて結構いい状態で残っていたという、そんな状態じゃないですか。先代、先先代からの贈り物を今あけましたという感じではないですか。

設楽　京阪電鉄としてコンセプトを打ち出されたときに「水都大阪」のゲートステーションというのをプレス発表されてます。やはり水都というのは大きく意識されていました

か。

木村　中之島は水都大阪の中心的エリアですからまさしく打ち出すのはこれやということです。また、財界でも水都大阪を打ち出してますよね。

設楽　駅作りでも随分意識をすることになりましたし、結果、いいものが出来たと思っています。

設楽　「日本鉄道賞」を早々と受賞されましたね。

木村　デザイン性が評価されただけではなくて、街と水辺の一体化を実現した取り組みについて評価されましたから、こちらの目論見とある程度一致したことになった。

設楽　このような取り組みをしてきたというのが評価されたんですね。



設楽貞樹氏：㈱安井建築設計事務所常務取締役

■駅のデザイン■

設楽　ところで京阪さんは最初デザインアイデアコンペを公募されましたね。

木村　もともと駅の設計は公共建築で設計は設計者でやるというイメージがあるけど、それはやめようと。ソフトとハードのトータルなやり方で出来ないかなというところから企画デザインコンペを実施したわけです。

設楽　コンペの作品を見ていますと、駅だけが単独に存在しない。駅と街が常に意識されている。その意識感がとても大事だと思いましたから。それはコンペの成果だと思います。われわれの問題意識が高まったわけです。

私ども安井建築設計事務所が正式に駅の設計を受託した後、駅づくりをするにあたって、いままでの駅と違うというのを何によって打ち出そうかと随分社内で意見交換をしました。今回の中之島線の特徴は、駅間が短いので中之島全体を楽しむことが出来る「プロムナード」というイメージが出てきました。一方で中之島には上質な方々が住んでいるし、働いているというところから、中之島を愛する人の「クラブハウス」というイメージ。そういうものができればいいなと。そんな中で上質感をいかに出すか、あるいは当然公共の駅ですから長く機能しないといけない、時代を超えて。そんな上質であり、本物であるということ、時代を超えて存在するということ、あるいは時代を超えて変化をしながらも上質感を加えていくという。それはなんやろ、と考えたときに、本物感を出すのは「木」であろうということで、木を使うことをご提案したということです。また、議論の中でジャパンアイデンティティという言葉も出てきましたが、それを表現するのもやはりそれは「木」であると。「木」を使うには正直勇気が必要で、耐久性、不燃性を担保しなくてはならない。京阪さんにも勇気を持ってご承諾をいただいた。地上部では、今はまだ各駅の出入り口を見てみますと、植栽が植わっていませんから、やや唐突な感じがしますが、樹木が育っていくともう少し街になじんでくると思います。そうすると中之島の上質感をかもし出していく。ひとつひとつの点景としての各駅が繋がっていきます。各駅間の近さ感がかえって地上部の面白さというか界隈性を作っているのかなと思いますね。

木村　奇抜なものはやめておこう。確かなものを使おう。そう考えておりました。結果として中之島は大人の街ですよね、シックなデザインはしっかりマッチングしているように思います。

澤田　街のイメージは街を形成することでできるのやと思います。たとえば岡田信一※郎さんが中之島にレンガのイメージがあって中央公会堂を作られたのではなくて、その時代に選ばれた素材がレンガであった。何十年もたってそれが中之島のイメージを作ったということであればその時代を刻印していくということ。100年後に中之島ってなんとなく木のイメージもするよねということがいわれるとすれば「木」の使い方にも意味がある、次世代にイメージはこんなんやねって、言われるくらいでいいスピードなんかなと思います。



設楽　中之島にある建物は歴史を持っていますからね、その中で沈下するようなものはしたくないというのが一番の動機です。

澤田　生きているものは経年劣化ではなくて経年を通じて進化していく成長していくということでは、素材は天然から選ぶ。

設楽　法隆寺はまさに木造です。時代を超えて存在することができる。

澤田　20年前に、はたしてそういうことを考えても性能的に実現できなかったのかもしれない。というと、今年できた駅にとってはこういう素材のやり方もありなのかなと。

設楽　うちの会社で少し以前に駅とは何ぞやと議論したことがあって、重要な駅、時代を形作る駅はやっぱりその時代の最先端のテクノロジーの粋を集めているんです。今回「不燃木」という技術が新たに世の中に出てきたというのがそれですね。古い素材だけど、新しいテクノロジーと融合できたのが一つの時代であったと思います。

澤田　こういうものに立ち会えたというのは我々にとっても良かったなと思いますね。仕事で駅に携われるということは滅多に無いわけで、木村部長から声をかけていただいて携われて、またこの場所にいるということが不思議なくらいです、我々みたいなバーバリアン（野蛮人）がかかわれる。とんでもない話かもしれませんけど、これも一つの時代なのかなという気は勝手にしましたけどね。

設楽　それもすべて木村部長の掌だったんだなと。

澤田　民間の商業や民間としての街づくりを専門にしてきた人間が、公共性の高い駅の仕事をしてしまった。今までとは違う血が入ったということは、従来にはないものが出来上がるはずだと考えて施設をつくっていった。われわれの提案をアジャストメントするのは大変だったと思いますが。

設楽　いい刺激をしあわないといいものが出

来ない。新しいフェーズにいかない。ぐるぐる堂々巡りをするだけです。違う温度を混ぜるとか、違う素材を混ぜるとかね。

木村　僕が知る限りでは、鉄道駅についてこういうやり方は初めてですね。やはり公共建築だから、建築の設計をするんだというところを、商業施設のプロデュースに近いやり方をしました。

澤田　時代の気分を取り入れろというメッセージだと思ったんですよね。

だからこそ経年で続けられるようなものをここに持ってくるのが我々のミッションかなという気がしたんですけど。意識して入れすぎた部分は色々あります。

設楽　だから、いろいろな注目度が増えたと思います。

(※編集部注：中央公会堂設計者。1912年辰野金吾指名の設計競技で1席当選)

■駅と街の関係■

設楽　街との関係も、街から直喩的に持ってこないようにしたかった。たとえば中央公会堂のレンガを持ってくるとか、極端な場合公会堂のシルエットが浮かんで見えるとかという直喩的なことはしたくなかった。だから、素材で見つけようといったのはそれで、なにわ橋はテラコッタ、いわゆる焼き物素材ですが、レンガそのものではない、大江橋は官庁街ですから石、渡辺橋はビジネス街ですから金属、中之島駅は終着駅ですから木でしっかりと中之島線を代表するアイデンティティをと、街を意識しながら、しかし直喩で無いということをやりたかった。

木村　デザインコンペの中で、周辺の町との関連というテーマが一方でありましたが、駅間が短いので全体を貫くベースが必要である。

設楽　ベースである「木」を使いながらしかもディテールなどもなるべく統一しましたし、そういうベースがあってうまく特徴を出す。縦糸と横糸みたいに。そういったもので構成するということが大人のやり方だと、大人の街には大人のやり方でいいと思ったわけです。各駅は少しずつアイデンティティを持たせながら、しかし共通のベースがあるという考え方です。駅と街の関係としてはもうひとつ、改札は駅のスイッチという言い方をしています。街へのスイッチ、つまり駅から街へ切り替わっていく空間という意識でつくっていきました。

■駅と賑わい■



なにわ橋駅：アートエリア B1

設楽　駅と賑わいについて、当初駅中を含めてたくさんの商業施設を計画されましたよね。最終的には渡辺橋と大江橋の駅に集約された。ギャラリーがあるなにわ橋も賑わいの一つですね。

木村　賑わいというか、なにわ橋のロケーション特性上文化の発信であり、アートの発信ではないかということで、「アートエリアB1」というアートのイベントスペースを作りました。大阪大学とのコラボレーションで、平田オリザさんにご協力をいただきましたが、いわゆる社学連携の拠点です。広く大学の智を発信しないといけないという意味合いから、オープンサテライトキャンパスを展開していきたいという大阪大学の考え方がありまして、大学のニーズと京阪のニーズが一致してあのようになりました。現在アフターファイブを中心に中之島コミュニケーションカフェというトークイベントを展開していますが、全て大阪大学のコミュニケーションカフェとして今後展開していくわけではなく、来年度以降はいろいろな展開を考えています。

澤田　そういう場所があるというのはいいことですね。

設楽　広がっていくという可能性がありますね。

木村　アートアンドカルチャーを発信していくことにより、長期的になにわ橋駅周辺のブランドアップができればなということです。

澤田　駅中は商業として駅の一つのアイテムとして認知されていて、都市の駅といえば駅中なんていうのもあるでしょうけど、そんなに商業のボリュームが必要な開発ではないと思いました。ただ賑わいというのは欲しいですよね。京阪の皆さんがそうとうフレキシブルな開発のコンセプトにもついてきていただけた。一般的な鉄道事業者であればNOと言われるところをある程度可能性を探っていただいた。最終的にはいろいろ制約があって当初計画したものとは違うんですけど。しかしあれだけのプロセスがあったから今がある。駅は街の一員という考えがなかったら商業はより小さいものになっていたと思いますね。可能性を探ったところが今回の開発の大きな要素だったと思うんですよ。われわれが思い描いた通りにはならなかったんですが、その姿勢というかスタンスというか、その部分は踏襲されているんでありがたいと思います。

設楽　橋下大阪知事がおっしゃっていたけど、世界で水の都といえばベニスだけど、将来は水の都といえば大阪というふうにしたいと。京阪も中之島線をこれからまだまだ延伸していただいてどんどん外国からも観光客を呼んで水の都が活性化して延伸効果がある時代が来ることを期待したい。またそのときにはこのメンバーでやりたいですね。

本日はどうもありがとうございました。

出席者：きむら すみお／京阪電気鉄道㈱都市開発部長
さわだ みつる／㈱ケイオス代表取締役
しだら さだき／㈱安井建築設計事務所常務取締役



「島が島なら、駅も駅だな！」と言われたい

安井建築設計事務所
寺岡宏治、近藤良彦、奥貴人、杉野卓史

中之島とのシンクロ

中之島は、とにかく愛着を持って語られることが多い。そしてなぜか中之島のことを悪く言う人はほとんどいない。

中之島の魅力は何かと考えた時、筆頭に挙がるのが水辺や緑といった自然環境だろう。都心のど真ん中でありながら、ちょっとしたリゾート感が味わえる。この心地良さは、あらゆる層に満場一致で評価されている。

それに加え、とりわけこだわり志向の人たちに支持されているのが、街的な魅力。趣のある建築物、アートな出来事、好奇心をくすぐる街の空気感など。キタやミナミとは明らかに違うちょっとスローで優雅なスタイルが、大阪の中で際立った個性をつくっている。

この愛される島を味方につけ、イメージをうまくシンクロさせる。それが駅をデザインする上で最初に考えたことだった。

沿線として浮かび上がる島

中之島は実際本当に水に囲まれた島なのだが、あまりそれを意識することはない。その理由は、島へのアクセスが便利すぎることにある。面積約50haの島にかかる橋が全部で24本、島の橋密度（※1）は0.48。この数字はおそらく世界屈指の水準となる。これ以外にも地下で地下鉄が3本、上空では高速道路が3カ所も横断。これではさすがに「島に渡る」という、なんとなくありがたい気持ちも薄れて当然だろう。

そこへさらに中之島線が通るとなると、ますます「島」感がなくなる、と思いきや、そうではない。前述の交通基盤はすべて南北方向に走っており、東西に細長い中之島を一瞬で通過してしまう。ところが中之島線は、どこまで行っても中之島。沿線がそのまま島なのだ。

さらに特筆すべきは、島内でも抜群の一等地にあたる川沿いを通っていること。駅はまるで船着場。たとえば川の付近にいて、どっちが島だっけな？　と迷った時、中之島線の駅を探せばいい。そっちが島ですよ。

意図したのは、4つの駅を共通のわかりやすい記号にすること。駅があちこちに現れ、そこが島の中であることを知らせてくれる。そして街に埋もれていた「島」という領域は再び、くっきりと浮かび上がる。

※1　島の面積1haあたりの橋の数
（たった今筆者が考案した指標）

駅に時間を取り戻そう

駅に時間はあるのか？　というちょっと哲学的な問題について考えてみた。ここで言う時間とは、もちろん運行ダイヤのことではない。ロマンチストな人なら、駅という言葉で旅立ちや別れなど、そこでの悲喜こもごもを連想するだろう。そんな映画のワンシーンのような情景は今どき稀かもしれない。ましてそれが都心の駅なら、感傷にひたる間もなく次々と電車がやってくる。それでも、駅に「時間」を取り戻したい。

話が飛ぶようだが、今度は地下駅について考えてみる。一般的に地下駅は空間に一切の無駄がなく、なるべく短いルートで電車に乗れるよう計画されている。地下工事のコストを考えればそれはもっともな話だが、そのために多くの地下駅は誰もが足早に通り過ぎる場所になっている。

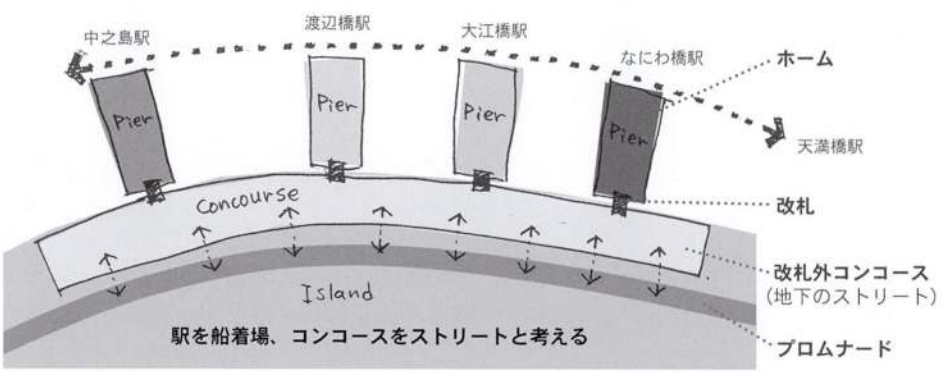
ところが、中之島線はその例にあてはまらない。理由は、地下駅でありながら空間に余裕を持っていること。島を渡る時に大川の下を越え、島に渡ってからも2本の地下鉄の下を越えているため、その分駅の空間が深く（高く）なっている。

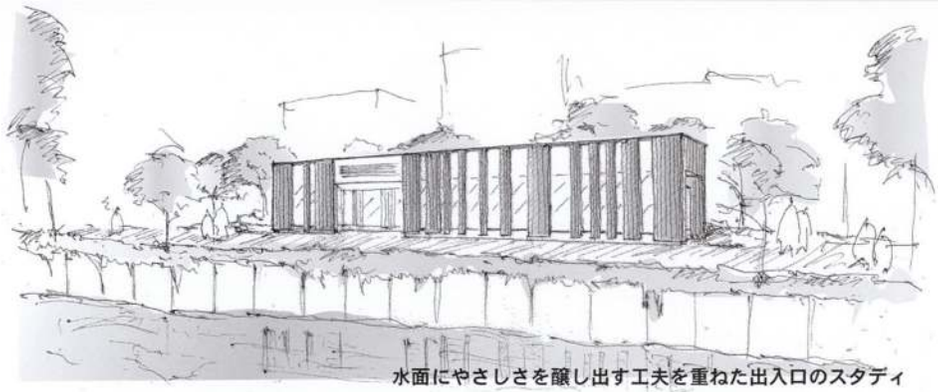
空間の余裕は、豊かな改札外コンコースをつくることを可能にする。改札の内側が機能的につくられるのに対し、改札外は比較的自由度が高い。大きな吹抜けを設けたり、店舗の区画を並べたり。また切符を買わなくても入れるため、ここを街の一部ととらえることができる。街の持つ空気感をそのまま地下に。「時間」を取り戻す鍵はこの改札外コンコースにある。

島ウォーカーのみなさんに朗報

ところで、中之島線の改札外コンコースが4駅あわせてどれぐらいの長さになるかご存知だろうか。答えは約800m。これに対して島の東西の長さが約3,300mなので、島のコンコース率（※2）は実に24%という驚異的なものとなる。つまり、コンコースは島の主要なストリートなのだ。

駅は4つに分かれとるやないかい！　というツッコミには、微笑みながらこう答えたい。4つのコンコースは実際につながっていると。前述の通り中之島線は川沿いに位置して





水面にやさしさを醸し出す工夫を重ねた出入口のスタディ

いるが、その地上部では魅力あるプロムナードが島のほぼ全周を結んでいる。コンコースはここから分岐するもう一つの道として、島の歩行者ネットワークに組み込まれる。一軒の家に例えると、地上の道が自然いっぱいの庭で、地下の道は居心地の良いリビング。その時の気分と天気でどちらを歩くか決めればいい。

また街を歩く上で、「一駅」という距離の単位はとても手頃なものさしになる。ちょっと一駅、がんばってもう一駅。きっと今までよりも島が小さく、身近に感じられるはず。単に電車に乗るためだけでなく、駅内や駅間をゆっくりと巡るために存在する駅などそうはないだろう。

※2　島の長さに対する改札外コンコース（出入口までの階段含む）の合計長さの割合
（たった今筆者が考案した指標）

アグレッシブにくつろぐ

この800mにわたる地下のストリート、つまり4つの駅の改札外コンコースをどうデザインするか。結論は見ての通り木という素材を前面に押し出したものだが、重要なのはその理由。以下3本立てでお送りします。

第1に、理屈抜きにほっとすること。毎日でも歩きたいと思う道には、何かリラックスできる要素がある。地上の道であればそれは並木であったり、大きな空だったりするのだが、地下の道にはそのいずれもない。だからここでは見て疲れるような過剰なデザインは避け、木の素材が持つ風合いで空間を包み込むことにした。

第2に、無垢の木は時間の経過とともに魅力が増していくこと。駅は半永久的に存続する施設なので、いつまでも愛着を持って利用してもらいたい。目指すのは、島の大先輩である中之島公会堂のような存在。100年後、地下の建築物が街のシンボルになっていたら、それはすごいことだと思う。

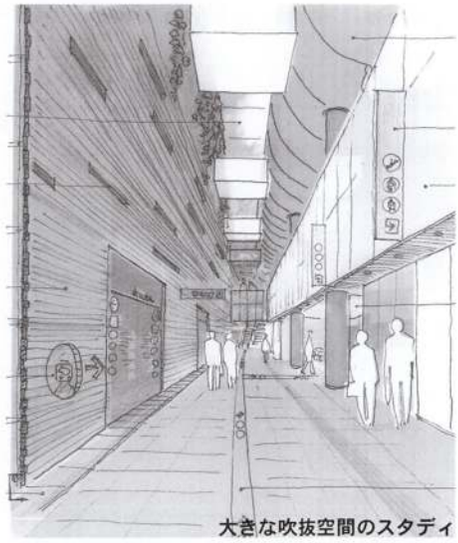
第3に、木が今の時代に見直されている素材であること。それは単にスローなライフスタイルに合うというだけではない。近年の技術革新によって不燃化が可能になり、新たな活用の可能性が広がっている。地下の駅でここまで大々的に木を使用するのは、国内はもちろん世界でも初めてだろう。ほっとするくつろぎ感の陰には、技術面でのアグレッシブな挑戦がある。

潜りがいのある世界

潜るって最高！　と友人のダイバーは言う。潜っていくほどに風景が変わり、魚の種類も深さによってさまざまだと。もちろんこれは海の中の話であり、駅に魚がいるわけではない。でも地下に潜っていくにつれ異なる世界が現れたら、そこには共通するおもしろさがあるだろう。あらすじはこんな感じ。

島のあちこちに現れる木の出入口。中之島には意外なほど木の建築物が少ないので、街でちょっと気になる存在になると思う。ここから中に降りていくと、壁から天井まで木に包まれた改札外コンコースにたどりつく。木が気になって、気がつけば木の中にいる。

改札外コンコースを街の一部ととらえると、改札を越えてからが本来の駅ということになる。ここで木の空間から一転して金属の空間に変わる。また各駅に一つしかない改札は、駅の中で最も広くて明るい空間になっている。街歩きから電車待ちへのスイッチは、わかりやすく、劇的に。



大きな吹抜空間のスタディ

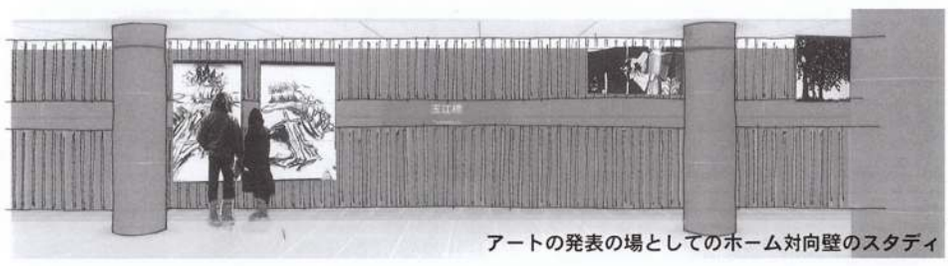
改札からさらに下、駅の一番深いところにはホームがある。ここの壁にはそれぞれの街のテイストに合わせ、各駅で違う素材を使っている。電車を待つ間、また電車で駅に着く時に見える景色は、さりげなく街とつながっている。

地下であることは制約を伴うばかりではない。閉じた空間だからこそ、その中で徹底して世界をつくることができる。

そして駅ができた

こんなことを考えながら駅をデザインし、それが今実際に形となって中之島に現れた。鉄道が新しく出来るというのは想像していたよりも大事件で、テレビのニュースから飲み話まで、世の中のあちこちでいろんな（おおむね好意的な）声を聞いた。

語弊があるかもしれないが、仮にもし中之島のことを嫌いな人がいるとしたら、その人からは「島が島なら、駅も駅だな！」と言われたい。それはきっと、本質的なところまで島と駅とが結びついている証拠だろう。そう考えれば、これ以上の褒め言葉はない。何せ中之島線の駅は、この島にあるたった1つ、いやたった4つの駅なのだから。



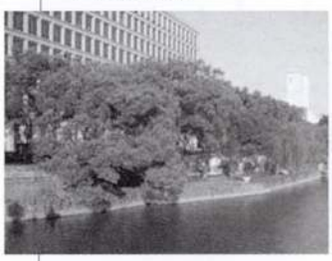
アートの発表の場としてのホーム対向壁のスタディ

水都大阪のゲートステーション

地上部：水都としての情緒性

徐々に盛り上げながら水都へと導く空間

地上部






水都の情景

中之島線の駅は水辺の遊歩道に直結する。
水や緑など豊かな自然にあふれた空間は、
水都大阪を代表する景観となっている。

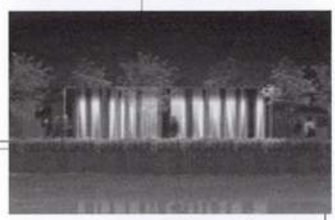
アクセント



駅出入口

駅と街とをつなぐゲート

自然あふれる遊歩道に街的なアクセントを加える。
木立を表現する木、水を表現するガラスで構成された壁は、
昼と夜で異なる表情を見せる。



連続

改札外コンコース

水都をイメージしたおもてなし空間

地上の遊歩道から分岐・連続する、もう一つの遊歩道。
遊歩道の豊かな自然に対し、ここでは街的な寛ぎや賑わいを提供する。


中之島駅


渡辺橋駅


大江橋駅


なにわ橋駅

遊歩道としての連続 ／ 各駅で異なる個性

改札

街から駅へのスイッチ

改札内外で空間の雰囲気を一変させ、
過ごす／歩く場所から電車を待つ場所
への移行を劇的に演出する。

スイッチ



軌道階 / ホーム

来街者を迎える車窓

対向壁の素材の違いにより、乗客にどの街に着いたかを体感的に伝える。
一方でディテールを共通にすることで中之島線全体で統一感のあるものにする。


中之島駅


渡辺橋駅


大江橋駅


なにわ橋駅

ホーム：鉄道駅としての機能性



今回使用した木

基材として使用したのはカナダ産のウェスタンレッドシダー。耐久性及び耐候性に優れ、狂いなどの発生が少なく、優れた防腐・防蟻性能を持つ。北米では主に高級住宅の外壁材として50年～60年の使用実績がある。

陸揚げされる丸太



なぜ今まで「木の地下駅」ができなかったか

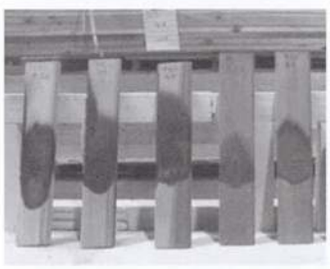
国土交通省の鉄道基準（正式名称：鉄道に関する技術上の基準を定める省令等の解釈基準）に、地下駅の構造材及び内装材には不燃材料を使用することが規定されている。また地下街としても建築基準法施行令により、天井及び壁の内面の仕上げ及び下地を不燃材料とすることが定められている。

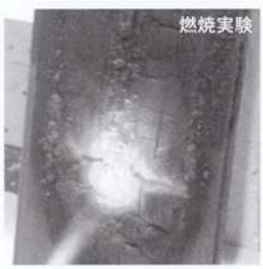
以上の法的条件から、一般的に可燃物とみなされる木を地下駅で使用することはできなかった。ところが近年の技術革新により、木を不燃化させることが可能になった。

木が燃えないメカニズム

木の繊維には不燃薬剤（無機りん酸・メラミン系）が加圧注入されている。この薬剤は「発泡系」で、火災時には炎に反応して木材表面からブクブクと泡を出し、炭化層を形成する。その際表面は赤熱するが、炎は上がらない。その後木材は硬化し、燃え広がりや燃え抜けを抑える。

この自己消化の過程で有毒な煙やガスは一切発生しないため、避難や消火活動を妨げることはない。また薬剤は無機質化学物質を使用している（ホルムアルデヒドを使用していない）ため、シックハウス等の空気汚染を引き起こさない。





燃焼実験

木をつかうこと　環境・持続可能な社会を生み出すために

中之島線で「木を使う」ことに至った経緯として、デザインコンセプトと合わせて「環境問題」への対応を踏まえて考えられた。今回採用したウエスタンレッドシダーは、林産国カナダにおいて計画的な森林管理のもと再生産され続けている材料である。この樹種の有効利用は、生産＞消費＞再生産というサイクルからも地球環境に寄与していると考えられる。適正に管理された森林からの生産物であるので、環境に負荷をかけず、中之島の地域環境にやさしい素材として採用に至っている。

ここだけのデザインコンセプト用語集

最終的なデザインにつながっているものから、実現できなかった荒削りなアイデアまで。議論の際に飛び交ったキーワードの数々。

アコースティック *Acoustic*
余計な加工のされていない、本物な感じ。駅はこれからとても長い時間ここに存在するものなので、50年後、100年後に魅力を増すようなものにしようと。これは単なる素材の話ではなく、どんな空間をつくるかという概念。イメージは、かっこいい大人達のたまり場。「俺たち、お互いいつまでもちょいワルでいような。」

埋もれた島 *Buried Island*
中之島は単なる地名であり実際には島ではない、と思っている人が意外と多いのではないかという仮説。中之島線は地下を走っているため、電車に乗るだけでは島を実感できない。それなら地上を歩いてもらおうということで改札外コンコースを街のストリートとしてデザイン。「今日どこで飲む？　島内？　久々に外？」

駅犬 *Station Dog*
駅には愛着が必要だという議論がエスカレートして生まれた、駅専属ペット構想。駅に着くと駅犬が愛想良く迎えてくれる。「ワンワン、おかえりなさい。」 同じシリーズとして、駅バンド「ボクたち、ここからメジャー目指します。」、駅野菜「大きくなったね、もうすぐ食べちゃうぞ。」など。

エキスポな感じ *Feeling of EXPO*
駅をインスタレーションの場にする構想。ホーム階のかなり長い壁面と、ちょっとだけ長く感じる待ち時間を、どちらも有効活用しようという発想。壁面への作品を設置、４駅使っての中之島線トリエンナーレ、などのアイデアが出された。「あぁ、もう電車来ちゃったよ。」

大江戸みらい *Oedo & Mirai*
都営地下鉄大江戸線と、横浜のみなとみらい線。検討がスタートした当時、この２線が地下駅界の話題をさらっていた。ただ、有名建築家を起用した派手な駅もあったものの、線全体としての印象は意外と薄い。中之島線では最初に京阪さんから「４駅一体」の方針をいただいていたこともあり、チームカラーを鮮明に打ち出すことに。「あっちがＳＭＡＰなら、こっちはＥＸＩＬＥだ。」

クラブハウス *Clubhouse*
駅を中之島愛好家が集う場ととらえる考え方。多くの人にとって駅は通過する場所で、中には走り去っていく人もいる。その状況に対し、ゆっくり歩きたくなる通りや、ちょっと立ち寄りたくお店など、豊かな時間を過ごせるおもてなし空間をつくろうと。「今駅に着いたとこなんで、あと１時間ぐらいで駅を出ます。」

車窓 *Train Window*
鉄道ならでは旅の演出に欠かせない窓からの景色。電車が駅に入っていく時、車窓には街の風景が流れ、あのおなじみのテーマ曲を背景に石丸謙二郎のナレーションが始まる。そんな絵になるシーンを地下駅でも演出したい、という思いから、ホーム階の壁面では各駅の街の景色をイメージ。「旅の始まりは中之島駅。車両には、島の人々の屈託のない笑い声がこだましていました。」

上質のペアルック *Matching Clothes*
４駅のデザインが共通のテイストを持っていつつ、さりげなく各駅の個性も演出されている感じ。モジュールが同じで素材が違う、あるいは素材が同じで空間の形が違うなど。服と同じで、上質感を出すには素材やディテールへのこだわりが必須。「これならペアルックも恥ずかしくないね。」

常連客 *Regular Customer*
駅利用者をなじみ客、あるいは仲間とみなす考え。同義語に、アイランドピープル。個人的には、現在京阪電鉄の主要駅などで配布されている中之島のタウン情報誌の名前が「月刊島民」であることに妙なつながりを感じている。「いやー、あなたも島のご出身でしたか。」

スイッチ *Switch*
改札外のクラブハウス的空間と、改札内のプレーンな通路空間とでガラっと雰囲気を変えること。これで駅内を移動する際にちょっとしたメリハリができる。ついでにここで気持ちのスイッチも入ったらおもしろい。「よし、今からハンサム。」

地下なのに駅前 *Underground Square*
地下駅でも駅前をつくることができる、いや、地下駅にしかできない駅前がある、というポジティブな考え方。地上の駅であれば駅舎と広場の駅前セットがあるが、地下駅にはそのどちらもない。そんな地下駅の華は、各駅で１カ所しかない改札。ここを駅内で一番大きくて明るい場所にしようと。「いつもの駅前で待ってる。」

中之島の粋（エスプリ） *Esprit of Nakanoshima*
中之島の特長である自然・文化に愛着を持ちながら、豊かで知的にいきいきとくらす人々が大切にするスタイル。駅のデザイン検討のスタートとなった、シンプルながら難しいお題。手探り、空振り、練り直しの末、最終的に見出した答えは素材で五感に訴えるというシンプルなアイデア。そしてそれをとことん徹底すること。「彼、ごっつええエスプリ持ってるよね。」

フラッグシップ駅 *Flagship Station*
中之島駅を、「中之島の粋」を体現するシンボルと位置づけるもの。駅前には大阪国際会議場やリーガロイヤルホテルなどがあり、水辺の賑わいづくりなど都市開発的視点からも大きな可能性を秘めている。しかし何と言ってもここが終着駅であることが大きい。「次に参ります電車は、中之島行き快速急行です。」

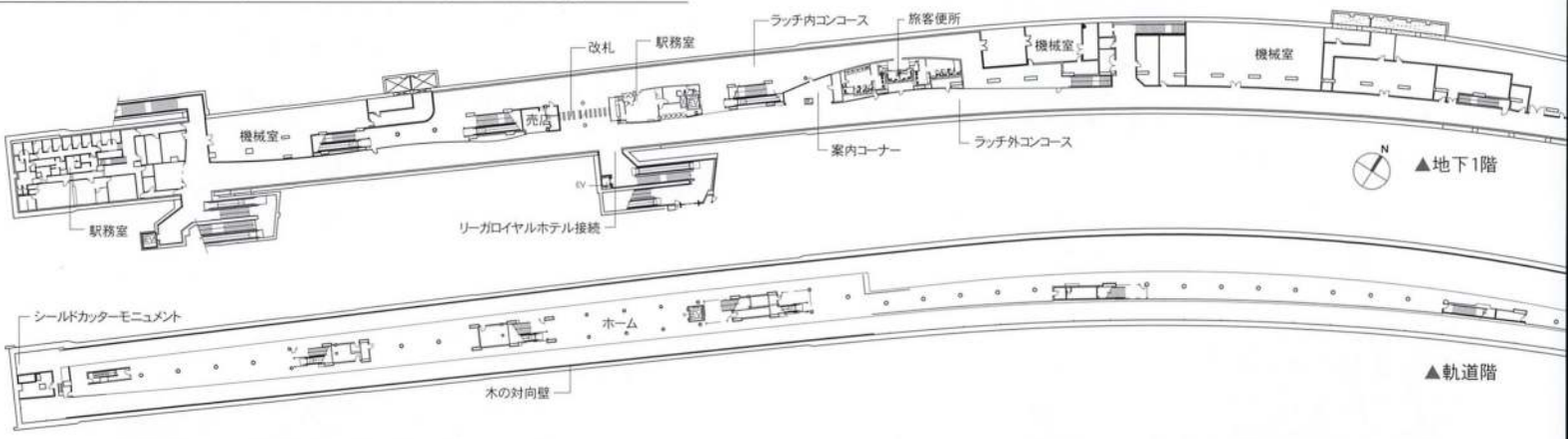
本物の木 *Pure Wood*
中之島らしい落ち着いた雰囲気や、クラブハウスとしてのおもてなし感を演出する切り札。本来燃えやすい木を地下駅で使用するにあたり、技術的課題を一つ一つクリアし、晴れて大々的に採用することに。「やっぱ木だな、落ち着くのは。」

街の素材 *Town Based Material*
各駅の車窓を演出する、ホーム階壁面の素材。なにわ橋駅（素焼きタイル）は中央公会堂、大江橋駅（石）は日銀大阪支店、渡辺橋駅（ステンレス）は国立国際美術館と、ここまでは街のランドマーク建築とおそろいの素材。そしてフラッグシップ駅である中之島駅は、中之島線を象徴する素材として位置づけた木。「私はウッディな駅まで行きます。」「じゃ、僕はメタリックなのでお先に。」

予感サイン *Sign for Senses*
地上の出入口で、この下にはお店がありそうだ、と予感させるサイン。出入口自体を街のオブジェとして考えているため、「いらっしゃいませ！」的な露骨なアピールはＮＧ。街歩きの嗅覚を刺激するような、最小限の奥ゆかしい表現にする。議論の中では本当の嗅覚に訴える「アロマ誘導」なるアイデアも出されたが、これは実現せず。「この駅、何か匂うぞ。」

用語解説：杉野卓史／安井建築設計事務所

中之島駅 ～水辺のプロムナードのような駅～



「水都」を表現する波型のガラス面と
「木漏れ日」を表現する天井照明により
長いコンコースをアートな遊歩道として演出。
ホーム壁面には中之島線を象徴する素材
木（無垢）を採用。



■街のイメージ
国際交流の最前線
関西の迎賓館
■周辺のランドマーク
大阪国際会議場
リーガロイヤルホテル
■乗り換え交通機関
なにわ筋線（計画）


リーガロイヤルホテルと大阪国際会議場前の中之島駅地上出入口群を堂島川対岸よりながめた風景


中之島通よりみた中之島駅地上出入り口。木でつくられたシンプルな箱型の出入口が並ぶ

道家武史 ㈱内藤建築事務所

～周辺地域とともに成長する駅～

中之島駅は中之島の西端に位置し、大阪国際会議場・リーガロイヤルホテルに隣接し、駅周辺には多くの高層オフィスビルが並んでいる。ビジネスにとって重要な役割を担う拠点となる駅であり、今後、周辺地域の更なる活性化と共に『駅も成長する』というイメージを描きながら設計を行った。人がエネルギーとなって、中之島を潤す、中之島から潤す、『成長』のイメージをこの駅の主役である『木』が支えている。地上出入口・コンコースとホームの三層に亘って『木』が主役となるように設計を行った。
中之島は、穏やかに流れる堂島川と土佐堀川に挟まれている。300mを超える一際長いコンコースには、緩やかな曲面を描くガラス手摺とガラス壁によってもう一つの川を演出している。

辻善央 1工区鴻池組・清水建設・大本組共同企業体

～見せる現場づくり～

当工区の中之島駅は、延長334mの長い駅である。
地上では土木工事が道路占用帯を幾度となく繰り返し工事を行い、そのたびに地下への仮設開口からの資材搬出入の揚重、横移動が変わる中、時には夜間搬出入が行われ、他業種関係工事との工程調整の難しさがあった。
また、「見せる現場」づくりをテーマに現場施工を行ったので、建築仕上工事が本格化してからは各方面より、見学者が毎日のように来られるほどに注目されてきた。
中之島駅の特徴であるホーム対向壁やコンコースの天井・壁の不燃木、ガラス壁の施工過程や、品質・安全も含め身近に見て頂くことが出来て、開業前からの中之島線のアピールに少しでも貢献できたかと思う。

土江徹志 2工区錢高組・三井住友建設・淺沼組共同企業体

～中之島線の心臓部をつくる～

中之島駅東側に位置する第2工区の主な役割は、中之島線の心臓部を形成することである。そのため変電・発電機器を地下に投入する期限が他工区より早く訪れ、搬入の調整や交通規制などが工程を左右した。発電機は駅施設の非常停電時に起動する機械であり、非常時には約 40 秒で起動し、駅の防災設備を復旧する。6号階段の西側にその煙突が隠れている。また2工区には現在は明かせない秘密の通路があり、どこか探してほしい。各駅の地上部には駅構内や軌道の換気設備が突き出ている。換気口のコンクリート壁に深さ 5cmの溝をランダムに配置し、川の流れ模様が写されており、いかにも堂島川の流れのように思う。駅構内のエアコンは、堂島川の水を利用し空調を行っている。堂島川から取った水を凍らせ空気を冷やし活用している。

渡辺橋駅 ～ぶらりと楽しく街歩きできる駅～

通りに顔を出すバーなどの店舗街と
歩くにつれ視界が変化する曲がり角により
賑わいや界隈性を演出。
ホーム壁面には未来的なイメージのある
金属（ステンレス）を採用。

■街のイメージ　：発展するビジネスエリア
文化発信の拠点

■周辺のランドマーク：フェスティバルホール
国立国際美術館
ダイビル本館（大阪ビルヂィング）

■乗り換え交通機関：なにわ筋線（計画）


中之島通と四ツ橋筋の交差点から渡辺橋駅地上出入口をながめた風景

竹本一哉　共同設計㈱
～新しい街づくりに貢献～

渡辺橋駅周辺には、国立国際美術館、市立科学館が位置しており、文化的な街の色合いが濃い。新線共通の素材でもあり、自然をイメージする木材（不燃木）とガラスを改札外コンコースに用いて、単調にならないように空間構成を行っている。地下1階を占めている店舗とも調和するように努め、地上への出入口も木材、ガラスを主とした仕上げ構成とし、周辺の自然環境に配慮した。また、渡辺橋駅周辺の街のイメージ素材としてプラットホーム対向壁に、文化都市としての未来を表現する金属材を取り入れることにより、当初よりのデザインコンセプトによるイメージを損なうことなく、また、古くて新しい街づくりに貢献するよう設計を行った。

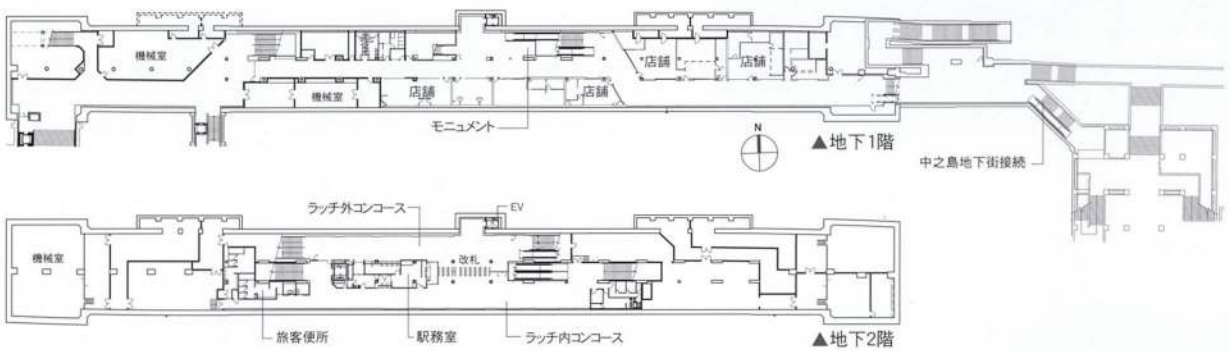
桐石耕次　3工区大成建設・戸田建設・鉄建・熊谷組共同企業体
～何度も工場へ検査～

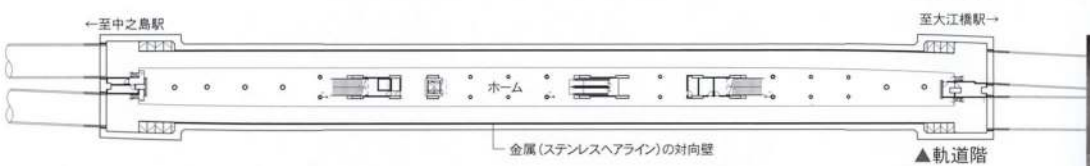
渡辺橋駅3工区の特徴は2点ある。１点目は、ホーム階の対向壁であり、3工区のシンボルである金属（ステンレス）が使用されていること。表面はヘアライン加工となっているが、下地や溶接跡が出ていないか確認の為に、何度も工場へ検査に行き、１つ１つ不良品がないか見てまわった。

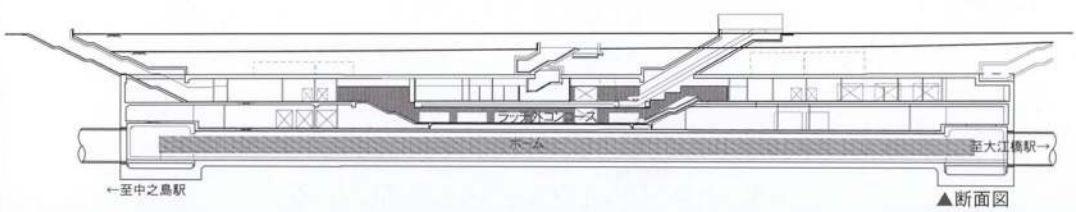
2点目は地下1階にある店舗（飲食店）。店舗内装は別途工事であったが、やはり開業日（10月19日）が同じで建築内装工事の最終仕上げと重なり、残り1ヶ月の搬入動線及び施工方法の調整に苦労した。時には通路確保のため連日夜間作業も行った。

今回、個人的には地下鉄工事を初めて経験したが、自分自身満足がいく建物が完成したと思っている。また、無事開業が迎えられ関係者の皆様に深く感謝している。


渡辺橋からみた渡辺橋駅出入口：阪神高速とオフィスビル群、堂島川がつくりだす風景の中に木でつくられた地上出入口群が点在して新しい風景をつくりだす








イヌクシュク記念碑：カナダ産のレッドシダーを採用したことで、カナダ大使館より寄贈されたモニュメント

大江橋駅 ～光の下で待ち合わせできる駅～

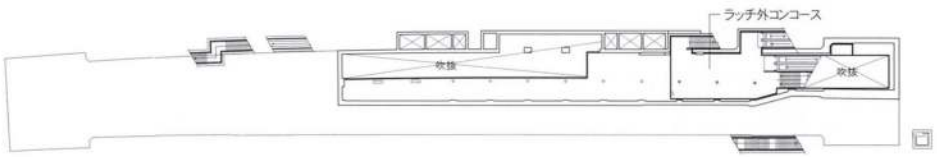
光ダクトを通して降りそそぐ自然光と
「行灯（あかり）」を表現した光の壁により
明るさと開放感を演出。
ホーム壁面には重厚さを醸し出す
石（御影石）を採用。



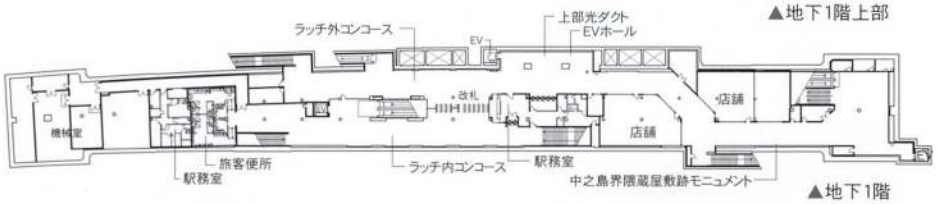
■街のイメージ
風格あるシビックコア
大阪を代表するビジネス街

■周辺のランドマーク
大阪市役所
日本銀行大阪支店

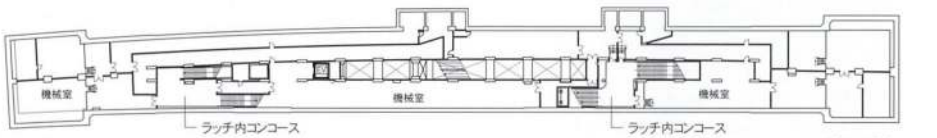
■乗り換え交通機関
京阪電車　淀屋橋駅
地下鉄御堂筋線淀屋橋駅



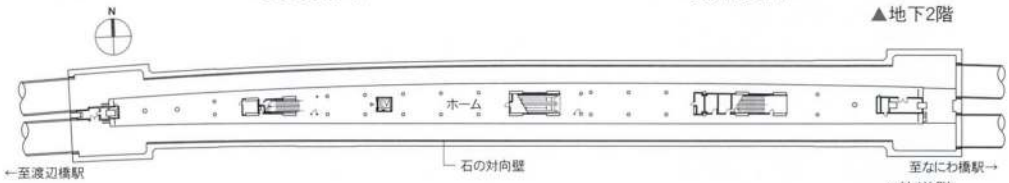
▲地下1階上部



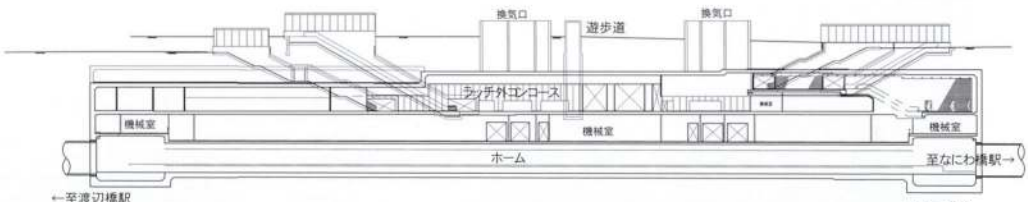
▲地下1階



▲地下2階



▲軌道階



▲断面図


中之島通から堂島川対岸のオフィスビル群を背景に大江橋駅地上出入口をながめた風景



街を表現した素材の中に、木のボーダーを共通のディテールで組み込むことで、４駅の統一感を演出

衛藤年幸　㈱大建設計

～地下空間に明快さと開放感を～

大江橋駅附近は「日本銀行大阪支店」「大阪市役所」など、大阪の経済、行政の中心地である。ここに建つ駅舎は、地上と地下を結ぶ駅舎機能のみならず、地下空間に明快さや開放感を与え、アメニティを高めたものでなければならないと考えた。

コンコース階には高い天井を設け、光ダクトにより自然光を地下へ導くことで、快適性や居住性を高めた空間を計画している。具体的には光ダクトから放光される　ゆらぎのある光　を、大きな装飾ガラス面に投影することで、　水都大阪　のイメージを表現した。

ホーム階においては、大江橋駅の個性を強調するために、日本銀行や大阪市役所の壁面に使われている「御影石」を使用している。御影石を使用することで、歴史や風景とのつながりを意識し、また乗降者には大江橋駅であることが分かり易い計画とした。

太中裕治　4工区鹿島・間・不動テトラ・飛島建設共同企業体

～石の調達～

各駅統一されたディティールと、その駅周辺にマッチした特長のある素材を用いたホーム壁において、当駅は自然石※が使われている。　※御影石：浪花白（なみはなしろ）

その石は、五輪景気に沸く中国からの調達である。軌道階での工事期間も短く、すぐにも石の調達が必要不可決となり、図面作成・承諾・発注に追われ、また、初めてのパスポートも急遽取得し、現地中国への出荷依頼と検査立会に出発した。

折りしも、中国は旧正月（春節）とのこと。工場～船便まで全て休みに突入し納期もままならぬとのこと。工場長の王さんに『ニイハオ・シェイシェイ』の中国語で嘆願?

関係各位のご支援・ご協力も合まって、無事工事が終わり、ことなきを得た事を昨日の事の様に思いだされる。

なにわ橋駅 ～中之島文化ゾーンの一角を担う駅～

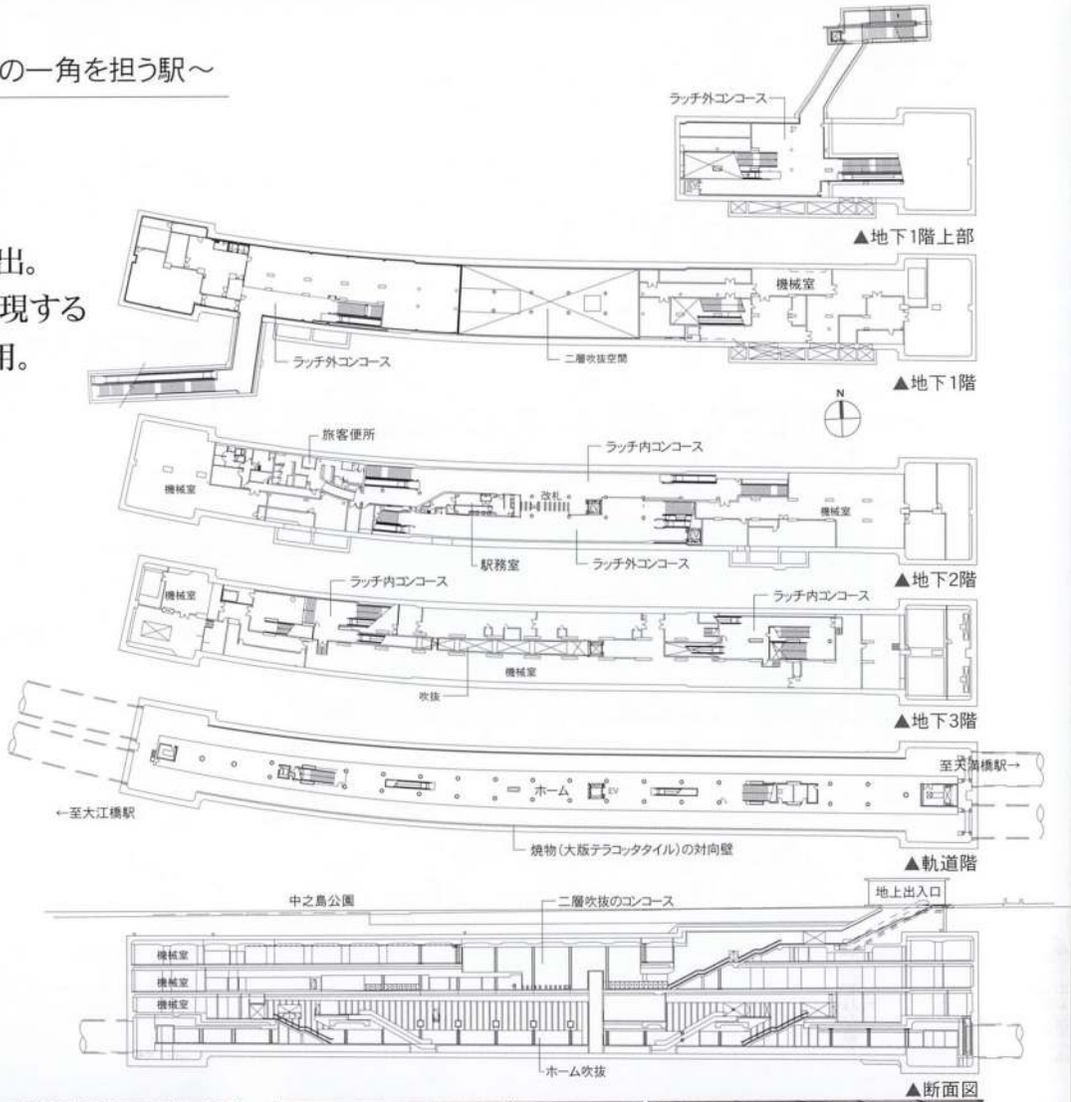
2層吹抜けのダイナミックな大空間と
アートエリアでの情報発信により
中央公会堂のようなシンボル性を演出。
ホーム壁面には歴史ある街の趣を表現する
焼物（大阪テラコッタタイル）を採用。



■街のイメージ
歴史を感じる建築群
緑豊かな都心のオアシス

■周辺のランドマーク
大阪市中央公会堂
大阪府立中之島図書館
大阪市立東洋陶磁器美術館

■乗り換え交通機関
京阪電車　北浜駅
地下鉄堺筋線　北浜駅




ラッチ外コンコース２層吹抜空間：地上から光ファイバーにより導かれた自然光が、やさしく木壁を照らす


木の空間から街を表現したホーム空間への導入部となる


各駅でデザインの特徴をだしている旅客便所

難波壮一　㈱梓設計

～ハレの空間とケの空間～

ラッチ外コンコースのデザインは「和」を感じさせる「木」を基調とした空間である。それに対しラッチ内コンコースは、プラットホームへといざなう空間として、「アルミ」と「ステンレス」のストライプの壁で構成された「近未来的」なイメージとした。これは改札口を境界に、各々の素材を引き立たせ、「ケの空間」と「ハレの空間」として対称的な空間になることを狙いデザインしたものである。
また、トイレ空間も改札内コンコースからの流れで、近未来的なイメージの空間とした。その一部にシンプルな表情のある赤色の壁を設け、「和」の要素を取り入れた。これは、映画「ブレードランナー」のワンシーンで、近未来都市のビルに取り付けられた巨大なメディアスクリーンに映し出される着物姿の女性がアップで強力わかもとを持って微笑みかけるような印象をメタファーした。

原田計宜　5工区大林組・前田建設・大鉄工業共同企業体

～吹抜大空間を備えた地下駅の施工～

在来地下鉄線との交差による必然性から当駅は地下４階にホーム階が配置され、且つ地下４階～地下３階は 10 パーミルの床勾配が構造的につけられているため、壁面・天井等の内装に関して納まり上の配慮がなされている。（高低差≒1.8m）
また地下２階の改札階は中央部が吹抜となっており、開放感漂う風格のある駅に仕上がっている。中之島線で一番深い駅のため、工事中は仮設材・仕上材料等の諸資材搬入・搬出計画および安全対策に重点をおき施工を行っている。

今後地上部の公園復旧工事が完成※の折には、中之島の玄関口として、また市民の憩いの場所として、なにわ橋駅が益々貢献できるものと期待している。

※公園復旧：2009 年８月予定で工事進行中

木がやさしい感じ。
ただ、駅が長すぎるので動く歩道をつけてほしい。
（街を散策しに来た老夫婦／中之島駅）

明るく、高級感があり、落ち着いた感じ。
ホームのベンチや自動販売機まで黒でシックにデザインされているのがいい。
（リーガロイヤルホテルを訪れた仲のいい母娘／中之島駅）

改札を出ると木の香りがして心地よく感じた。
（福島に恋人と食事をしに来た女性／中之島駅）

木の壁がすごい。今までの駅とは違う雰囲気。
（スーツ姿のフレッシュな若者たち／中之島駅）



駅とつながることでホテルのイメージが悪くなると思っていたが、
連絡部分は高級感があって「あら、いいじゃない」と思った。
駅のウッディな雰囲気も懐かしい感じでいい。
これならホテルにも新しいお客さんが来ると思う。
（リーガロイヤルホテルを訪れた上品なご婦人／中之島駅）

新しい駅が話題になっているので、わざわざ見に来た。
京阪の従来のイメージとは違い、中之島線の駅には斬新さを感じる。
（ベルベットのジャケットをシブく着こなす年配の男性／中之島駅）

やわらかいイメージで親しみを感じる。
家の居間にいるような感じ。
木は普通家の中で使う材料だと思っていた。
三重県の地場産材も使えないかな？　と思って木の壁を見ていた。
（三重県から来た公務員の男性／中之島駅）

感じがいい。今までにない設計だと思う。
階段やエスカレーターが多く、ぐるぐるフロアをまわる感じなので、運動になる
という意見も聞いた。
くねくねした手すりは上がるときに便利。デザインも変わっている。
（話好きな駅清掃員の女性／渡辺橋駅）

きれいで温かみがある。お店にとってもイメージがいい。
（駅構内にあるワインバーの女性スタッフ／渡辺橋駅）

使っている素材など、今までとはちょっと違う感じ。
店のあるエリアは地下とは思えない。今どきの商業施設にいるような気になる。
単に電車に乗るための場所という感じではない。
（仕事に来たサラリーマン３人組／渡辺橋駅）



木のデザインはほっとする。こんな駅はない。今までの駅とは違った、落ち着いた雰囲気。
電車は時々しか乗らないが、この道は毎日のように使っている。
この界隈では一番気持ちのいい道。
木の出入口を見て、下に行ってみようという気になった。
よそでよく見る出入口はコンクリートやタイルなので、ここには何か気になるものを感じた。
ただせっかく木のデザインに落ち着きや高級感があるのに、
そこに青いサインが貼られているのがもったいない。木の雰囲気とのギャップを感じる。
（この近くで働く、ニット帽のよく似合う男女／渡辺橋駅）

ＭＩＮＡＭＯに入っているお店は 19 時ぐらいからお客さんが増えていく感じ。
ホームのデザインが各駅で違うことは、目印になっていいと思う。
（若い女性駅員さん／渡辺橋駅）

会社の休憩時間にランチを食べに来ただけ。
ここ駅なんですか？
（この近くで働く若い女性／渡辺橋駅）

出入口とコンコースで木の色が違うので、バラバラに見える。
市役所などがある街の景観と木の出入口が調和していない。
（仕事に来たサラリーマン２人組／大江橋駅）

淀屋橋駅とは違って天井が高くていい。
木の使い方をはじめ、階段一つに至るまで、
すべてにわたって何かこだわりを感じる。
中之島線そのものが、モダンなイメージで統一されていていい。
（駅構内にあるコンビニの女性店員／大江橋駅）



明るくて、地下にいるとは思えない。地下の暗い感じがない。
地下駅はコンクリートと鉄のイメージがあったがここは違う。
気持ちがやわらぐ感じ。本物の無垢の木に驚いている。
（いかにも大阪らしい気さくなおばちゃん／大江橋駅）

木を使ってはいるが、深い意味での京都らしさを感じない。
京阪は京都に行く鉄道なので、それにふさわしいデザインにしてほしかった。
またせっかく大きなスペースができたのに、人の流れが少ないのが残念。
（今年満 80 歳を迎えた話好きな元銀行マン／大江橋駅）

きれいな駅。今までにない感じがする。
大阪は八百八橋というように多くの橋があることは知っていたが、
中之島線に乗って、大江橋や渡辺橋という橋があることを知った。
（落ち着いた感じのサラリーマン／大江橋駅）

リーガロイヤルホテルに用があり、今日初めて中之島線を利用した。
あえて手前の駅で降り、今から１時間ぐらいかけてゆっくり歩いて行く。
中之島は街にいろいろおもしろい場所があり、ぶらぶらするのにいい。
途中で４つの駅を全部見比べていくつもり。なにわ橋駅は明るい感じ。
（今はリタイアしているが、最近までこの近くに勤務していた男性／なにわ橋駅）

いい駅だと思う。珍しい感じだが、落ち着きはある。
木の壁に落書きはされてない。ここから見えるからね。
（やさしい感じの男性駅員さん／なにわ橋駅）



電車と駅の写真を撮るのが趣味で、関東から来ている。４つの駅をすべて見て回った。
なにわ橋駅のこの大きな空間もすごいし、中之島駅の細長く続く空間も印象的。
各駅でホームの壁が違うところなど、デザインにこだわりを感じる。
中之島線の駅は、関東では信じられないもの。
同じ趣味を持つ友人たちに、ぜひここに来ることを勧めたい。
（関東から来た鉄道ファンの男性／なにわ橋駅）

落ち着きがある。
天井が高いのがおもしろいと思う。
（早足で歩いていたサラリーマン／なにわ橋駅）

初めて中之島線に乗ったが、きれいだと思う。落ち着きがある。
ホームからスムーズに改札まで行けたので、使いやすいと思う。手すりもお年寄りにいい。
ホームの椅子はゆったりしている。
（おっとりとした話し方のサラリーマン／なにわ橋駅）

きれいな駅。
ホームの壁が駅によって違うのがおもしろい。
（お急ぎのところわざわざ足を止めてくれた親切な女性／なにわ橋駅）

インタビュー実施概要
日時：2008/11/18（火）
場所：中之島駅、渡辺橋駅、大江橋駅、なにわ橋駅
主に改札外コンコース

中之島線に期待する

変革を遂げる中之島エリア

～中之島線が結ぶ建築美～

株式会社ロイヤルホテル
廣間準一



■中之島新時代への序曲■

10月19日、約500人もの関係者、鉄道ファンらが見守る中、大きな夢と期待を膨らませて初発電車が出発した。京阪電鉄中之島線の開業である。文化、芸術性の高い建造物が数多く存在するにもかかわらず、中之島は「陸の孤島」と言われ、その歴史は長きにわたる。我々リーガロイヤルホテルが位置する中之島西エリアも例外ではなかったが、ロイヤルホテルの進出に続いて、住友病院の移転や国際会議場が建設され、「国際交流ゾーン」「文化ゾーン」へと発展を遂げてきた。中之島線の開業で東西が結ばれ、現在、南北を基軸とした大阪経済の基盤と融合し、中之島活性化のレールが敷設されたのだ。その経済効果は3,600億円、10年後の日中人口は今より２万人増加し11万人まで増加するといわれており、大いに期待される。待ちに待った中之島新時代の到来である。

■中之島と生きる建築美■

中之島の歴史は、東西３キロほどの「中州の島」と呼ばれ細長く味気ない砂地に始まる。江戸時代の豪商 淀屋常安による水路の開拓を機に、諸藩の蔵屋敷が連なる商都・大阪へと変貌を遂げたのである。その後、数多くの建造物が、文化、芸術の普及、国際社会への歩みとして建設され、現在、歴史と文化の新旧が融合する、やすらぎと憩いを与える場所として注目が集まるようになってきた。中之島の発展と共に歩んできた我々リーガロイヤルホテルにも、中之島に位置するホテルとして創業時より大切にしてきた建築美に対するポリシーがある。

創業70周年を機に、新時代の象徴としてメインロビーを一新した。コンセプトは「日本の自然・日本の美」。日本を代表する建築家・故吉田五十八氏による伝統あるモチーフを大切にしながら新時代を表現する、伝統と新鮮な感覚を融合させたデザインだ。森の木漏れ陽を表現した和紙を使ったガラスの光天井は、都心の中の自然のやすらぎ、憩いを感じる空間だ。その奥に広がるのは光と水と緑が織り成す、平安時代の様式美を基調にした「メインラウンジ」。「曲水の宴」を模した水の回廊があり、その美しい水は、日本庭園へと流れていく。他にも館内には沢山の名建築がある。英国の陶芸家の着想を吉田五十八氏が具現化したや、前身の新大阪ホテルに飾られていた「楽人（がくじん）」など、今なお歴史を物語る象徴として変わらぬ輝きを放っている。

リーガロイヤルホテルが創業時から大切にしてきた「ホテルはひとつの街」というコンセプトのもと、吉田五十八氏の建築テーマである自然との融合と伝統美を基本に、決して変わらない部分と、時代を先取りし変革してきた部分とが調和を成す「ひとつの街」。そして、それは留まることなく常に進化し続け、平成18年、権威ある建築賞である『第15回BELCA賞』ロングライフ、ベストリフォームの２部門を受賞した。中之島に位置する「ひとつの街」として、このポリシーは現在もホテルに根付いている。

■中之島新時代を担う期待と挑戦■

都市機能ゾーニングとして輝きを放つ建造物は、中之島線という大動脈により、東西ネットワークが結ばれた。国内のみならず、海外からのお客様の利便性が飛躍的に向上され、かつての「陸の孤島」が今まさに、水の都大阪を代表する文化都市として更なる発展を遂げようとする中、中之島区域の再開発は多角的に，かつ着実に進んでいる。来夏には「水都大阪2009」と題したシンボルイベントの開催が予定されており、『水の回廊』としての水都大阪再生への期待も高まる。また大阪大学医学部跡地では、特設テントを設けての世界を代表するサーカス団 シルク・ドゥ・ソレイユの公演も予定されており、中之島新時代は早くも動きだしている。

大きな夢と期待が膨らむ『中之島新時代』において、まもなく創業75周年を迎える我々リーガロイヤルホテルは、築いてきた建築美を継承し、進取の心とともに常に時代を先取りし、進化し続けていきたい。

（ひろま　じゅんいち／㈱ロイヤルホテル執行役員
副総支配人（兼）総支配人室長）



ホテルへの新しいおもてなし空間となる、格調高い中之島線の出入口

中之島線に期待する

中之島都市ビジョンの実現と更なる活性化に向けて

—中之島線開通を契機に寄せる期待—

関西電力株式会社
北野剛人

■中之島の企業によるまちづくり活動■

中之島は、大阪都心部を東西に走る、ビジネス中心ではあるが水都、歴史、文化、芸術などにも満ち溢れた地域であり、南北に伸びる御堂筋と並んで大阪を代表する魅力的なエリアである。この中之島の地権者である企業等を中心に、平成16年に「中之島まちみらい協議会」が設立され、当社は竹中工務店と共にその事務局を務めている。会員数は現在29社、各企業間で中之島とその周辺のまちづくりに関する情報・認識を共有しながら、各種提案、プロモーション活動、行政との調整などを行なっている。(ホームページは、http://www.nakanoshima-style.com/)

■中之島都市ビジョンの作成とこれまでの経過■

「水都大阪のシンボルアイランド中之島」の近い将来のあるべき姿が、平成17年に「大阪中之島の都市ビジョン」として中之島まちみらい協議会によりとりまとめられた。その内容は、土地の高度利用、水辺空間などの景観整備、都市基盤整備、ソフトのまちづくりの充実など多岐にわたり、その中で、中之島線開通は大きな要素の一つとなっていた。

中之島線開通に連動あるいは時期を同じくして、都市開発、インフラ整備、花と緑・光と水のまちづくりなどハード・ソフト両面にわたる活性化活動が展開されてきた。中之島線開通が契機となり、今後も都市ビジョンの実現に向けて加速がつくことになる。

■今後に望むこと、しなければならないこと■

中之島線の開通により、ここ中之島では、これまでにも増して民間開発の促進や公共施設・インフラの充実がはかられると共に、2009年には「水都大阪2009」のメイン会場ともなり、ハード・ソフト両面において活性化の相乗効果が期待できる。まさに都市ビジョンの実現に向けて、本格的な実践の段階となってきたのである。

民間開発としては、フェスティバルホール・朝日新聞社の建替え、ダイビルの建設などが具体化しているものの、中之島を文化の軸として確たるものとするためには、4丁目の公有地における美術館など文化施設計画の早期実現が望まれる。当初計画に沿い、既存の国立国際美術館などと一体的に、水と緑豊かなゆとりの空間も併せて整備されていくことを切望する。オフィスビルが高密度化してきているこのようなエリアにこそオープンスペースも必要で、公共用地がその役割を担うべきある。貴重な公有地までも売却して行政の財源確保に充てられようとする世の中ではあるが、ここ中之島地区はそのような対象とすべきではない。文化施設やゆとりの空間は、長期的に見れば都市価値の向上につながるものである。短期的なそろばん勘定に惑わされて後世に禍根を残すことにならぬよう、文化施設やゆとりの空間の実現に向けて、官民連携して知恵を絞る必要があろう。

また、地球環境問題が盛んに議論される中、中之島線開通にとどまらず、次の段階として周辺鉄道計画路線の早期具体化がはかられ、地球にやさしい公共交通ネットワークがさらに整備されていくことを望む。民間開発においても夜も含めた景観向上に配慮すると共に、低炭素化社会を目指し、中之島の地形ならではの河川水を利用したヒートアイランド対策など環境面での工夫が随所に採用されていくことが重要である。当社は「環境共生のモデルビル」として様々な環境対策を実践した関電ビルディングを建設、平成17年より運用しており、その成果を今後の他の開発にも役立てていきたい。行政においても、環境にやさしいまちづくりを誘導して実現を促す制度構築、規制緩和がなされることを望む。

まちづくりの主役はあくまで「人」である。中之島線開通により、人々が自動車の利用なしに中之島を訪れやすくなり、ビルの足元まわりにおける集客、商業施設の整備や、遊歩道、地下歩行車道など歩行者動線の充実も大いに期待できる。大学の都心回帰により、官・民・学連携したまちづくりも可能となる。文化施設などが整備されるまでの間、公共遊休地や民間の公開空地も活用した催しが頻繁に行われて、居住する市民、勤務者、学生、来訪者、観光客など、中之島に関わる多くの人々が集い、活動し、楽しみ、語りあい、交流する、昼も夜も楽しい魅力あふれるまちとして、ここ中之島がますます発展していくことへの期待は大きい。周辺の他のまちづくり団体などとも連携しながら、まちの活性化に向けた活動が大阪全体でさらに盛り上がることを期待し、私も微力ながらそれらの活動に心をこめて関わっていきたいと考えている。

(きたの　たけひと／関西電力㈱地域共生・広報室
都市再生プロジェクトチームチーフマネジャー)



関電ビルディングのライトアップ
(平成16年12月完成)

中之島線に期待する

新線開通に期待する

ダイビル株式会社
吉村　哲

■鉄道網の利便性■

大阪と東京を行き来して仕事をしていると、自然と大阪と東京の町の違いに気付かされることが多く、その中でもとくに残念に思うのは鉄道網の利便性に格段の差があることだ。東京の鉄道網は相互乗り入れや乗換駅の総合駅化が進んでいて、利便性の高いネットワークが形成されている。それに比べ大阪の鉄道網はそれぞれの鉄道会社が他社路線との接続を不便なままにして、乗客を囲い込んでいるように思う。私が普段中之島３丁目にあるダイビルで仕事をしていて気付くのは、ＪＲ環状線の福島駅、東西線の新福島駅、阪神の福島駅の３駅がそれぞれ独立して設置されていて、どうしてもっと乗入れや乗換えの利便性が配慮されていないのだろう、いくら大阪駅が近くても不便ではないかということである。新幹線の新大阪駅も大阪駅とは淀川を挟んで離れているため、東京駅の利便性と比較すると格段に低く、せっかく十分な鉄道網が整備されているのに利便性が活かされていない。

こういった鉄道網の利便性とは別に、中之島という堂島川と土佐堀川に挟まれ、パリのノートルダム寺院が位置するシテ島を彷彿させる水の都大阪の中心地に鉄道が走っていないのは不思議なことであった。なにわ橋駅付近には東洋陶磁美術館、中央公会堂、大江橋駅付近には大阪市役所、日本銀行大阪支店、渡辺橋駅付近には、朝日新聞大阪本社、関西電力本社、国立国際美術館、大阪市立科学館、さらに近代美術館の建設も予定されている。そして中之島駅付近には大阪国際会議場、リーガルロイヤルホテルと、この中之島には大阪の国際、文化、ビジネスゾーンとして都市機能が凝縮、集積されており、今後の飛躍が期待されている地域である。京阪電車の中之島線が開業したことによって、ようやく中之島の交通基盤が整備され、既存の各最寄り駅からのアクセス不便が解消されることになり、中之島線が中之島および周辺地域の再開発促進に大きく寄与することを期待している。

■魅力あるまちづくり■

それには中之島線にただ期待するだけではなく、中之島で仕事をする人、住む人、訪れる人が中之島のまちづくりに参加することが大切だと思う。その一環として、平成16年には関西電力をはじめとして中之島地域内の企業により「中之島まちみらい協議会」が発足し、美しい水辺のまちづくりに取り組んでいる。まちづくりにとって街並みの景観は大きなテーマであって、当社もダイビルの建替えにあたっては中之島に相応しい景観形成に取り組んでいる。

中之島に訪れる人が街の賑わいを演出することになるが、そのためには魅力のあるまちづくりとともに、訪れやすい交通網が不可欠だ。今般の中之島線の開業でひとりでも多くの人が中之島にきやすくなればと願っている。そういう意味では中之島線が南北の幹線地下鉄と乗り入れ、あるいは乗換えが出来ないのは、大阪の北、南、西の人々にとってはやはり不便なことと思われる。堺筋線、御堂筋線、四つ橋線と同じ駅舎での乗換えが無理であっても、せめて地下の連絡通路で繋がっていれば、乗り換えの手間が少しは省けるのではないだろうか。

これからの中之島線には、利便性の高い交通ネットワークの形成に取り組んで欲しいと思う。少なくとも中之島駅から西へ延伸して、阪神西大阪線と繋がれば格段にその利便性は向上することになる。中之島線により、中之島が京都と結ばれたのと同様に神戸とも結ばれることになり、大阪の西の方面から中之島に来やすくなる。さらに東西だけではなく、将来なにわ筋線が中之島駅で繋がることにでもなれば、北は淀川以北と南は難波以南との鉄道網のネットワークが整い、中之島が大阪の核としてのポジションを確立できることとなるだろう。それこそが中之島線の使命であり、あるべき姿だと願っている。

（よしむら　さとし／ダイビル㈱取締役常務執行役員）



堂島川対岸からのぞむダイビルと建設中の中之島ダイビル

中之島線に期待する

水都の賑わい創出へ連携

朝日新聞社
伊藤裕章

大阪で産声を上げた朝日新聞社は今、創刊130周年を前に、中之島２丁目、３丁目のふたつの相似形の土地に、高さ約200mの超高層ツインタワー「中之島フェスティバルタワー（仮称）」を10年がかりで建設するという1000億円規模のビッグプロジェクトを進行中だ。南北に走る地下鉄四つ橋線の「肥後橋駅」が中之島地下街で直結していたが、08年10月に東西を結ぶ京阪電鉄中之島線が開通、「渡辺橋駅」が直結することで、本プロジェクトへの期待度、注目度は一気に高まった。

■四つ橋筋はさむ２棟を再開発■

平松邦夫・大阪市長が「水都大阪のシンボル」と呼ぶ中之島は、旧淀川に浮かぶ最大幅330m、長さ約３kmの細長い中州だ。本プロジェクトが位置するのは、そのほぼ中央の最もくびれた部分。現在は、四つ橋筋をはさんで、東側にフェスティバルホール、リーガグランドホテル（いずれも再開発のため閉鎖）のある新朝日ビル、西側に朝日新聞大阪本社などの入る朝日ビル・朝日新聞ビル２棟が向き合っている。

このうち新朝日ビルと朝日ビルのふたつは、日本建築学会が1920年代から60年代に建てられた建物から選定した「関西のモダニズム建築20選」（企画監修・芦屋市立美術博物館）に選ばれている。戦前の1931年に建てられた朝日ビル（設計・施工、竹中工務店）は当時の新素材アルミを多用、「日本中でもっともセンセーショナルな建物」と表現された。1958年に建てられた新朝日ビル（設計・施工、同）は13階建てで高さ45メートルと当時の日本では最も高いビルで、オフィス、放送局、2796席のフェスティバルホール、368室のホテル（数字はいずれも竣工当時）が入り、「戦後最大規模の複合商業施設」とはやされた。フェスティバルホールは、その豊かでクリアな音響が世界の著名音楽家から絶賛され、50年間に訪れた観客は約4000万人に上る。いずれもその時代の最先端を行くビルだった。

だが、名建築も築50～70年という寄る年波には勝てない。耐震性への対応にも迫られ、朝日新聞グループとしてあらゆる選択肢を検討した結果、建て替えを決断せざるを得なかった。ただ、建て替える以上は、先人にならい「時代の最先端をめざす」ことを目標に置いた。計画では、耐震性では阪神大震災の1.5倍の揺れでもビルの主要機能は維持されるという、現在の国内の超高層ではトップクラスの耐震性をそなえ、河川水利用の空調システム導入でCO_2排出を４割削減し、全館バリアフリーを実現、託児所を設けて、女性トイレの比率も高める予定だ。いずれも最先端の水準を追求したいと考えている。

■東地区は2012年度中目指す■

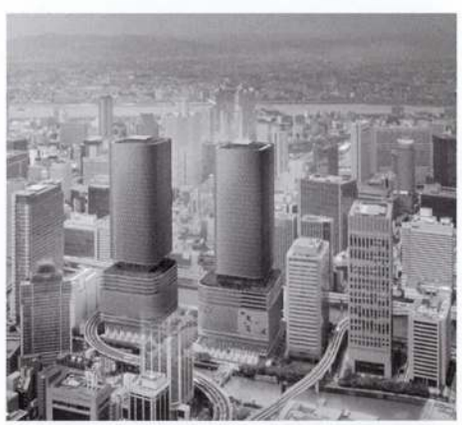
最初に手がける東地区は、09年に解体工事に着手し、12年度中の竣工を目指す。低層部（地下１階～地上３階）にレストラン、物販店などが入る商業ゾーン、その上にフェスティバルホール、さらにその上には朝日新聞大阪本社が入る。中上層部には、360度の展望と、１フロア800坪の無柱空間が広がる賃貸オフィスが22フロア展開する計画だ。西地区は東地区竣工後、５年程度をかけて、やはり200mの超高層ツインタワーを建設する。まだ白紙状態だが、低層部を中心に、東地区より大規模な商業ゾーンを設け、上層部には国際級ホテルを誘致するなど、中之島ならではの、癒しのある上質な賑わいを追求したいと考えている。キャッチコピーは「華やぎのある大人の街」だ。

ツインタワーの想定ワーカー数はざっと１万2000人。現在（3300人）の３～４倍になる計算だ。これに商業ゾーンへの集客増が加われば、本プロジェクトだけで、中之島に集まる人の数は１日平均１万人以上増える。大阪地域振興調査会によると、07年時点の中之島の１日最大滞留者数は８万6000人で、2020年には２万1000人増えて、10万7000人（12.4％増）になると試算しているが、増加分の相当数を、本プロジェクトが担うことになる。

■京都直結で立地向上■

そうした賑わいを実現するためにも、京阪中之島線への期待は極めて大きい。オフィスワーカーの住居は、より便利な京阪地区へと比重を移すだろう。京阪渡辺橋駅構内の商業ゾーンに連なるツインタワーの商業ゾーンや新生フェスティバルホールへの集客にも、京阪沿線の住民に大きな期待がかかる。さらに京都の観光スポットへの直結は、西地区で予定している国際級ホテルの立地環境を格段に向上させてくれるに違いない。本プロジェクトの竣工は、新線の開通から５年～10年遅れになるが、完成後は、近接地に移転してきた系列の朝日放送などとも連携して、「水都大阪のシンボル」にふさわしい街づくりを進めて行きたい。

（いとう ひろあき／朝日新聞社大阪中之島新ビル建設室長）



中之島フェスティバルタワー（仮称）のイメージ図
向かって右側が東地区で、新しいフェスティバルホールや朝日新聞大阪本社などが入る

中之島今昔物語

「まれびと」を迎える祝祭

夙川学院短期大学
河内厚郎


朝日会館

29年前、歌舞伎の「船乗り込み」が復活した。中之島の大阪市庁舎の南側から乗船した歌舞伎役者の一行が、カネと太鼓のお囃子をにぎやかに響かせながら、土佐堀川から東横堀川をまわり道頓堀の芝居町へ巡行するというもので、7月興行のプレイベントとして盛大に行なわれている。松竹映画『残菊物語』(昭和38年) に登場する船乗り込みのラストシーンは海外でも評判を呼んだ。

船に乗って華やかな芸能者の一団がやってくる光景は「まれびとの来臨」を想起させる。「まれびと」とは、海の彼方から訪れて幸をもたらす神のことであり、内陸部では川を遡ってくる神の姿となって現れた。今は多くが関東に住む歌舞伎役者たちが「まれびと」となって還ってくる船乗り込みの儀式は、高度成長期の大阪が外へ追いやってしまったものを「水」を媒介に呼びもどす祭礼として再興されたのである。

一方、ミナミの芝居町ではなく中之島を「まれびと」のゴールとしたのが、「大阪国際フェスティバル」(1958〜) である。1967年4月には、ワーグナーの「トリスタンとイゾルデ」「ワルキューレ」が、大ワーグナーの孫ヴィーラントの演出、ブーレーズ、シッパースの指揮、歌手にヴィントガッセン、ニルソン、ホッターという、本場ドイツでも容易に実現しない豪華陣で上演された。大阪国際フェスティバルが世界に名を轟かす契機となったのは、バイロイト祝祭劇場の引っ越し上演となった、この画期的な「バイロイト・ワーグナー・フェスティバル」であり、前年に逝った天才演出家ヴィーラント最後の舞台となった。特殊照明器具が50台輸入され、高額チケット料金にもかかわらず内外からオペラファンが集結。今も語り草となり、中之島の伝説と化す。この舞台に接したことで人生が一変したという人が少なからずいる。

大阪国際フェスティバルは、ザルツブルクやバイロイトが組織するヨーロッパ・フェスティバル連盟に加盟した東洋唯一の音楽祭でもあり、今年はザルツブルク音楽祭、モーツァルト・イヤーの革新的話題作「フィガロの結婚」が上演され、伝統と革新の祝祭は半世紀の時を刻んだ。

この本邦初の国際音楽祭を発足させたフェスティバルホールが、2013年、2700席の規模と音響の豊かさを継承しつつ、最新設備を備えた音楽の殿堂へと生まれ変わる。新ホールのホワイエからは、西側のガラスの壁面越しに土佐堀川と堂島川が一望、新ホールの入る「中之島フェスティバルタワー」(仮称) は、堂島川の水をビルの地下に取り込み、南側を流れる土佐堀川に戻すという地域冷暖房システムを採用するという。

フェスティバルホールの前身は朝日会館である。明治18年に現・中之島三丁目へ移転してきた朝日新聞が1926年 (大正15) に開館した「朝日会館」では内外の一流の音楽・演劇・映画が上演されていた。漫画家・手塚治虫は自伝に「大阪の朝日会館で、毎年正月に漫画映画大会をやる。それを母に連れられて正月3日に観に行くのが、わが家の恒例であった。ポパイやベティ・ブープものと一緒に当時まだめずらしかったディズニーのカラー漫画ものをやっていた」と記している。朝日放送 (ABC) が1951年 (昭和26) に中波放送も開始した同会館は、1962年 (昭和37) に閉館となり (後に朝日新聞ビルが建つ)、演劇・音楽事業はフェスティバルホールへと引き継がれた。


フェスティバルホール

■モダニズムの都として■

中之島がパリのシテ島に似るとは、かねてから言われてきたことである。英語のシティに当たるフランス語のシテは<都市の中心>。水都・大阪の心臓部に当たる中之島も、市庁舎・中央公会堂・国際会議場・国立の美術館をはじめ一流ホテルや関西財界のセンターなど枢要な建物が集中する。江戸時代には西国

諸藩の蔵屋敷が建ち並び、西日本の金融物流センターとして大坂の迎賓館的な役割を担ったが、明治の世になって蔵屋敷が廃止されると、島の東の先端が伸びたこともあり、「中之島公園」が設置されて噴水や夜間電灯が人々を招き寄せる名所となった。

中之島ゆかりの橋々をたどる物語といえば、古く近松門左衛門の『心中天の網島』より「心中　名残の橋尽し」が有名だが、堂島川に架かる玉江橋北詰、中津藩蔵屋敷でうまれ緒方洪庵の適塾に入門した福澤諭吉は、旦那衆が芸者に三味線を弾かせた船が通ると難波橋の上から小皿を投げつけたり、土佐堀川に小舟を浮かべてアンモニア抽出実験に成功したものの悪臭が船場に流れ込み「天神橋、天満橋から、ズット下の玉江橋辺りまで、上下に逃げ」（『福翁自伝』）たりしたこともあったという、やんちゃな青春時代を送っている。

そんな中之島が、モダニズムのイメージで語られるようになったのは、いつの頃からだろう？

明治36年（1903）、大阪で第五回内国勧業博覧会が開催されたのを機に市街地の改良が進み、日本銀行大阪支店（1903）、図書館（1904）などのモダニズム建築群が登場する。北浜の風雲児と呼ばれた相場師・株式仲買人の岩本栄之助が当時の百万円を寄付し、大正2（1913）年に着工、7年（1918）に開館して、このほど90周年を迎えた大阪市中央公会堂（旧中之島公会堂）は、ネオ・ルネッサンス様式を基調とし、アーチ状の屋根や、日本神話をモチーフにした「天地開闢」（松岡壽）など特別室の天井画・壁画も見ごたえがあり、国の重要文化財に指定された。老朽化に対応する保存・再生工事も終えて、洗練されたライトアップが好評を博している。この中央公会堂の地下に、かつて「大阪ホテル」が出店していた食堂の洋食メニューは健在だ。ベネチア風の船着き場があった大阪ホテル（大正13年に出火で全焼）は、明治時代に川口居留地で外国人相手のホテル兼洋食屋を営んだ「欧風亭」がルーツである。

モダニズムの最盛期は1920年～30年代。その象徴的な建物が、1925年（大正14）、船舶が船首を向けるように堂島川に建物の角を向けて建てられた、旧称・大阪ビルヂング（ダイビル）である。大正の半ば、大阪に住んだ江戸川乱歩は、これらの建物を目にしていたはずであり、ミステリー文学を成立させるのに欠かせないモダン都市のインスピレーションを与えられたのではあるまいか、そう推察する。

■川と橋と道の景観■

このほど国の重文に指定される淀屋橋と大江橋が鉄筋コンクリート橋となるのは、大正10年に始まった第一次都市計画事業がきっかけだ（橋の完成は昭和10年）。中之島がパリのシテ島に地形や町の生成過程が似ていると、大阪市も考えていた証拠には、大正13年に「淀屋橋、大江橋意匠設計懸賞募集」が実施された意図として、シテ島をモデルとして意識しつつ、両橋が連続した景観を形づくるということがあった。

堂島川や土佐堀川に架かる瀟洒な橋々と灯火のぬくもりが水都の夜景を形成していくのは、昭和初期。大小のアーチを組み合わせ可動堰の機能を内蔵する歩行者専用の「水晶橋」は昭和4年、天神橋は9年に鉄筋コンクリート橋となった。天神祭の鉾流し神事で知られる「鉾流橋」は、昭和七年完成。南北の橋詰の親柱に花崗岩の獅子が置かれライオン橋の愛称で親しまれる「難波橋」が鉄筋コンクリート橋となるのは、もっと早く、大正4年のこと。堺筋線が北浜から天六まで延伸されて、市電を通す構造的な強固さが求められたからであった。

その難波橋を土佐堀通りから渡ると、気持ちよく視界が開けて、中央公会堂の姿が目に飛び込んでくる。その公会堂の前に「三好達治文学碑」は建つ。

母よ―
淡くかなしきもののふるなり
紫陽花いろのもののふるなり
はてしなき並樹のかげを
そうそうと風のふくなり

時はたそがれ
母よ　私の乳母車を押せ
泣きぬれる夕陽にむかつて
轔々と私の乳母車を押せ

赤い総ある天鵞絨の帽子を
つめたき額にかむらせよ
旅いそぐ鳥の列にも
季節は空を渡るなり

淡くかなしいもののふる
紫陽花いろのもののふる道
母よ　私は知つてゐる
この道は遠く遠くはてしない道

フランスの近代詩を消化して、万葉集以来の日本の詩歌に新しい叙情をもたらした三好達治が、母への慕情を宗教的な境地にまで謳いあげた「遠くはてしない道」とは、どこの道であったろう。いかにも日本人好みの詩でありながら、街路樹やビロードの帽子が出てくるなどハイカラな趣もある…その原像は堺筋だと専門家に推定されている。

漫画家・手塚治虫の青春も、中之島と切っても切れない。終戦まもなく松屋町筋に漫画の赤本出版社が続々と現れると、阪大医学専門部の学生だった手塚は、通っていた中之島の医学部キャンパスから真っ直ぐ東へ歩いていき、難波橋の下で学生服を脱いで松屋街に向かい、コートに札束を入れて帰ったと漫画に書き入れている（『がちゃぽい一代記』）。湯川秀樹博士が邦人初のノーベル賞を受賞する理由となる「中間子理論」の発見も、阪大の中之島時代の成果であった。

遊歩道が整備されてオフィス街の憩いの場となった土佐堀川の北岸には、水上瀧太郎の小説『大阪の宿』の文学碑が建つ。大阪人気質の様々な登場人物を配し、そこはかとない水都の哀愁と季節の移り変わりを淡々と描き、市井の日常に忙しく生きながらも、しみじみと生の美しさを感じさせてくれる作品と評される。田辺聖子『感傷旅行』や宮本輝の『泥の河』など、中之島は昭和文学の舞台ともなってきた。近年、土佐堀通りの北側に新しく建つビルは、一階フロアーを透して中之島が見えるよう誘導されて、新しい都市景観をうみだしつつある。

（かわうち　あつろう／夙川学院短期大学教授）

京阪電車中之島線計画概要

全体計画

監修
中之島高速鉄道(株)
京阪電気鉄道(株)
(株)安井建築設計事務所
　総括／寺岡宏治
　建築／近藤良彦、奥貴人、
　　間渕一博、清原健史
　構造／山浦晋弘
　都市デザイン／杉野卓史
　工事監理／森田芳次、角健吾
　企画／山下修司、川上周一、
　　高橋冬扇

(株)日建設計[設備]
　総括／栗山知弘
　機械／丹羽英治
　電気／槌田延秀

写真撮影
下記以外は全て
SS大阪（津田裕之、酒井文明、田中俊史）
P47［中左下］、P48［左下］、
P50［左下］[右下]、P61、
P65［上］、P66、
P67 ㈱安井建築設計事務所
P53 時空アート
P68［左上］㈱スタジオ象
P69 関西電力㈱
P70 ダイビル㈱提供
P72 ㈱竹中工務店広報部提供

中之島駅

基本設計
京阪電気鉄道(株)
(株)安井建築設計事務所
(株)日建設計[設備]

実施設計
(株)内藤建築事務所
　総括／辻幸一郎
　建築／道家武史、長屋和孝
　構造／渡辺興一郎
　設備／丸山茂義、関修二

工事監理
京阪電気鉄道(株)
(株)内藤建築事務所
　担当／北谷仁司

建築施工（1工区）
鴻池組・清水建設・大本組共同企業体
　豊川享次、辻善央、和田哲治

建築施工（2工区）
錢高組・三井住友建設・淺沼組共同企業体
　清水友博、土江徹志、中川達也

設備施工（1・2工区）
電気　八千代電設工業㈱
空調　㈱朝日工業社
衛生　三機工業㈱

規模
建築面積：　275.01㎡
延床面積：7,270.74㎡
（対象外）：3,592.30㎡（改札内）

渡辺橋駅

基本設計
京阪電気鉄道(株)
(株)安井建築設計事務所
(株)日建設計[設備]

実施設計
共同設計(株)
　総括／西尾光昌
　建築／竹本一哉、西村確
　構造／塩見貞夫
　設備／長江勤、赤松逸美

工事監理
京阪電気鉄道(株)
共同設計(株)
　担当／竹本一哉

建築施工（3工区）
大成建設・戸田建設・鉄建・熊谷組共同企業体
　山下剛、桐石耕次、篠原好一

設備施工（3工区）
電気　きんでん㈱
空調　新日本空調㈱
衛生　三機工業㈱

規模
建築面積：　177.82㎡
延床面積：3,960.19㎡
（対象外）：3,464.14㎡（改札内）

大江橋駅

基本設計
京阪電気鉄道(株)
(株)安井建築設計事務所
(株)日建設計[設備]

実施設計
(株)大建設計
　総括／神谷俊介
　建築／衛藤年幸
　構造／宇田津明哉
　設備／戸田和宏、土田泰助

工事監理
京阪電気鉄道(株)
(株)大建設計
　担当／上林観太郎

建築施工（4工区）
鹿島・間・不動テトラ・飛島建設共同企業体
　山本享、太中裕治、山下雅和

設備施工（4工区）
電気　住友電設㈱
空調　㈱テクノ菱和
衛生　須賀工業㈱

規模
建築面積：　270.36㎡
延床面積：2,677.43㎡
（対象外）：4,832.10㎡（改札内）

なにわ橋駅

基本設計
京阪電気鉄道(株)
(株)安井建築設計事務所
(株)日建設計[設備]

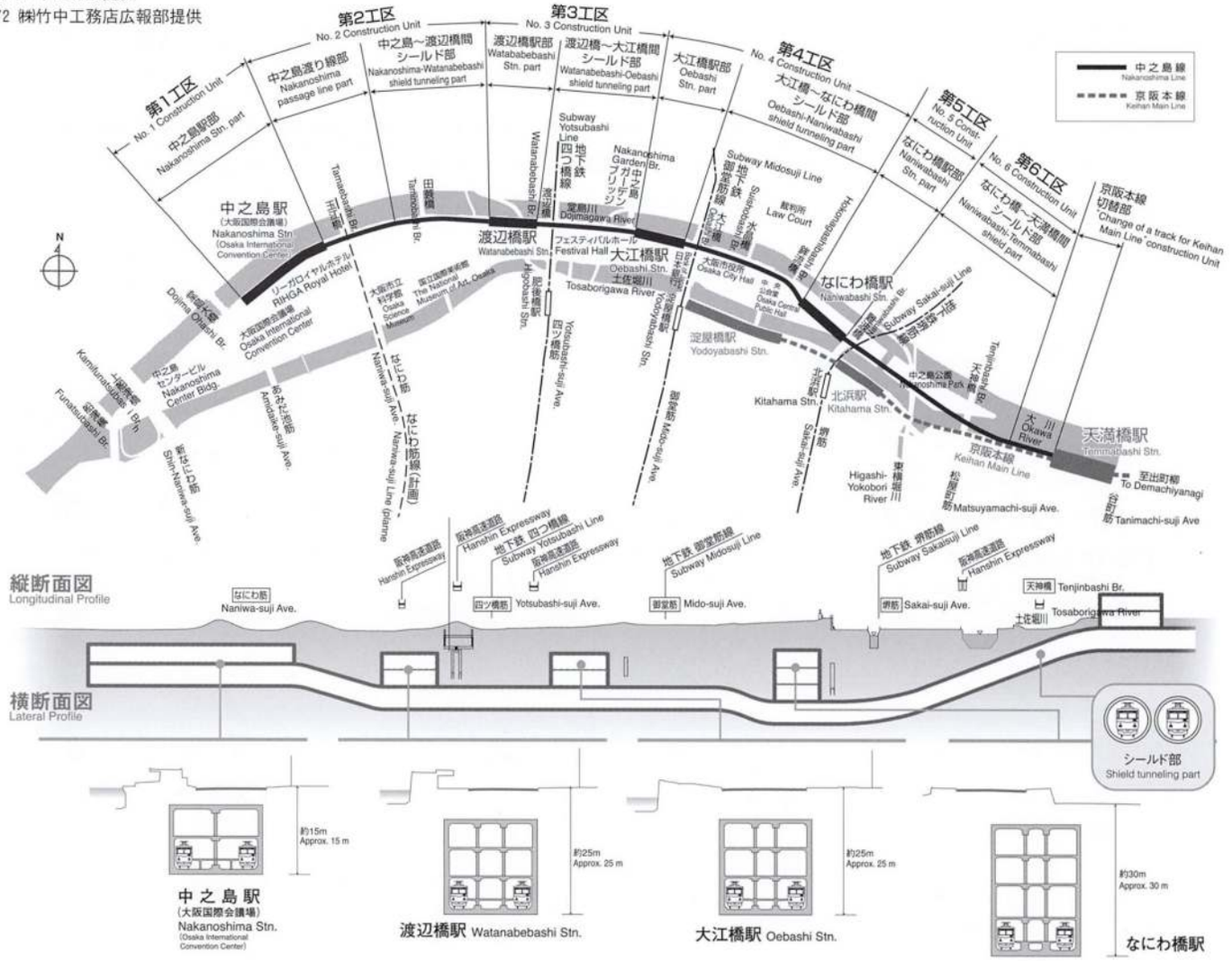
実施設計
(株)梓設計
　総括／朝野佳典
　建築／難波壮一
　構造／小林裕明、長谷川孝明
　設備／伊藤幸史、西山浩司
安藤忠雄建築研究所（出入口他）
　総括／安藤忠雄
　建築／小野龍人、宮村和寿

工事監理
京阪電気鉄道(株)
梓設計(株)
　担当／南出吉廣、難波壮一

建築施工（5工区）
大林組・前田建設・大鉄工業共同企業体
　池田恭二、原田計宜、熊内澄夫

設備施工（5工区）
電気　強電：日本電設工業㈱
　　弱電：㈱京阪エンジニアリングサービス
空調　ダイダン㈱
衛生　須賀工業㈱

規模
建築面積：　246.51㎡
延床面積：3,376.84㎡
（対象外）：5,648.62㎡（改札内）



謹賀新年　丑　平成21年元旦

名誉会長
市　川　　宏
株式会社 東畑建築事務所
取締役名誉会長
〒541-0044　大阪市中央区伏見町4－4－10　TEL(06)6202-0391

錢　高　一　善
錢　高　組
社　　長
〒550-0005　大阪市西区西本町2－2－11
なにわ筋ツインズ　ウエスト
TEL(06)6538-7801

藤　井　　實
エスケー化研 株式会社
代表取締役社長
〒567-0034　茨木市中穂積3－5－25　TEL(072)621-7720

岡　本　慶　一
日　建　設　計
代表取締役社長
〒541-8528　大阪市中央区高麗橋4－6－2　TEL(06)6203-2361

立　成　良　三
財団法人 大阪住宅センター
理事長
住宅保険、評価、住宅情報相談、住宅展示場他
〒542-0081　大阪市中央区南船場4－4－3　心斎橋東急ビル4F
TEL(06)6253-0071　FAX(06)6253-0145

古　元　眞　美
株式会社 シプタニ
相談役
〒542-0082　大阪市中央区島之内2－13－7　TEL(06)6211-7335

近　藤　　徹
不二熱学工業 株式会社
代表取締役
〒542-0081　大阪市中央区南船場2－1－1　TEL(06)6261-4321

立　野　純　三
株式会社 ユニオン
代表取締役社長
〒550-0015　大阪市西区南堀江2－13－22　TEL(06)6532-3188

宮　本　博　司
株式会社 宮本工務設計事務所　代表取締役
ISO9001認証取得（創立63年）
〒665-0022 宝塚市野上1－2－34（宮本ビル）
TEL(0797)71-0431(代表)　FAX(0797)71-5139(受専)
神戸支店　TEL＆FAX(078)997-0371
大阪支店　TEL＆FAX(072)725-3611

名誉会長
佐　野　正　一
株式会社 安井建築設計事務所
代表取締役相談役
〒540-0034　大阪市中央区島町2－4－7　TEL(06)6943-1371代

谷　　淳之介
株式会社 東畑建築事務所
代表取締役社長
〒541-0044　大阪市中央区伏見町4－4－10　TEL(06)6202-0391

村　石　建　治
株式会社 クトクコーポレーション
代表取締役社長
〒556-0021　大阪市浪速区幸町2－5－3　TEL(06)6568-3671
〒596-0011　工場・岸和田市木材町9－3　TEL(0724)37-2524
〒649-7167　工場・和歌山県伊都郡かつらぎ町移430番地
TEL(0736)22-7880

佐　野　吉　彦
株式会社 安井建築設計事務所
代表取締役社長
〒540-0034　大阪市中央区島町2－4－7　TEL(06)6943-1371代

副会長
長　　恵　祥
株式会社 大林組
取締役副社長　本店長
〒540-8584　大阪市中央区北浜東4－33　TEL(06)6946-4578

森　　悠
西日本建設業保証 株式会社
取締役社長
〒550-0012　大阪市西区立売堀2－1－2　TEL(06)6543-2553

編集委員長
設　楽　貞　樹
株式会社 安井建築設計事務所
常務取締役
〒540-0034　大阪市中央区島町2－4－7　TEL(06)6943-1371代

会長
中　井　　進
日　建　設　計
取締役常務執行役員
〒541-8528　大阪市中央区高麗橋4－6－2　TEL(06)6203-2361

森　田　司　郎
財団法人 日本建築総合試験所
理事長
〒565-0873　吹田市藤白台5－8－1　TEL(06)6872-0391
http://www.gbrc.or.jp

菅　谷　　節
ダイダン 株式会社
取締役会長
CEO
〒540-8520　大阪市西区江戸堀1－9－25　TEL(06)6441-8231

沼　田　　亘
株式会社 昭和設計
代表取締役社長
〒552-0007　大阪市港区弁天1－2－1－800　TEL(06)6575-5555

山　本　貴　士
朝陽電気 株式会社
代表取締役
〒530-0005　大阪市北区中之島3－2－4 朝日ビルディング内
TEL(06)6385-1361代表

謹賀新年　丑　平成21年元旦

設計事務所有志

株式会社 伊藤建築設計事務所

代表取締役会長　織田愈史
代表取締役社長　森口雅文

本社・名古屋事務所　〒460-0002 名古屋市中区丸の内1－15－15（桜通ビル）TEL（052）222-8611
東京事務所　〒101-0021 東京都千代田区外神田3－5－12（聖公会神田ビル）TEL（03）5294-6211

株式会社 瀬戸本淳建築研究室 ISO9001

代表取締役　瀬戸本淳

〒650－0024 神戸市中央区海岸通1－1－1 神戸郵船ビル　TEL（078）333－0138
http://www.jsao.co.jp

株式会社 東畑建築事務所

代表取締役社長　谷　淳之介

本社・大阪事務所　〒541-0044　大阪市中央区伏見町4-4-10　TEL（06）6202-0391
http://www.tohata.co.jp
大阪・東京・名古屋・九州

日建設計

代表取締役社長　岡本慶一

東京	102-8117	東京都千代田区飯田橋2－18－3	TEL（03）5226-3030
大阪	541-8528	大阪市中央区高麗橋4－6－2	TEL（06）6203-2361
名古屋	460-0008	名古屋市中区栄4－15－32	TEL（052）261-6131

安井建築設計事務所

代表取締役社長　佐野吉彦

本社　〒540－0034　大阪市中央区島町2-4-7　TEL（06）6943－1371（代表）
支社　大阪・東京・名古屋・広島・九州　http://www.yasui-archi.co.jp/

100年をつくる会社

鹿島
KAJIMA CORPORATION

本　　社：東京都港区元赤坂1丁目3番1号
関西支店：大阪市中央区城見2丁目2番22号・マルイトOBPビル
電話06（6946）3311
http://www.kajima.co.jp/

子どもたちに誇れるしごとを。

清水建設株式会社

取締役社長　宮本　洋一　　専務執行役員関西事業本部長　小橋　鴻三

本　　社　〒105-8007　東京都港区芝浦一丁目2番3号　シーバンスS館　Tel. 03 (5441) 1111
関西事業本部　〒541-8520　大阪市中央区本町三丁目5番7号　御堂筋本町ビル　Tel. 06 (6263) 2800

大地への愛　人間への愛

錢高組

社長　錢高一善

本　　店　大阪市西区西本町2－2－11
なにわ筋ツインズ　ウエスト
TEL (06) 6531－6431
本　　社　東京都千代田区一番町31番地
TEL (03) 3265－4611
支社・支店　大阪・東京・北海道・東北・北関東・千葉
横浜・北陸・名古屋・神戸・広島・四国・九州
URL　http:// www. zenitaka. co. jp/

地図に残る仕事。

TAISEI

大成建設株式会社

社　　長　山内隆司
専務関西支店長　寺下　均

http : // www. taisei. co. jp/

株式会社 竹中工務店

取締役社長　竹中統一

〒541-0053　大阪市中央区本町4－1－13　TEL（06）6252-1201（代表）

戸田建設株式会社

代表取締役社長　井　上　舜　三
常務執行役員大阪支店長　野　村　　昇

本　　社　〒104-8388　東京都中央区京橋1－7－1　　TEL 東京03(3535)1354
大阪支店　〒550-0005　大阪市西区西本町1－13－47　　TEL 大阪06(6531)6095
支　　店　東京・千葉・関東・横浜・北陸・名古屋・札幌・東北・広島・四国・九州

建材・報道・学校・団体有志等

INAX

For Precious Life

株式会社INAX関西統括支社

取締役常務執行役員支社長　加藤　和久

ECO FIRST
INAXの環境への取組が
業界トップランナーとして
環境大臣より認定されました。

〒550-0013　大阪市西区新町1-7-1　INAX大阪ビル
電話06-6539-3500(代表)
INAXホームページ・アドレス　http://www.inax.co.jp/

建築　インテリア　大工　ロボット　機械

大阪工業技術専門学校

OCT
大阪市北区天満1－8－24　〒530-0043
0120-0910-19　FAX(06)6352-2861
URL http://www.oct.ac.jp

建築ものづくり学科／2年制
インテリアデザイン学科／2年制
大工技能ものづくり学科／2年制
ロボット・機械ものづくり学科／2年制
建築士専科／1年制
建築学科Ⅱ部／2年制(夜間)



1955年創業

日報

建設業界でもっとも信頼　読まれている日刊情報紙

株式会社　建　設　日　報　社

社主　重　村　　一

〒550-0006 大阪市西区江之子島1－6－2　TEL(06)6444－2405

三和電気土木工事株式会社

代表取締役社長　森　　淳　　http://www.sanwa-e.co.jp

本　　社　〒530-0054　大阪市北区南森町1-4-19　　Tel：06-6361-6451／Fax：06-6361-6948
大阪本店　〒532-0003　大阪市淀川区宮原5-3-26　　Tel：06-6395-9130／Fax：06-6393-8123
東京支店　〒105-0013　東京都港区浜松町1-5-5　　Tel：03-3434-1586／Fax：03-3434-7419
名古屋支店　〒450-0003　名古屋市中村区名駅南3-12-22　　Tel：052-541-8221／Fax：052-541-8226
和歌山支店　〒640-8111　和歌山市新通5-11　　Tel：073-422-2539／Fax：073-422-2303
四国支店　〒771-0138　徳島市川内町平石流通団地11-1　　Tel：088-665-7888／Fax：088-665-7887
北陸支店　〒918-8239　福井市成和2-515　　Tel：0776-24-0477／Fax：0776-27-6620
本社事業部　〒471-0832　愛知県豊田市丸山町9-16　　Tel：0565-28-6983／Fax：0565-28-6982

社団法人 **日本建築材料協会**

会　長　藤井　實

〒550-0003　大阪市西区京町堀1－3－13　辰巳ビル9階　TEL(06)6443-0345　FAX(06)6443-0348
http://www.kenzai.or.jp/

社団法人 **日本建築協会京都支部**

支部長　上林研二

〒604-0944　京都市中京区押小路通柳馬場東入 京都建設会館別館 TEL(075)211-2857

社団法人 **日本建築協会中国支部**

支部長　森畑　武

〒732-0048　広島市東区山根町28番22号 下岸建設株式会社内　TEL(082)264-0709

社団法人 **日本建築協会東海支部**

支部長　佐伯　博

〒460-0008　名古屋市中区栄4－3－26（昭和ビル5階）TEL(052)261-1451

社団法人 **日本建築協会和歌山支部**

和歌山支部一同

〒640-8045　和歌山市卜半町38番地　建築士会館内　TEL(073)423-2562

社団法人 **日本建築協会本部**

常務理事兼事務局長　林　新一

〒540-6591　大阪市中央区大手前1-7-31　TEL(06)6946-6981



株式会社 INAX
関西統括支社 プロジェクト統括営業部　大阪市西区新町1-7-1 〒550-0013　TEL.06-6539-3681



N=6.0 タイプ
N=5.0 タイプ
N=4.0 タイプ
N=3.5 タイプ

オーエム工業株式会社

JIS認証取得　認証番号 JQ 0507007
規格番号 JIS H 8641 溶融亜鉛めっき
本社　〒559-0011　大阪市住之江区北加賀屋3-3-44
Tel 06-6685-0661㈹　　fax 06-6685-0670

■ アルミ積層複合材の建築用内外装材 ■

ALPOLIC®/fr

色ムラのない均一な表面塗装 ／ 優れた平面性・剛性 ／ コストパフォーマンス

三菱樹脂株式会社

産業資材事業本部　複合材事業部

http://www.alpolic.com

本　　社　〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町1-2-2(三菱樹脂ビル)　tel.03-3279-3061
関西支社　〒541-0044 大阪市中央区伏見町4-1-1(明治安田生命大阪御堂筋ビル)　tel.06-6204-8470
中部支社　〒450-0002 名古屋市中村区名駅3-28-12(大名古屋ビル)　tel.052-565-3584
九州支社　〒812-0026 福岡市博多区上川端町12-20(ふくぎん博多ビル)　tel.092-262-9405
北海道支社　〒060-0807 札幌市北区北七条西4-3-1(新北海道ビル)　tel.011-746-6241

日本の近代建築史とともに際立つ技術・際立つ美しさ

SINCE 1901

YABASHI

矢橋大理石株式会社

□本　　社　岐阜県大垣市赤坂町273　TEL.0584-71-1211
□大阪支店　大阪府枚方市西禁野1-16-1-101　TEL.072-805-5490



京阪電車中之島線
「大江橋」駅

ハイクオリティなオリジナルオーダーサッシの
限りなく高度な構造体へと進化する現代建築。
私たちが担当させていただく「窓」には今、極めて高い 品質が求められています。
この品質に責任をもってお応えして参ります。

テクノ・ナミケン株式会社

本社
〒550-0013 大阪市西区新町1丁目4-26四ツ橋中央ビル
TEL 06-6533-3855(代) FAX 06-6533-3852

名古屋営業所
〒451-0045 愛知県名古屋市西区名駅2-4-3
TEL 052-583-4132(代) FAX 052-583-4125

http://www.t-namiken.co.jp

CERA WOOD

セラウッドは中之島線の駅ホーム木質内装材に全面採用されました

ウレタン樹脂とセラミックスによる強靭な塗膜
抜群の耐久性と硬さを兼ね備えた木工用トップコート

サンユーペイント株式会社
大阪市淀川区西宮原2-4-48 TEL(06)6392-0151 FAX(06)6395-1171
http://www.sanyu-paint.co.jp

安全・快適な移動システムの向上へ

FUJITEC



フジテック株式会社

www.fujitec.co.jp

本　社 / 〒522-8588 滋賀県彦根市 ビッグウィング　TEL(0749)30-7111
大阪支社 / 〒556-0011 大阪市浪速区難波中2丁目10-70（パークスタワー）　TEL(06)6636-5900

空調・衛生・クリーンルーム設備
（設計・施工）

朝日工業社

本社・本店　東京都港区浜松町1-25-7　電話03(3432)5711
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話06(6302)2270
支　　店　北海道/東北/北関東/横浜/名古屋/中国/九州

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

ダイダン株式会社

本店・大阪本社　〒550-0002 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　電話(06)6441-8231
東京本社　〒102-0071 東京都千代田区富士見２丁目15番10号　電話(03)3261-8231
支　社　名古屋・福岡
支　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・京都・神戸・天理・岡山・広島・高松・熊本
営業所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出張所　旭川・福島・川崎・松江・徳島・下関・長崎・大分・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン
技術研究所　〒354-0044 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地　電話(0492)58-1511

www.naniwa.com
We have hope

■印刷事業　ポスター、カタログ、パンフレット、書籍、年鑑、社史、雑誌、文字、画像データ処理
■メディア事業　SPプランニング・コンサルティング、ITソリューション、web及びメディアコンテンツ企画制作

株式会社NPCコーポレーション

本　社　〒530-0043 大阪市北区天満1-9-19
tel:(06)6351-7271(代) fax:(06)6352-7479
第二ビル　〒530-0043 大阪市北区天満1-11-8
tel:(06)6351-0128(代) fax:(06)6351-0208
東京支社　〒105-0004 東京都港区浜松町1-2-1 一光浜松町ビル7F
tel:(03)3433-5211(代) fax:(03)5776-7733
（旧社名ナニワ印刷㈱、日本データネット㈱）

地球環境を守り、100年建築に貢献する
NACL のアルミ表面処理
株式会社日本電気化学工業所
http://nacl.jp　E-mail:sc@nacl.co.jp
本部営業部　〒560-0036 大阪府豊中市蛍池西町2丁目7番26号 NACLﾋﾞﾙ2階
TEL (06)6843-1235(代) FAX (06)6853-1632
東京事務所　〒111-0051 東京都台東区蔵前2丁目7-2 東京NACLﾋﾞﾙ
TEL (03)3862-0978(代) FAX (03)3862-7098

デンカCSAファミリー製品

●デンカCSA（膨張性混和材）　コンクリートのひびわれ防止に
●デンカタスコン（グラウト用無収縮材）　鉄骨ベース、逆打部の充填モルタルに
●デンカキューテックス（止水・補修用急硬セメント）　コンクリート躯体の漏水補修に
●デンカES（土質安定用急硬材）　地盤補強用薬注入
●デンカΣ1000（製品用超高度混和材）　コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に

電気化学工業株式会社
近畿地区販売店

金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（06）6332－6861
TEL 東京（03）3272－8501

浜宗産業株式会社
TEL 本社・京都・京丹後（0772）72－2220
舞　鶴（0773）76－0133

光洋物産株式会社
TEL 大阪（06）6252－6000

小浦産業株式会社
TEL 大阪（06）6443－6181

(社) 日本建築協会から

ご入会のおさそい

建築に関連する各種の活動を行っている日本建築協会に、ご入会になりませんか！

会員は、建築関係の幅広い分野（設計事務所、ゼネコン、官公庁、教育・研究機関、メーカーなど）から個人や団体が参加し、活動しております。21世紀の建築界発展のために、またあなた自身が異業種の方々と交流され、社外ネットワーク形成に役立てていただくことも可能です。

※建築に興味をお持ちの方ならどなたでもご入会いただけます（資格は問いません）。

●会員の特典

★ユニークで新鮮な内容を誇る会誌「建築と社会」が毎月配布されます。
★話題の建築物、一般では未公開の施設等の見学会や建築関係の著名な講師の講演会・講習会に会員割引で優先的に参加できます。
★協会所蔵の貴重な図書・資料の閲覧等ができます。
★会誌「建築と社会」に建築作品、研究報告、レポート、ニュース等を投稿できます。
★青年技術者の顕彰に応募できます。
★協会の各種委員会活動に参画し、様々な情報交換・社外交流の場として利用できます。

●入会申し込み方法

当会ホームページ（http://www.aaj.or.jp）の入会申込み画面に記入送信するか、入会申込フォームをプリントアウトし、FAXまたは郵送にて、下記あてお送りください。

〒540-6591
大阪市中央区大手前1-7-31
OMMビル7階
㈳日本建築協会
Eメールアドレス：soumu@aaj.or.jp
TEL：06-6946-6981　　FAX：06-6946-6984

会員の種別と会費

会員の種別			会　費
正会員	個人正会員	本部および支部地域	年額 14,400円
		上記以外の地域	年額 12,600円
	団体正会員		年額 25,000円／口
学生会員			年額　8,400円

JFDC

J. FRONT

DESIGN & CONSTRUCTION

「株式会社 J. フロント建装」は、株式会社大丸装工、松坂屋誠工株式会社、
株式会社大丸木工、日本リフェクス株式会社の 4 社が平成 20 年 9 月 1 日、合併し誕生した新会社です

Space for people

JFDC 株式会社 J.フロント建装

■東　京オフィス　東京都江東区東陽 2-4-2 新宮ビル
TEL：(03)5665-1800

■大　阪オフィス　大阪市中央区南船場 2-1-3 上山ビル
TEL：(06)4705-6200

■名古屋オフィス　名古屋市中区千代田 4-1-15
TEL：(052)323-1558

■営　業　所　札幌・仙台・福岡・沖縄

建築と社会　2009.1　Vol.90　No.1042　社団法人 日本建築協会
〒540-6591 大阪市中央区大手前1-7-31 電話 06-6946-6981 FAX. 06-6946-6988 http://www.aaj.or.jp
毎月1回1日発行 昭和24年3月19日第3種郵便物認可 ISSN 0912-8182
定価 1,200円（税込）会費に含まれます



やっぱり
モリソン。

UBシステム
アルミ複合板パネル
（全面脱着フリーシステム）





MORISON CHARACTER
MORIZOU

MORISON 森村金属株式会社

本社/工場　東大阪市角田1丁目8番1号 〒578-0912
TEL.072-962-7321 FAX.072-965-6954 IP電話 050-5509-7166
東京営業所　東京都中央区八丁堀3丁目6番6号
AADO（アド）KYOBASHIビル 8F 〒104-0032
TEL.03-3552-0191 FAX.03-3552-0190 IP電話 050-5509-7167
関東工場　千葉県富里市美沢7番7号 〒286-0225
TEL.0476-90-0031 FAX.0476-90-0032

URL●http://www.morison.co.jp　E-mail●mail@morison.co.jp

雑誌 03379-1